（様式第10）

機構名病総51　　号

令和　5 年　10 月　5 日

厚生労働大臣　　殿

開設者名　国立大学法人東海国立大学機構
機構長　松尾　清一

名古屋大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1　開設者の住所及び氏名

住所	〒464-8601　名古屋市千種区不老町
氏名	国立大学法人　東海国立大学機構

（注）　開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2　名称

名古屋大学医学部附属病院

3　所在の場所

〒466-8560　名古屋市昭和区鶴舞町65番地
電話（052）744－2111

4　診療科名

4－1　標榜する診療科名の区分

○	1	医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2	医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

（注）　上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2　標榜している診療科名

（1）内科

内科						有	
内科と組み合わせた診療科名等							
○	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科	○	4腎臓内科
	5神経内科	○	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			○	11リウマチ科
診療実績							
神経内科：脳神経内科にて医療を提供している 内分泌内科、代謝内科：糖尿病・内分泌内科にて医療を提供している。 感染症内科：内科全般にて医療を提供している。 アレルギー疾患内科またはアレルギー科：内科全般と小児科にて医療を提供している。							

（注）　1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

（2）外科

外科	有

外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科	○	4心臓外科
○	5血管外科		6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科

診療実績
乳腺外科、内分泌外科：乳腺・内分泌外科にて医療を提供している。 心臓血管外科：心臓外科、血管外科にて医療を提供している。

（注）　1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

（3）その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

（注）　標榜している診療科名に○印を付けること。

（4）歯科

歯科	有

歯科と組み合わせた診療科名					
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科

歯科の診療体制

（注）　1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

（5）（1）～（4）以外でその他に標榜している診療科名

1	児童精神科	2	病理診断科	3	リハビリテーション科	4	糖尿病・内分泌内科	5	老年内科
6	移植外科	7	形成外科	8	乳腺・内分泌外科	9	脳神経内科	10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

（注）　標榜している診療科名について記入すること。

5　病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
50				1030	1080

（単位：床）

6　医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	404	399	725
歯科医師	9	24	30.2
薬剤師	83	13	95.6
保健師	0	0	0
助産師	53	2	54.4
看護師	1091	30	1109.2
准看護師	1	0	1
歯科衛生士	7	0	7
管理栄養士	9	0	9

職種	員数
看護補助者	59
理学療法士	35
作業療法士	9
視能訓練士	11
義肢装具士	0
臨床工学士	40
栄養士	0
歯科技工士	1
診療放射線技師	73

職種		員数
診療エックス線技師		0
臨床検査	臨床検査技師	86
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師		3
医療社会事業従事者		12
その他の技術員		93
事務職員		331
その他の職員		11

（注）　1　報告書を提出する年度の10月１日現在の員数を記入すること。
2　栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3　「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7　専門の医師数

専門医名	人数（人）	専門医名	人数（人）
総合内科専門医	105	眼科専門医	10
外科専門医	106	耳鼻咽喉科専門医	10
精神科専門医	17	放射線科専門医	27
小児科専門医	26	脳神経外科専門医	22
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	47
泌尿器科専門医	14	麻酔科専門医	9
産婦人科専門医	19	救急科専門医	8
		合計	428

（注）　1　報告書を提出する年度の10月１日現在の員数を記入すること。
2　人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8　管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名　（小寺　泰弘）　任命年月日　平成　31　年　4月　1 日

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで、名古屋大学医学部附属病院材料部長を務め、医療機器安全管理責任者であった。

平成29年4月1日から平成31年3月31日まで、名古屋大学医学部附属病院医療機器総合管理部長を務め、医療機器安全管理責任者であった。

9　前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	727.6　人	5.9　人	733.5　人
1日当たり平均外来患者数	2030.3　人	76.1　人	2106.5　人
1日当たり平均調剤数	782.2　剤		
必要医師数	193　人		
必要歯科医師数	5　人		
必要薬剤師数	25　人		
必要（准）看護師数	438　人		

（注）　1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2　入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3　外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4　調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5　必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10　施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	1179 ㎡	鉄筋コンクリート	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	52 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有
無菌病室等	［固定式の場合］	床面積 535 ㎡	病床数 32 床			
	［移動式の場合］	台数 台				
医薬品情報管理室	［専用室の場合］	床面積 54 ㎡				
	［共用室の場合］	共用する室名	薬歴管理室、高度医療薬剤支援室			
化学検査室	559 ㎡	鉄筋コンクリート	（主な設備）	生化学自動分析装置、免疫自動分析装置		
細菌検査室	128 ㎡	鉄筋コンクリート	（主な設備）	バクテアラート3D、マイクロスキャン		
病理検査室	341 ㎡	鉄筋コンクリート	（主な設備）	検体検査装置クリオスタット、自動脱水包埋装置		
病理解剖室	66 ㎡	鉄筋コンクリート	（主な設備）	解剖台、クリーンベンチ、臓器撮影台		
研究室	142 ㎡	鉄筋コンクリート	（主な設備）	次世代シーケンサー、質量分析装置		
講義室	55 ㎡	鉄筋コンクリート	室数 1 室	収容定員 35 人		
図書室	41 ㎡	鉄筋コンクリート	室数 1 室	蔵書数 8400 冊程度		

（注）　1　主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2　主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11　紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	78.4　%	逆紹介率	81.9　%
算出根拠	A：紹介患者の数	15,914　人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	17,166　人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	522　人	
	D：初診の患者の数	20,970　人	

（注）　1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3　A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
柵木　充明	愛知県医師会　会長	○	愛知県医師会長を務めており，医療安全に精通しているため。	無	1
三島　信彦	AOI名古屋病院　病院長		AOI名古屋病院　病院長を務めており，医療安全に精通しているため。	無	1
長谷川　ふき子	成田・長谷川法律事務所　弁護士		医療安全管理を得意とする弁護士であり，法律に関する高い識見を有しているため。	無	1
芦田　豊	全国健康保険協会　愛知支部　支部長		全国健康保険協会愛知支部長を務めており，医療を受ける者として，医療に係る高い見識を有しているため。	無	2
中東 正文	名古屋大学　副総長		総長が指名する理事・副総長	有	3

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 本院ホームページ上に公表。	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数（人）
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	1
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断（PCR法）	68
先進医療の種類の合計数	2
取扱い患者数の合計（人）	69

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
ネシツムマブ静脈内投与療法	1人
S－1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法　膵臓がん（遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。）	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
先進医療の種類の合計数	2
取扱い患者数の合計（人）	2

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

（注）1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（注）2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること（当該医療が先進医療の場合についても記入すること）。

その他の高度医療の種類の合計数	0
取扱い患者数の合計（人）	0

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	77	56	ベーチェット病	71
2	筋萎縮性側索硬化症	72	57	特発性拡張型心筋症	95
3	脊髄性筋萎縮症	3	58	肥大型心筋症	20
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	9	60	再生不良性貧血	33
6	パーキンソン病	241	61	自己免疫性溶血性貧血	4
7	大脳皮質基底核変性症	3	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	66
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	2
10	シャルコー・マリー・トゥース病	3	65	原発性免疫不全症候群	25
11	重症筋無力症	106	66	IgA 腎症	62
12	先天性筋無力症候群	1	67	多発性嚢胞腎	36
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	95	68	黄色靭帯骨化症	7
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	77	69	後縦靭帯骨化症	81
15	封入体筋炎	5	70	広範脊柱管狭窄症	3
16	クロウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	123
17	多系統萎縮症	17	72	下垂体性ADH分泌異常症	26
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	86	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	8	74	下垂体性PRL分泌亢進症	6
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	19
21	ミトコンドリア病	6	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	65	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	60
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	112
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症（ホモ接合体）	1
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	55	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	102
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	61
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	87
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	1
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	140
34	神経線維腫症	122	89	リンパ脈管筋腫症	14
35	天疱瘡	14	90	網膜色素変性症	46
36	表皮水疱症	6	91	バッド・キアリ症候群	6
37	膿疱性乾癬（汎発型）	5	92	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性胆管炎	34
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	23
40	高安動脈炎	33	95	自己免疫性肝炎	31
41	巨細胞性動脈炎	2	96	クローン病	469
42	結節性多発動脈炎	6	97	潰瘍性大腸炎	457
43	顕微鏡的多発血管炎	23	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	6	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	15	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	6	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	バージャー病	3	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	197	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	88	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	85	106	クリオピリン関連周期熱症候群	1
52	混合性結合組織病	12	107	若年性特発性関節炎	2
53	シェーグレン症候群	26	108	TNF受容体関連周期性症候群	2
54	成人スチル病	10	109	非典型溶血性尿毒症症候群	2
55	再発性多発軟骨炎	7	110	ブラウ症候群	0

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	167	マルファン症候群	16
113	筋ジストロフィー	13	168	エーラス・ダンロス症候群	6
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	169	メンケス病	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	1	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
116	アトピー性脊髄炎	0	171	ウィルソン病	6
117	脊髄空洞症	5	172	低ホスファターゼ症	1
118	脊髄髄膜瘤	0	173	VATER症候群	0
119	アイザックス症候群	0	174	那須・ハコラ病	0
120	遺伝性ジストニア	1	175	ウィーバー症候群	0
121	神経フェリチン症	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	177	ジュベール症候群関連疾患	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	180	ATR－X症候群	0
126	ペリー症候群	0	181	クルーゾン症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	182	アペール症候群	0
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	1	183	ファイファー症候群	0
129	痙攣重積型（二相性）急性脳症	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	185	コフィン・シリス症候群	0
131	アレキサンダー病	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	187	歌舞伎症候群	0
133	メビウス症候群	0	188	多脾症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	189	無脾症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
136	片側巨脳症	0	191	ウェルナー症候群	2
137	限局性皮質異形成	0	192	コケイン症候群	0
138	神経細胞移動異常症	1	193	プラダー・ウィリ症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	194	ソトス症候群	0
140	ドラベ症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	197	1p36欠失症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	1	198	4p欠失症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	199	5p欠失症候群	0
145	ウエスト症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
146	大田原症候群	0	201	アンジェルマン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	202	スミス・マギニス症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	203	22q11.2欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	204	エマヌエル症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
151	ラスムッセン脳炎	0	206	脆弱X症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1	208	修正大血管転位症	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	209	完全大血管転位症	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	210	単心室症	0
156	レット症候群	0	211	左心低形成症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	212	三尖弁閉鎖症	1
158	結節性硬化症	10	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0
159	色素性乾皮症	0	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1
160	先天性魚鱗癬	5	215	ファロー四徴症	2
161	家族性良性慢性天疱瘡	0	216	両大血管右室起始症	0
162	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）	12	217	エプスタイン病	0
163	特発性後天性全身性無汗症	0	218	アルポート症候群	1
164	眼皮膚白皮症	0	219	ギャロウェイ・モワト症候群	0
165	肥厚性皮膚骨膜症	0	220	急速進行性糸球体腎炎	7

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	276	軟骨無形成症	3
222	一次性ネフローゼ症候群	72	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	278	巨大リンパ管奇形（頚部顔面病変）	1
224	紫斑病性腎炎	3	279	巨大静脈奇形（頚部口腔咽頭びまん性病変）	0
225	先天性腎性尿崩症	0	280	巨大動静脈奇形（頚部顔面又は四肢病変）	0
226	間質性膀胱炎（ハンナ型）	2	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
227	オスラー病	2	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
228	閉塞性細気管支炎	1	283	後天性赤芽球癆	1
229	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）	0	284	ダイアモンド・ブラックファン貧血	1
230	肺胞低換気症候群	0	285	ファンコニ貧血	0
231	α1－アンチトリプシン欠乏症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	1
232	カーニー複合	0	287	エプスタイン症候群	1
233	ウォルフラム症候群	0	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	8
234	ペルオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを除く。）	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
235	副甲状腺機能低下症	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	291	ヒルシュスプルング病（全結腸型又は小腸型）	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	292	総排泄腔外反症	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	8	293	総排泄腔遺残	1
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
240	フェニルケトン尿症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
241	高チロシン血症1型	0	296	胆道閉鎖症	9
242	高チロシン血症2型	0	297	アラジール症候群	0
243	高チロシン血症3型	0	298	遺伝性膵炎	1
244	メープルシロップ尿症	0	299	嚢胞性線維症	0
245	プロピオン酸血症	0	300	IgG4関連疾患	13
246	メチルマロン酸血症	0	301	黄斑ジストロフィー	3
247	イソ吉草酸血症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
249	グルタル酸血症1型	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
250	グルタル酸血症2型	0	305	遅発性内リンパ水腫	1
251	尿素サイクル異常症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	5
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	307	カナバン病	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	308	進行性白質脳症	0
254	ポルフィリン症	0	309	進行性ミオクローヌスてんかん	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	310	先天異常症候群	0
256	筋型糖原病	0	311	先天性三尖弁狭窄症	0
257	肝型糖原病	0	312	先天性僧帽弁狭窄症	0
258	ガラクトース－１－リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	313	先天性肺静脈狭窄症	0
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
260	シトステロール血症	0	315	ネイルパテラ症候群（爪膝蓋骨症候群）／LMX1B関連腎症	0
261	タンジール病	0	316	カルニチン回路異常症	0
262	原発性高カイロミクロン血症	0	317	三頭酵素欠損症	0
263	脳腱黄色腫症	0	318	シトリン欠損症	0
264	無βリポタンパク血症	0	319	セピアプテリン還元酵素（SR）欠損症	0
265	脂肪萎縮症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール（GPI）欠損症	0
266	家族性地中海熱	5	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
267	高IgD症候群	0	322	β―ケトチオラーゼ欠損症	0
268	中條・西村症候群	0	323	芳香族L－アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	1	324	メチルグルタコン酸尿症	0
270	慢性再発性多発性骨髄炎	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
271	強直性脊椎炎	23	326	大理石骨病	1
272	進行性骨化性線維異形成症	2	327	特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限る。）	5
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0	328	前眼部形成異常	0
274	骨形成不全症	2	329	無虹彩症	0
275	タナトフォリック骨異形成症	0	330	先天性気管狭窄症／先天性声門下狭窄症	0

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　　患　　名	患者数
331	特発性多中心性キャッスルマン病	8
332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
334	脳クレアチン欠乏症候群	0
335	ネフロン癆	0
336	家族性低βリポタンパク血症1（ホモ接合体）	0
337	ホモシスチン尿症	0
338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0

（注）「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	146
合計患者数（人）	4232

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療料）

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ 報告書管理体制加算
・ 歯科外来診療環境体制加算2	・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・ 特定機能病院入院基本料	・ ハイリスク妊娠管理加算
一般病棟 7対1入院基本料	・ ハイリスク分娩管理加算
精神病棟 7対1入院基本料	・ 呼吸ケアチーム加算
・ 救急医療管理加算	・ 術後疼痛管理チーム加算
・ 超急性期脳卒中加算	・ 後発医薬品使用体制加算3
・ 診療録管理体制加算1	・ 病棟薬剤業務実施加算1
・ 医師事務作業補助体制加算2	・ 病棟薬剤業務実施加算2
・ 急性期看護補助体制加算	・ データ提出加算
・ 看護職員夜間配置加算	・ 入退院支援加算2
・ 療養環境加算	・ 入退院支援加算3
・ 重症者等療養環境特別加算	・ 認知症ケア加算
・ 無菌治療室管理加算1	・ せん妄ハイリスク患者ケア加算
・ 無菌治療室管理加算2	・ 精神疾患診療体制加算
・ 放射線治療病室管理加算（治療用放射性同位元素による場合）	・ 精神科急性期医師配置加算
・ 放射線治療病室管理加算（密封小線源による場合）	・ 地域医療体制確保加算
・ 緩和ケア診療加算	・ 地域歯科診療支援病院入院加算
・ 精神科身体合併症管理加算	・ 特定集中治療室管理料1
・ 精神科リエゾンチーム加算	・ 総合周産期特定集中治療室管理料
・ 摂食障害入院医療管理加算	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 栄養サポートチーム加算	・ 小児入院医療管理料2
・ 医療安全対策加算1	・ 小児入院医療管理料4
・ 感染対策向上加算1	・ 看護職員処遇改善評価料64
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 重症患者初期支援充実加算	・

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療料）

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・ 入院時食事療養／生活療養（Ｉ）	・ 顎関節人工関節全置換術（歯科）
・ ウイルス疾患指導料	・ 乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術（一連につき）（MRIによるもの）
・ 外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	・ 頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・ 心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・ 乳房切除術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）
・ 糖尿病合併症管理料	・ 乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検（併用）
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独）
・ がん患者指導管理料イ	・ 乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））
・ がん患者指導管理料ロ	・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
・ がん患者指導管理料ハ	・ 胸腔鏡下拡大胸腺摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・ がん患者指導管理料ニ	・ 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・ 外来緩和ケア管理料	・ 胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）

・ 移植後患者指導管理料（臓器移植後）	・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合）
・ 移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）	・ 肺悪性腫瘍手術（壁側・臓側胸膜全切除（横隔膜、心膜合併切除を伴うもの）に限る。）
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・ 小児運動器疾患指導管理料	・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）
・ 乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・ 同種死体肺移植術
・ 腎代替療法指導管理料	・ 胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・ 一般不妊治療管理料	・ 縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・ 生殖補助医療管理料2	・ 内視鏡下筋層切開術
・ 二次性骨折予防継続管理料1	・ 食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、等
・ 二次性骨折予防継続管理料3	・ 経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
・ 下肢創傷処置管理料	・ 胸腔鏡下弁形成術
・ 院内トリアージ実施料	・ 胸腔鏡下弁形成術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・ 夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看	・ 胸腔鏡下弁置換術

・ 外来放射線照射診療料	・ 経カテーテル弁置換術（経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術）
・ 外来腫瘍化学療法診療料1	・ 経皮的僧帽弁クリップ術
・ 連携充実加算	・ 不整脈手術左心耳閉鎖術（胸腔鏡下によるもの）
・ 療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	・ 不整脈手術左心耳閉鎖術（経カテーテル的手術によるもの）
・ がん治療連携計画策定料	・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・ ハイリスク妊産婦連携指導料1	・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
・ ハイリスク妊産婦連携指導料2	・ 両心室ペースメーカー移植術（心筋電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（心筋電極の場合）
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 両心室ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）
・ こころの連携指導料（Ⅱ）	・ 植込型除細動器移植術（心筋リードを用いるもの）及び植込型除細動器交換術（心筋リードを用いるもの）
・ 薬剤管理指導料	・ 植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極抜去術
・ 医療機器安全管理料1	・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（心筋電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（心筋電極の場合）
・ 医療機器安全管理料2	・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）
・ 医療機器安全管理料（歯科）	・ 大動脈バルーンパンピング法（IABP法）

・ 在宅植込型補助人工心臓（非拍動流型）指導管理料	・ 経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
・ 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・ 補助人工心臓
・ 持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定	・ 植込型補助人工心臓（非拍動流型）
・ 持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）	・ 同種心移植術
・ 遺伝学的検査	・ 骨格筋由来細胞シート心表面移植術
・ 染色体検査の注2に規定する基準	・ 経皮的下肢動脈形成術
・ 骨髄微小残存病変量測定	・ 腹腔鏡下リンパ節群郭清術（後腹膜）
・ BRCA1／2遺伝子検査	・ 腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）
・ がんゲノムプロファイリング検査	・ 腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）
・ 先天性代謝異常症検査	・ 内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・ 抗アデノ随伴ウイルス9型（AAV9）抗体	・ 腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）
・ 抗HLA抗体（スクリーニング検査）及び抗HLA抗体（抗体特異性同定検査）	・ 腹腔鏡下胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	・ 腹腔鏡下噴門側胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下噴門側胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）

・ ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・ 腹腔鏡下胃全摘術（単純全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・ 検体検査管理加算（Ｉ）	・ 腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの）
・ 検体検査管理加算（Ⅳ）	・ バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・ 国際標準検査管理加算	・ 腹腔鏡下総胆管拡張症手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・ 遺伝カウンセリング加算	・ 腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）
・ 遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・ 胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ 体外衝撃波胆石破砕術
・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・ 腹腔鏡下肝切除術
・ 胎児心エコー法	・ 腹腔鏡下肝切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・ ヘッドアップティルト試験	・ 腹腔鏡下胆道閉鎖症手術
・ 人工膵臓検査、人工膵臓療法	・ 生体部分肝移植術
・ 長期継続頭蓋内脳波検査	・ 同種死体肝移植術
・ 長期脳波ビデオ同時記録検査1	・ 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術

・ 脳波検査判断料1	・ 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・ 終夜睡眠ポリグラフィー（安全精度管理下で行うもの）	・ 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・ 神経学的検査	・ 腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
・ 補聴器適合検査	・ 腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・ 黄斑局所網膜電図	・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ 全視野精密網膜電図	・ 腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・ ロービジョン検査判断料	・ 内視鏡的小腸ポリープ切除術
・ 内服・点滴誘発試験	・ 腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・ 前立腺針生検法（MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの）	・ 体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・ 有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査	・ 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・ 睡眠時歯科筋電図検査	・ 腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・ 画像診断管理加算3	・ 同種死体腎移植術
・ ポジトロン断層撮影	・ 生体腎移植術

・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・ 膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術（経尿道）
・ CT撮影及びMRI撮影	・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・ 冠動脈CT撮影加算	・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ 血流予備量比コンピューター断層撮影	・ 腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・ 心臓MRI撮影加算	・ 人工尿道括約筋植込・置換術
・ 乳房MRI撮影加算	・ 膀胱頸部形成術（膀胱頸部吊上術以外）、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術（鼠径部切開によるもの）
・ 小児鎮静下MRI撮影加算	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・ 頭部MRI撮影加算	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・ 腹腔鏡下仙骨腟固定術
・ 無菌製剤処理料	・ 腹腔鏡下腟式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・ 心大血管疾患リハビリテーション料（Ｉ）	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・ 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ｉ）	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
・ 運動器リハビリテーション料（Ｉ）	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る。）

・ 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	・ 腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・ がん患者リハビリテーション料	・ 胎児胸腔・羊水腔シャント術
・ リンパ浮腫複合的治療料	・ 胎児輸血術及び臍帯穿刺
・ 歯科口腔リハビリテーション料2	・ 体外式膜型人工肺管理料
・ 児童思春期精神科専門管理加算	・ 尿道形成手術（前部尿道）（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）
・ 療養生活継続支援加算	・ 尿道下裂形成手術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）
・ 認知療法・認知行動療法1	・ 陰茎形成術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）
・ 精神科作業療法	・ 陰茎全摘術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）
・ 抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）	・ 精巣摘出術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）
・ 医療保護入院等診療料	・ 会陰形成手術（筋層に及ばないもの）（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）
・ 静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）	・ 造腟術、腟閉鎖症術（遊離植皮によるもの、腸管形成によるもの、筋皮弁移植によるもの）（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）
・ 導入期加算3及び腎代替療法実績加算	・ 子宮全摘術（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）
・ 難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・ 腹腔鏡下腟式子宮全摘術（性同一性障害患者に対して行う場合に限る。）

・ 移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・ 子宮附属器腫瘍摘出術（両側）（性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。）
・ 手術用顕微鏡加算	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
・ 口腔粘膜処置	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
・ CAD／CAM冠及びCAD／CAMインレー	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
・ 歯科技工加算1及び2	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・ センチネルリンパ節加算	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。）
・ 自家脂肪注入	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術）
・ 組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）	・ 輸血管理料Ｉ
・ 四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・ コーディネート体制充実加算
・ 骨移植術（軟骨移植術を含む。）（同種骨移植（非生体）（同種骨移植（特殊なものに限る。）））	・ 自己生体組織接着剤作成術
・ 骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）	・ 同種クリオプレシピテート作製術
・ 後縦靱帯骨化症手術（前方進入によるもの）	・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ 椎間板内酵素注入療法	・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算

・ 腫瘍脊椎骨全摘術	・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・ 脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・ 歯根端切除手術の注3
・ 内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・ レーザー機器加算
・ 脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・ 麻酔管理料（Ⅰ）
・ 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・ 麻酔管理料（Ⅱ）
・ 頭蓋内電極植込術（脳深部電極によるもの（7本以上の電極による場合）に限る。）	・ 周術期薬剤管理加算
・ 癒着性脊髄くも膜炎手術（脊髄くも膜剥離操作を行うもの）	・ 放射線治療専任加算
・ 仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術（過活動膀胱）	・ 外来放射線治療加算
・ 角結膜悪性腫瘍切除術	・ 高エネルギー放射線治療
・ 緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））	・ 1回線量増加加算
・ 緑内障手術（緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）	・ 強度変調放射線治療（IMRT）
・ 緑内障手術（濾過胞再建術（needle法）	・ 画像誘導放射線治療（IGRT）
・ 網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いるもの）	・ 体外照射呼吸性移動対策加算

・ 網膜再建術	・ 定位放射線治療
・ 経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・ 人工中耳植込術	・ 画像誘導密封小線源治療加算
・ 植込型骨導補聴器（直接振動型）植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・ 病理診断管理加算2
・ 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）	・ デジタル病理画像による病理診断
・ 内喉頭筋内注入術（ボツリヌス毒素によるもの）	・ 悪性腫瘍病理組織標本加算
・ 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・ クラウン・ブリッジ維持管理料
・ 上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・ 実物大臓器立体モデルによる手術計画（頭蓋顎顔面領域の骨変形、欠損若しくは骨折又は骨盤、四肢骨若しくは脊椎の骨格に変形を伴う疾患に係るものに限る。）	・
・ 悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・ 腹腔鏡下前立腺摘除術	・
・ 膀胱水圧拡張術（間質性膀胱炎に係るものに限る。）	・
・ 内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・ インプラント義歯	・
・ 抗悪性腫瘍剤感受性検査（HDRA法又はCD－DST法）	・
・ 泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	・
・内視鏡下手術ロボットを用いた腹腔鏡下腎部分切除術	・
・LDLアフェレシス療法	・
・腹腔鏡下広汎子宮全摘術	・
・	・
・	・
・	・
・	・

（注）1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
（注）2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療（当該病院において提供していたものに限る。）から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	15	
剖　検　の　状　況	剖検症例数(例)	8
	剖検率(%)	2.5

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ゲノムコピー数変異データに基づく精神疾患病態の多階層的理解	久島 周	精神医学	3,900,000	(補)委	日本学術振興会
超早期ライフステージに着目した神経変性疾患の時空間特異性の解明	勝野 雅央	神経内科学	13,130,000	(補)委	日本学術振興会
マイオカインを標的とした運動による加齢関連疾患の制御機構の解明と創薬への応用	大内 乗有	循環器内科学（分子循環器寄附講座）	10,530,000	(補)委	日本学術振興会
脳と免疫系相互作用の観点からの多階層的研究による精神疾患病態解明	尾崎 紀夫	精神疾患病態解明学	13,780,000	(補)委	日本学術振興会
間葉系幹細胞の微小環境での炎症制御機構に着眼した次世代型免疫・炎症制御法の創成	丸山 彰一	腎臓内科学	12,220,000	(補)委	日本学術振興会
可変培養環境下で合目的に調製した細胞外小胞によるカスケード的骨再生法の開発	日比 英晴	顎顔面外科学	2,340,000	(補)委	日本学術振興会
ゲノム解析に基づく抗精神病薬の開発を指向した大脳基底核回路の神経薬理学的研究	山田 清文	薬剤部	5,070,000	(補)委	日本学術振興会
がん関連線維芽細胞の多様性による免疫チェックポイント阻害薬の効果予測の機序解明	安藤 雄一	化学療法部	5,590,000	(補)委	日本学術振興会
メタボローム解析を活用した腎血漿流量とより正確な糸球体濾過量推算式の開発	安田 宜成	腎臓内科学（特任研究ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ）	4,030,000	(補)委	日本学術振興会
孤発性ALSにおける凝集型TDP-43の生体内伝播メカニズムの解明	井口 洋平	脳神経内科	5,070,000	(補)委	日本学術振興会
心臓の硬化を制御するG蛋白質共役受容体の機能解明と心不全治療薬シーズの探索	竹藤 幹人	循環器内科学	5,070,000	(補)委	日本学術振興会
悪性中皮腫におけるオキシトシン受容体を標的とした新規治療法の開発	田中 一大	呼吸器内科	5,590,000	(補)委	日本学術振興会
CHRNB2を標的とした革新的がん抗体医薬とコンパニオン診断技術の創出研究	神田 光郎	消化器外科学	4,810,000	(補)委	日本学術振興会
膵癌細胞の早期転移とdormancyに関する機序解明とその治療法の検討	山口 淳平	消化器外科一	2,730,000	(補)委	日本学術振興会
アディポペリトクロストークに基づく卵巣癌腹膜進展に関する学際的研究基盤の創成	梶山 広明	産婦人科学	5,590,000	(補)委	日本学術振興会
特定波長光によるメラノーマ増殖・転移抑制メカニズムの解明ーGq変異を巡ってー	橋川 和信	形成外科学	3,900,000	(補)委	日本学術振興会
フレイルインデックス開発のためのコホート研究	梅垣 宏行	地域在宅医療学・老年科学	3,640,000	(補)委	日本学術振興会
新規の病態解明を企図した自閉スペクトラム症多発家系のロングリードシークエンス	木村 大樹	精神医学	7,930,000	(補)委	日本学術振興会
流体構造連成解析による大動脈瘤成長・破裂のリスク予測システムの開発	竹原 康雄	量子医学（新規低侵襲～寄附講座）	5,460,000	(補)委	日本学術振興会
ホルモン連関とクローン性造血から探る糖尿病性心筋症の原因解析	室原 豊明	循環器内科学	5,850,000	(補)委	日本学術振興会
ドライバー癌遺伝子誘導性の細胞老化を作用機序とする変異KRAS肺癌の創薬研究	佐藤 光夫	呼吸器内科学	6,760,000	(補)委	日本学術振興会
直接リプログラミングによる気道上皮細胞の効率的誘導法の確立	石井 誠	呼吸器内科学	5,590,000	(補)委	日本学術振興会
魚鱗癬での表皮脂質異常・バリア障害と炎症とのクロストークの解明と新規治療への展開	秋山 真志	皮膚科学	5,460,000	(補)委	日本学術振興会
細胞接着因子を標的とするデュアル修飾型アンチセンス核酸を用いた革新的癌治療薬創出	小寺 泰弘	消化器外科学	5,460,000	(補)委	日本学術振興会

脱気変形アルゴリズムとバードビュー機能を用いた肺表面位置情報ガイドの開発への挑戦	芳川　豊史	呼吸器外科学	4,550,000	補委	日本学術振興会
超音波併用脳内局所薬剤送達システムの臨床応用に向けた研究	齋藤　竜太	脳神経外科学	6,370,000	補委	日本学術振興会
難治性卵巣がんにおける細胞外小胞機能解析と臨床応用基盤創生	横井　暁	産科婦人科	5,720,000	補委	日本学術振興会
感覚情報処理系の解析を含めた手指巧緻運動障害の定量化と未病早期検出技術の開発	米田　英正	手の外科	4,680,000	補委	日本学術振興会
神経異常タンパク質の凝集抑制治療の開発	佐橋　健太郎	神経内科	6,500,000	補委	日本学術振興会
間葉系幹細胞カラムとiPS細胞・遺伝子編集技術を融合した新規治療システム	古橋　和拡	腎臓内科	7,020,000	補委	日本学術振興会
日本人に特徴的な白血病原性融合遺伝子の白血病発症機構の解明	早川　文彦	血液内科	6,500,000	補委	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害薬による下垂体機能障害の発症予測システムの確立	有馬　寛	糖尿病・内分泌内科学	7,280,000	補委	日本学術振興会
生体タンパク模倣短鎖ペプチドの創成と低侵襲的大動脈瘤治療法開発の試み	成田　裕司	心臓外科	6,500,000	補委	日本学術振興会
敗血症病態のトランスクリプトーム解析による創薬基盤形成	松田　直之	救急・集中治療医学	7,670,000	補委	日本学術振興会
非侵襲的シミュレーションを可能とするコネクトーム基盤型機能外科手術の開発研究	前澤　聡	脳神経先端医療開発学	7,020,000	補委	日本学術振興会
マルチモーダルVR技術を利用した外科実技教育DX	藤原　道隆	クリニカルシミュレーションセンター	7,280,000	補委	日本学術振興会
プロテオームを中心としたトランスオミクス解析による生活習慣病発症機構の解明	中杤　昌弘	先端医療開発部	11,960,000	補委	日本学術振興会
異所性神経節誘導による感覚運動統合制御システム	栗本　秀	手の外科学	7,930,000	補委	日本学術振興会
RNA修飾に対する「構造と機能」の数理科学予測基盤の構築	小関　準	システム生物学	6,500,000	補委	日本学術振興会
AI画像解析と鉗子の位置情報を利用した食道閉鎖症手術ナビゲーションシステムの開発	内田　広夫	小児外科学	7,020,000	補委	日本学術振興会
致死性血栓症の克服を目指した補体3型受容体の機能解明	長野　文彦	腎臓内科	800,000	補委	日本学術振興会
難治性熱帯皮膚病におけるマイクロバイオーム解析	村瀬　千晶	皮膚科	1,560,000	補委	日本学術振興会
IoTセンシング技術を活用した看護行動認識とプレゼンティズム分析	山下　佳子	メディカルITセンター	480,000	補委	日本学術振興会
がん薬物療法における抗がん薬曝露に対する科学的エビデンスの創出	満間　綾子	化学療法部（がんプロ）	910,000	補委	日本学術振興会
呼吸器悪性腫瘍における血管新生阻害治療の低侵襲な効果予測法を確立をめざす研究	森瀬　昌宏	呼吸器内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
炎症性腸疾患における新規粘膜関連細菌叢検出法を用いた腸粘膜炎症プロファイルの作成	中村　正直	消化器内科	910,000	補委	日本学術振興会
免疫介在性ニューロパチーの疾患活動性を反映する新規バイオマーカーの開発	飯島　正博	神経内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
非全身性血管炎性ニューロパチーの病態解明と新規治療法の開発	小池　春樹	神経内科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
産後に抑うつ状態を呈する要介入者を選定するツールの開発	中村　由嘉子	精神医療学寄附講座	780,000	補委	日本学術振興会
ホウ素中性子捕捉療法における中性子ビーム強度変調システムの開発	加茂前　健	放射線科	1,040,000	補委	日本学術振興会
肺高血圧症の閉塞性病変における平滑筋細胞形質変換のプロテオームによる網羅的解析	加藤　太一	小児科学	1,560,000	補委	日本学術振興会

先進的MRI解析によるDuchenne型筋ジストロフィーの脳構造・機能異常の解明	夏目　淳	小児科学（障害児（者）寄附講座）	1,040,000	補委	日本学術振興会
脳波−近赤外分光法同時記録を用いたサブプレート・ニューロンの脳血流動態の解明	城所　博之	小児科	1,300,000	補委	日本学術振興会
消化器がん化学療法における新規バイオマーカーとしてのDNAメチル化の探索的研究	前田　修	化学療法部（がんプロがん薬物療法学）	1,430,000	補委	日本学術振興会
HBs抗原陰性化に関わるB型肝炎ウイルス変異と腸内細菌叢が及ぼす免疫応答の解明	本多　隆	消化器内科	910,000	補委	日本学術振興会
脂肪組織由来間葉系前駆細胞を用いた血管新生療法の分子基盤探索	柴田　玲	循環器内科学（先進循環器寄附講座）	1,430,000	補委	日本学術振興会
神経型ナトリウムチャネルを標的とする新しい抗不整脈薬開発のための基盤研究	辻　幸臣	循環器先端医療研究学寄附講座	910,000	補委	日本学術振興会
重症呼吸器感染症の免疫動態解明とIL−7を含めた新規免疫療法ストラテジーの構築	進藤　有一郎	呼吸器内科	910,000	補委	日本学術振興会
特異的な間葉系幹細胞マーカーMeflinを介した腎線維化の機序解明と治療法の開発	齋藤　尚二	腎臓内科	910,000	補委	日本学術振興会
高温環境によるCKD発症の病態解明と細胞老化制御を介した治療標的の探索	佐藤　由香	血液浄化部	910,000	補委	日本学術振興会
糖尿病性腎・肝疾患に対する新規治療標的としてのBsgの有用性	小杉　智規	腎臓内科学	910,000	補委	日本学術振興会
自己炎症性角化症におけるプレシジョンメディシンの開発	武市　拓也	皮膚科	1,430,000	補委	日本学術振興会
皮膚筋炎におけるRNA編集酵素ADAR1の自己免疫応答ともたらす病態	室　慶直	皮膚科学	1,560,000	補委	日本学術振興会
血管増殖におけるVWF−HBDの同定と抑制型VEGFアイソフォームとの相互作用	松下　正	輸血部	1,300,000	補委	日本学術振興会
TKI時代のPh+ALLにおける多角的予後因子分析	西脇　聡史	先端医療開発部	1,430,000	補委	日本学術振興会
悪性リンパ腫の多様性から解く臓器指向性の解明と新規治療への応用	島田　和之	血液内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
ヒトES細胞・iPS細胞を用いた視床下部神経幹細胞の創出	須賀　英隆	糖尿病・内分泌内科学	1,690,000	補委	日本学術振興会
生体吸収性・良操作性・骨再生能を持つ多機能骨髄止血材の開発	伊藤　英樹	心臓外科（重症心不全治療センター）	1,690,000	補委	日本学術振興会
認知予備力とミトコンドリア機能の脆弱性との関連を探る	三澤　知子	麻酔科	1,690,000	補委	日本学術振興会
骨延長マウスモデルにおけるメクロジンのFGFR3抑制効果の検討	神谷　庸成	整形外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
排尿筋低活動に対する人工知能を用いた診断法の開発と非侵襲的バイオマーカーの探索	松川　宜久	泌尿器科	520,000	補委	日本学術振興会
顆粒膜細胞障害に着目した子宮内膜症における卵胞発育障害の解明	中村　智子	産科婦人科	1,560,000	補委	日本学術振興会
治療抵抗性絨毛癌に対する全ゲノム解析に基づいた複合的がん免疫治療の確立	新美　薫	産婦人科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
医療技能のデジタル化で実現する卵巣腫瘍の革新的診断システムの開発	池田　芳紀	産科婦人科	910,000	補委	日本学術振興会
エピゲノム編集による抹消血を用いた網膜色素変性病因遺伝子の発現解析法の開発	西口　康二	眼科学	1,690,000	補委	日本学術振興会
地域包括ケア時代におけるジェネラリスト看護師の臨床実践能力評価システムの開発	秋山　智弥	卒後臨床研修・キャリア形成支援センター	1,300,000	補委	日本学術振興会
呼吸器疾患患者に対するリハビリテーション方策（振動刺激療法）の新規開拓	井上　貴行	リハビリ部門	390,000	補委	日本学術振興会
人工内耳両側装用者における聴覚処理プロセスの解明	吉田　忠雄	耳鼻咽喉科学	1,170,000	補委	日本学術振興会

脂質網羅的解析による睡眠障害のメタボロミクスへの影響の検討	宮田　聖子	精神医学(精神医療学寄附講座)	1,560,000	補委	日本学術振興会
家庭用の自動血圧計に実装する動脈硬化早期診断装置の開発	宮城　英毅	メディカルITセンター	1,040,000	補委	日本学術振興会
膵疾患に対する超音波内視鏡検査の診断能向上を目的とした人工知能の臨床応用	石川　卓哉	消化器内科学	780,000	補委	日本学術振興会
我が国の伝統医学書にみられる「一字銘」の網羅的解析	川島　希	小児科	1,690,000	補委	日本学術振興会
one carbon metabolismによる膵癌制御の可能性	林　真路	消化器外科二	1,820,000	補委	日本学術振興会
近赤外を用いた次世代励起治療の開発とその機序解明研究	佐藤　和秀	呼吸器内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
DNAメチル化パネルによる多癌種鑑別診断技術の確立	清水　大	消化器外科二	2,990,000	補委	日本学術振興会
球脊髄性筋萎縮症レジストリデータを用いた病態進行に関わる因子の同定	橋詰　淳	臨床研究教育学(神経内科学)	1,300,000	補委	日本学術振興会
産後うつ病の全ゲノム・メタボローム解析による病態解明とバイオマーカーの開発	髙橋　長秀	親と子どもの心療科	1,300,000	補委	日本学術振興会
統合失調症における加齢に伴う脳神経回路病態を解明する	山本　真江里	精神科	1,300,000	補委	日本学術振興会
機械学習を用いた統合失調症の運転適性判断指標の抽出	岩本　邦弘	精神医学	910,000	補委	日本学術振興会
ノンコーディング領域と中間サイズの変異に着目した精神疾患の遺伝要因解明	久島　周	精神医学	1,690,000	補委	日本学術振興会
肝内門脈側副路の評価と肝静脈塞栓を組み込んだ拡大肝切除のためのIVRの新戦略	駒田　智大	放射線科	1,040,000	補委	日本学術振興会
MRIによる脳内リンパ系の評価法の開発：睡眠との関連による評価	田岡　俊昭	量子医学	1,430,000	補委	日本学術振興会
治療抵抗性致死的不整脈に対する定位放射線治療の研究	川村　麻里子	量子医学(量子介入治療学)	390,000	補委	日本学術振興会
微生物叢・シングルセル遺伝子解析によるウイルス性肺炎の重症化機序の解明	川田　潤一	小児科	1,430,000	補委	日本学術振興会
ChIP-Seqを用いた若年性骨髄単球性白血病の網羅的ヒストン修飾解析	村松　秀城	小児科	1,430,000	補委	日本学術振興会
小脳障害に着目した早産児の神経学的障害の病態解明と幹細胞療法の治療機序解明	佐藤　義朗	小児科(総合周産期(新生児))	1,300,000	補委	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害剤抵抗性を改善する革新的膵癌治療法の開発	飯田　忠	消化器内科(救急診療等運営本部)	1,820,000	補委	日本学術振興会
劇症型心筋炎における急性期管理法の確立および低侵襲早期診断マーカーの探索と開発	奥村　貴裕	循環器内科(重症心不全治療センター)	1,170,000	補委	日本学術振興会
新規抗炎症性アディポカインによる心臓病、腎臓病制御機構の解明	大橋　浩二	循環器内科学(分子循環器寄附講座)	1,430,000	補委	日本学術振興会
肺癌免疫チェックポイント阻害薬併用療法のバイオマーカー研究	長谷　哲成	呼吸器内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
間質性肺炎急性増悪病態における新規病的微小環境因子・ミトコンドリアDNAの役割	阪本　考司	呼吸器内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
日本の一次性膜性腎症における新規責任抗原の同定と臨床実態および病態機序の解明	秋山　真一	腎臓内科学(特任研究ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ)	1,300,000	補委	日本学術振興会
ヒトiPS細胞由来間葉系幹細胞を用いた新規腎疾患治療法の開発	田中　章仁	腎臓内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
ループス腎炎における補体副経路の役割解明と治療への応用	金　恒秀	腎不全システム治療学寄附講座	1,430,000	補委	日本学術振興会
腹膜透析関連腹膜障害における補体を介した進展機序の解明と新規抗補体治療法の開発	鈴木　康弘	腎不全システム治療学寄附講座	1,430,000	補委	日本学術振興会

ヒト急性GVHDにおける組織残存レシピエントT細胞の機能と臨床的意義の解明	村田　誠	血液・腫瘍内科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
活性値の乖離に着目した血友病性関節症の病態解明とアンメットニーズの開拓	鈴木　伸明	輸血部（検査部）	1,430,000	補委	日本学術振興会
好塩基球を介した2型炎症調節機構の解明ーアレルギー性・好酸球性肺疾患と肺恒常性	若原　恵子	呼吸器内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
グルココルチコイドによるバソプレシン分泌調節機構ー仮面尿崩症の病態解明に向けてー	萩原　大輔	糖尿病・内分泌内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
小児がんの診断治療に資する新規蛍光プローブの開発研究	城田　千代栄	小児外科	650,000	補委	日本学術振興会
消化器外科手術後感染性合併症を予防するプロバイオティクス製剤の開発	横山　幸浩	腫瘍外科学(428外科周術期～寄附講座)	1,300,000	補委	日本学術振興会
胆道癌の全ゲノム解析による化学療法抵抗性に関する遺伝子変異の探索と機能解析	水野　隆史	消化器外科一	1,300,000	補委	日本学術振興会
生体吸収性ポリマーと機能性ペプチドの複合化による再生型癒着防止人工心膜の開発	緒方　藍歌	心臓外科学（特任研究ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ）	1,300,000	補委	日本学術振興会
マクロファージ形質制御性生体吸収性ポリマーによるin situ大動脈瘤拡大抑制	柚原　悟史	心臓外科（重症心不全治療ｾﾝﾀｰ）	1,430,000	補委	日本学術振興会
ロイコトリエン-リポキシゲナーゼ代謝系をターゲットとした新規血管病治療の探索研究	川井　陽平	血管外科（一外）	1,430,000	補委	日本学術振興会
胸部大動脈ステントグラフト内挿術後脊髄障害発症機序の解明と新規予防戦略の展開	坂野　比呂志	血管外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
大動脈瘤抑制のための血流改変モデルの解析	新美　清章	血管外科（一外）	1,430,000	補委	日本学術振興会
無痛性除細動を可能にする導電性繊維電極心臓サポートネット開発	秋田　利明	心臓外科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
モーションセンサからの位置情報を利用する神経筋反応評価アルゴリズムの開発	中村　のぞみ	麻酔科	780,000	補委	日本学術振興会
術後せん妄の病態生理および睡眠障害との因果関係の解明	森　厚詞	麻酔・蘇生医学（周術期寄附講座）	1,690,000	補委	日本学術振興会
プロポフォールによる細胞障害とカルシニューリン	赤根　亜希子	麻酔科	1,430,000	補委	日本学術振興会
Real-time precision functional network mapping of the human brain for neurosurgical applications	BAGARINAO Epifanio jr tila	脳とこころの研究センター	1,430,000	補委	日本学術振興会
覚醒下脳手術における島皮質の自律神経機能に関わる新規神経基盤の解明	本村　和也	脳神経外科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
Wntシグナル経路の至適な活性化による大腿骨頭壊死症の新規治療法の応用開発	竹上　靖彦	整形外科	2,080,000	補委	日本学術振興会
代謝リプログラミングによる腱由来間葉系幹細胞の分化制御の解明	浅井　秀司	整形外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
神経再生機構における受容体型チロシンキナーゼ新規活性化リガンドの役割	町野　正明	整形外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
患者由来組織を用いた神経線維腫に対する新規治療開発：神経線維腫症1型の進行予防	生田　国大	整形外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
間質性膀胱炎の病態と制御性T細胞による免疫応答の関連性に関する研究	石田　昇平	泌尿器科	1,300,000	補委	日本学術振興会
卵巣癌細胞を貪食した腹膜中皮細胞による抗腫瘍免疫抑制の機序解明と再賦活化法の検討	小屋　美博	産婦人科学	1,560,000	補委	日本学術振興会
内リンパ水腫疾患に対する新規治療法の開発	曾根　三千彦	耳鼻咽喉科学	1,560,000	補委	日本学術振興会
網膜色素変性症治療のための高効率なゲノム編集遺伝子治療の開発	藤田　幸輔	眼科学	1,040,000	補委	日本学術振興会
神経線維腫症1型の特性から解明するScarless Wound Healing	大石　真由美	形成外科（専攻医）	1,690,000	補委	日本学術振興会

放射線性萎縮モデルにおける唾液腺幹細胞再生メカニズムの分子基盤	酒井　陽	歯科口腔外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
幹/前駆細胞のシーケンシャルな体内移動を基軸とした新しい骨再生治療の開発	藤尾　正人	顎顔面外科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
歯肉癌をターゲットとした長鎖非翻訳RNA「TUG1」の抗腫瘍効果の検討	市村　典久	歯科口腔外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
地方自治体がポピュレーションストラテジーとして行う減塩対策事業の費用対効果の評価	佐藤　寿一	総合診療科	780,000	補委	日本学術振興会
デジタルテクノロジーについていけない教職員の苦悩	近藤　猛	総合診療科	1,040,000	補委	日本学術振興会
サルコペニア患者に対する腸内細菌叢への介入による効果的な運動療法の開発	石津　洋二	消化器内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
高齢消化器癌手術症例における術後自立度低下に関するリスク評価と介入の有効性の検討	田中　千恵	消化器外科二	1,170,000	補委	日本学術振興会
AIを活用した気管支腔内超音波断層法（EBUS)画像解析	岡地　祥太郎	呼吸器内科	2,210,000	補委	日本学術振興会
リアルワールドデータを用いた新たな臨床研究における品質マネジメント基盤の構築	諸橋　朱美	先端医療開発部	1,560,000	補委	日本学術振興会
胎児に対する免疫学的寛容を誘導するマクロファージの同定	大木　拓究人	手の外科学	1,690,000	補委	日本学術振興会
DNA付加体の同定による膵癌発癌メカニズムの解明	服部　憲史	消化器外科二	1,690,000	補委	日本学術振興会
腎芽腫メタボローム解析（尿/組織）による診断マーカーとオンコメタボライト探索	岡本　眞宗	小児がん治療センター（小児外科）	1,430,000	補委	日本学術振興会
CAR-T細胞機能を向上させるCAR構造の最適化	西尾　信博	先端医療開発部（小児科学）	1,690,000	補委	日本学術振興会
精神疾患モデルマウスに特徴的な日周性活動量・体温変化	森　大輔	脳とこころの研究センター	2,470,000	補委	日本学術振興会
高齢がん患者における免疫チェックポイント阻害薬のバイオマーカー探索	下方　智也	化学療法部（がんプロ）	1,300,000	補委	日本学術振興会
RNA結合蛋白質FUSの機能異常に伴う筋萎縮側索硬化症のシナプス病態解明研究	横井　聡	神経内科学	1,690,000	補委	日本学術振興会
中脳から捉える22q11.2欠失症候群患者の脳内分子・細胞病態	有岡　祐子	先端医療開発部	1,690,000	補委	日本学術振興会
稀なゲノム変異に着目した統合失調症脳組織表現型の神経病理解析	鳥居　洋太	精神科	1,040,000	補委	日本学術振興会
人工知能を用いたバーチャル高分解能CTによる肺癌の過去・未来画像シミュレーション	岩野　信吾	量子医学	1,300,000	補委	日本学術振興会
深層学習を用いた脳深部の高精細MR画像　～7テスラ超高磁場MR画像に迫る～	中根　俊樹	放射線科	2,600,000	補委	日本学術振興会
シングルセル遺伝子発現解析を用いた小児骨髄不全症の病態解明	成田　敦	小児科	1,690,000	補委	日本学術振興会
SGA児の低酸素性虚血性脳症における重症化機序解明とMuse細胞療法の研究	早川　昌弘	小児科（総合周産期（新生児））	1,430,000	補委	日本学術振興会
横紋筋肉腫メタボローム解析（尿/組織）による診断マーカーとオンコメタボライト探索	住田　亙	小児外科（小児がん治療センター）	1,430,000	補委	日本学術振興会
メタゲノム解析とオミクス解析を用いたFontan術後蛋白漏出性胃腸症の病態解明	郷　清貴	小児科	1,430,000	補委	日本学術振興会
膵癌早期診断を目的とした、IPMNの病変及び周囲背景膵における遺伝子変異解析	大野　栄三郎	消化器内科	2,470,000	補委	日本学術振興会
心臓-副腎連関メディエーターとしてのケトン体の役割と心不全悪化予防への臨床展開	坂東　泰子	循環器内科	1,950,000	補委	日本学術振興会
肺細動脈内皮細胞で特徴的変化を示す分子に着目した肺高血圧症への新規治療戦略の開発	加藤　勝洋	循環器内科	1,300,000	補委	日本学術振興会

非可逆的電気穿孔法の出力設定最適化と心室性不整脈治療への応用に関する検討	因田　恭也	循環器内科学	2,080,000	補委	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害薬による自己抗体関連有害事象の検証を目的とした研究	森本　竜太	循環器内科	1,820,000	補委	日本学術振興会
脂肪組織由来間葉系前駆細胞を用いたリンパ浮腫に対するリンパ管新生療法の開発研究	清水　優樹	循環器内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
難治性ネフローゼ症候群のエネルギー代謝動態から迫る新たな治療標的の探索	前田　佳哉輔	腎臓内科	1,950,000	補委	日本学術振興会
補体関連蛋白の遺伝子変異と自己抗体の存在に着目したC3腎症の病因・病態解明	水野　正司	腎不全システム治療学寄附講座	1,950,000	補委	日本学術振興会
慢性腎臓病患者における生体内細菌叢をターゲットにした新規抗老化療法の開発	加藤　佐和子	腎臓内科学（特任研究ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ）	2,080,000	補委	日本学術振興会
aHUS早期診断及び抗補体薬の適応判断に必要な補体機能検査開発	加藤　規利	腎臓内科	1,950,000	補委	日本学術振興会
急性骨髄性白血病で高発現する好中球エラスターゼの機能解明と新規治療開発	石川　裕一	血液内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
CUL5の発現抑制を介したT細胞の活性制御のメカニズム解明とその臨床応用	寺倉　精太郎	血液内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
線溶・抗線溶のバランスを捉える包括的線溶系スクリーニング検査法の開発研究	鈴木　敦夫	臨床検査部門	1,690,000	補委	日本学術振興会
CTLA-4およびPD-1阻害による下垂体障害マウスモデルを用いた自己抗原の解明	岩間　信太郎	糖尿病・内分泌内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
クローン病術後抗TNFα抗体維持療法の有効性と安全性に関する検討	中山　吾郎	消化器外科学	260,000	補委	日本学術振興会
膵癌における低酸素応答性エレメントのターゲット遺伝子群の同定	猪川　祥邦	消化器外科二	1,560,000	補委	日本学術振興会
胆道癌における融合型ノンコーディングRNAの機能解明と臨床応用	國料　俊男	消化器外科一（530ゲノム医療センター）	1,690,000	補委	日本学術振興会
大動脈ステントグラフト術後タイプ2エンドリークに対する新規診断・治療戦略の開発	杉本　昌之	血管外科	1,950,000	補委	日本学術振興会
大動脈瘤におけるマクロファージAIM炎症機構の解明と治療法の開発	寺澤　幸枝	心臓外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
M2マクロファージによる効率的大動脈瘤治療法の確立	所　正佳	心臓外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
感染を予防・制御する抗菌性ポリマー人工血管の創出	六鹿　雅登	心臓外科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
経カテーテル僧帽弁置換のための安定した経心房中隔アクセス法の確立	徳田　順之	心臓外科	2,210,000	補委	日本学術振興会
線維芽細胞の多様性理解に基づく肺線維症合併肺癌の病態の解明と治療戦略の探索	仲西　慶太	呼吸器外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
脳死関連肺障害の病態解明と予防・治療法の開発ーNPY,VEGFと腸換気法の検討	西脇　公俊	麻酔・蘇生医学	2,080,000	補委	日本学術振興会
ビッグデータと凝固プロファイリングによる敗血症性凝固障害主要メカニズムの解明	春日井　大介	救急科	780,000	補委	日本学術振興会
もやもや病脳動脈COL15A1発現低下のエピゲノム制御機構と病態生理の解明	荒木　芳生	眼科学	2,340,000	補委	日本学術振興会
塩基性ヘリックスループヘリックス転写機構制御と細胞治療を融合する神経再生治療開発	西村　由介	脳神経外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
小児大腿骨頭壊死症の線維化を中心とした病態解明と新規骨再生促進薬の開発	三島　健一	整形外科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
超音波関節鏡を併用した次世代型関節鏡ARシステムの開発	山本　美知郎	手の外科学	1,560,000	補委	日本学術振興会
FGFR3インヒビターのマウスモデルへの長期投与と作用機序の検討	松下　雅樹	整形外科	1,300,000	補委	日本学術振興会

AIによる前立腺癌病理情報に基づく遺伝子変異診断法の開発	加藤　真史	泌尿器科	3,900,000	補委	日本学術振興会
早産児の神経学的予後向上に向けた病態解明～腸脳相関に着目して～	小谷　友美	産婦人科学（総合周産期（生殖））	1,170,000	補委	日本学術振興会
腫瘍特異抗体を用いた蛍光イメージングのリンパ節転移への治療応用	西尾　直樹	耳鼻咽喉科学	1,690,000	補委	日本学術振興会
寄生虫感染とシリコーンオイル使用眼で観察される網膜障害の原因はフェロトーシスか？	兼子　裕規	眼科	1,560,000	補委	日本学術振興会
NOTCH2NLC 遺伝子上のGGC リピート配列延長の網膜変性への関与	上野　真治	眼科学	520,000	補委	日本学術振興会
被膜拘縮を抑制するペプチドコーティング乳房インプラントの開発	神戸　未来	形成外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
病院情報システムを活用した臨床試験データ品質管理手法の確立	鍬塚　八千代	先端医療開発部	1,560,000	補委	日本学術振興会
高度専門性をもつ医療安全管理者人材養成プログラムの開発と効果測定	平松　真理子	患者安全推進部	1,300,000	補委	日本学術振興会
精神科診療ガイドラインの利用実態と今後の普及促進に必要な条件に関する研究	小笠原　一能	卒後臨床研修・ｷｬﾘｱ形成支援ｾﾝﾀｰ	780,000	補委	日本学術振興会
運動器疾患をターゲットとした生活習慣・栄養摂取に関するバイオマーカー探索	関　泰輔	整形外科	2,470,000	補委	日本学術振興会
EPAを用いたエキスパート外科医育成のための評価基準の開発	髙見　秀樹	消化器外科二	780,000	補委	日本学術振興会
多層的解析による精神疾患の脳・心臓病態解明：Diseasomeの具現化へ	尾崎　紀夫	精神疾患病態解明学	6,500,000	補委	日本学術振興会
生体内微量体液に対する革新的がん細胞外小胞Heterogenitey解析	横井　暁	産科婦人科	9,100,000	補委	日本学術振興会
超音波併用脳内局所広範囲薬剤投与法を用いた画期的なアルツハイマー病新規治療法開発	齋藤　竜太	脳神経外科学	2,080,000	補委	日本学術振興会
広域Caイメージングとトランスオミックスによるレビー小体病シナプス病態の解明	勝野　雅央	神経内科学	3,120,000	補委	日本学術振興会
分化誘導型アイソフォーム誘導療法によるMEF2D融合遺伝子陽性白血病治療	早川　文彦	血液内科	1,820,000	補委	日本学術振興会
臓器嗜好性に焦点をあてた食道癌転移の分子機序解明からの創薬研究	小寺　泰弘	消化器外科学	2,080,000	補委	日本学術振興会
合併症軽減をめざした新規破骨細胞分化抑制薬の開発	西田　佳弘	整形外科（ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科）	2,600,000	補委	日本学術振興会
腹腔内細胞コミュニケーションが誘導するオカルト播種の休眠維持環境構築のメカニズム	梶山　広明	産婦人科学	2,340,000	補委	日本学術振興会
可塑性の制御による固形癌の革新的治療法の開発	赤松　秀輔	泌尿器科学	2,080,000	補委	日本学術振興会
胆膵疾患の十二指腸主乳頭擦過採取による表在細菌叢プロファイル作成と臨床応用の探索	川嶋　啓揮	消化器内科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
運動ニューロン疾患の初期軸索病態の解明	佐橋　健太郎	神経内科	3,120,000	補委	日本学術振興会
遠位型遺伝性運動ニューロパチー7型の病態解明と病態抑止療法の開発	井口　洋平	脳神経内科	2,600,000	補委	日本学術振興会
長鎖非翻訳RNAを標的とする変異KRAS肺癌の合成致死治療の開発	佐藤　光夫	呼吸器内科学	3,250,000	補委	日本学術振興会
糸球体周囲マクロファージは基底膜を貫く樹状突起によりポドサイト恒常性を維持する	古橋　和拡	腎臓内科	4,160,000	補委	日本学術振興会
食がもたらす喜びと行動を評価する解析システムの開発と脳内機序の解明	溝口　博之	薬剤部	3,250,000	補委	日本学術振興会
精神疾患に関わる環境要因による脳内機能形態変化のメカニズムと意義の解明	肥田　裕丈	薬剤部	650,000	補委	日本学術振興会

乳がん術後薬物療法の治療意思決定に関わるプロセス	高野　悠子	化学療法部	260,000	補委	日本学術振興会
口腔領域の身体症状症（疼痛が主症状）における治療反応性予測因子を同定する	徳倉　達也	精神科	1,040,000	補委	日本学術振興会
新しいヒス束ペースメーカの長期予後と刺激伝導系の解明を目指した多施設共同研究	柳澤　哲	循環器内科学（先進循環器寄附講座）	910,000	補委	日本学術振興会
アレルゲン特異的IgG4の経皮的感作、脱感作における機能解析	桃原　真理子	皮膚科	3,528,301	補委	日本学術振興会
分子状水素水を用いた間質性肺炎に対する新たな治療法の開発	尾関　直樹	呼吸器外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
仮想胸腔鏡のみによる呼吸器外科手術の実現	中村　彰太	呼吸器外科	650,000	補委	日本学術振興会
直腸癌の免疫微小環境に与える術前化学療法の影響と新規治療レジメンの開発	小倉　淳司	消化器外科一	1,040,000	補委	日本学術振興会
強T2強調3D-FLAIR画像を用いた髄膜リンパ管の評価および神経疾患の病態解明	中道　玲瑛	放射線科	780,000	補委	日本学術振興会
悪性神経膠腫放射線治療における高精度/高再現性標的体積決定法の開発	髙瀬　裕樹	放射線科	650,000	補委	日本学術振興会
脳磁場計測による小児急性脳炎脳症後の脳神経ネットワークの解明	山本　啓之	小児科	1,040,000	補委	日本学術振興会
幹細胞を用いた小腸再生を標的とした新生児壊死性腸炎の治療法の開発	谷口　顕信	小児科	910,000	補委	日本学術振興会
神経細胞のイオンホメオスタシスに着目した新生児慢性肺疾患に伴う神経障害の病態解明	村松　友佳子	小児科	1,040,000	補委	日本学術振興会
腸管分泌型IgA抗体に着目したirAE腸炎発症原因を探索する研究	澤田　つな騎	消化器内科（光学医療診療部）	650,000	補委	日本学術振興会
KID症候群魚鱗癬病変に対するsiRNAを用いた新規治療戦略の開拓	滝　奉樹	皮膚科	1,300,000	補委	日本学術振興会
遺伝性角化異常症における新規細菌叢特異的治療開発への戦略	村瀬　千晶	皮膚科	1,300,000	補委	日本学術振興会
成人T細胞白血病に対する複数抗原を標的とした新規T細胞療法の開発基盤	葉名尻　良	血液内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
脳室上衣繊毛ダイニン異常による非閉塞性水頭症の発症、増悪機序の分子学的解明	竹内　和人	脳神経外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
もやもや病の病変部血管の遺伝子発現解析	横山　欣也	脳神経外科	130,000	補委	日本学術振興会
脊髄腫瘍の手術戦略決定に有用な術前、術中H3F3A遺伝子プロファイリング	永島　吉孝	脳神経外科	780,000	補委	日本学術振興会
難治性麻痺克服を目指した再生医療と埋込型神経刺激デバイスによる運動機能再建	徳武　克浩	手の外科学（四肢外傷学寄附講座）	1,430,000	補委	日本学術振興会
Rspo2を用いた新たな骨再生治療	中島　宏彰	整形外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
軟骨細胞における代謝リプログラミングのメカニズムと役割の解明	寺部　健哉	整形外科（救急診療等運営本部）	1,040,000	補委	日本学術振興会
臓器連関に着目した多嚢胞性卵巣症候群の病態解析と新規治療法の開発	大須賀　智子	産婦人科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
Streptozotocinが有する聴覚障害・前庭障害の横断的な検討	杉本　賢文	耳鼻いんこう科	1,430,000	補委	日本学術振興会
幹細胞が分泌するエクソソームを用いた誤嚥性肺炎の治療法の開発	椙村　有紀子	歯科口腔外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
歯髄幹細胞由来因子と半導体レーザーを用いた皮弁再建後の治癒促進法の開発	山口　聡	歯科口腔外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
患者レジストリにおける統計学的データエラー管理手法の構築	木下　文恵	先端医療開発部	780,000	補委	日本学術振興会

地域の大規模疫学データが抗菌薬適正使用に与える影響の評価	森岡　悠	臨床感染統御学（中央感染制御部）	130,000	補委	日本学術振興会
化学療法治療を有する小児血液がん患者に対する運動・認知同時課題の認知機能への影響	森　友洋	リハビリ部門	520,000	補委	日本学術振興会
腹腔洗浄液の高深度プロテオーム解析による膵癌腹膜播種再発予測法の開発	川勝　章司	消化器外科一	1,040,000	補委	日本学術振興会
ALS患者のメタボローム異常に注目したリバーストランスレーショナル病態解析	伊藤　大輔	脳神経内科	2,210,000	補委	日本学術振興会
球脊髄性筋萎縮症におけるClチャンネル機能障害の病態解明と治療法開発	山田　晋一郎	脳神経内科	1,820,000	補委	日本学術振興会
機械学習を用いた質問紙調査解析によるレビー小体病のリスク評価システムの開発	服部　誠	神経内科	2,340,000	補委	日本学術振興会
放射線誘導免疫応答のメカニズム解明および免疫放射線治療の最適化	奥村　真之	放射線科	1,430,000	補委	日本学術振興会
人工知能を用いた画像診断報告書の自然言語処理解析に関する検討	伊藤　倫太郎	量子医学	1,170,000	補委	日本学術振興会
チロシンキナーゼ遺伝子異常による先天性心疾患を伴う症候群の発症メカニズム解析	山本　英範	小児科	1,040,000	補委	日本学術振興会
炎症性腸疾患の多様化を見据えた新規インフラマソーム標的治療法の開発	前田　啓子	消化器内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
アルコール性肝障害におけるUBXD8機能の解明	今井　則博	光学医療診療部	1,170,000	補委	日本学術振興会
ネットワーク解析を用いた腸内細菌が合成するアミノ酸と肝硬変・筋肉量の関連性の解明	山本　健太	光学医療診療部	1,690,000	補委	日本学術振興会
炎症性腸疾患関連大腸癌の免疫微小環境に影響を与える重要因子の検索	石川　恵里	消化器内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
炎症性腸疾患における線維芽細胞の多様性の生物学的意義の解明とその制御	水谷　泰之	消化器内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
心脾連関に注目した新しい心不全治療法の開発	平岩　宏章	循環器内科	260,000	補委	日本学術振興会
乳房外Paget病の遺伝子発現プロファイリングによる病態解明とバイオメーカー探索	横田　憲二	皮膚科学	910,000	補委	日本学術振興会
妊娠出産が家族性中枢性尿崩症のバソプレシンおよびオキシトシンに与える影響の解析	宮田　崇	糖尿病・内分泌内科学（特任研究ﾌﾟﾛ）	1,950,000	補委	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害薬による下垂体障害のバイオマーカーの同定	小林　朋子	糖尿病・内分泌内科	1,820,000	補委	日本学術振興会
自発運動が食事誘発性肥満マウスの視床下部炎症を抑える細胞・分子メカニズムの研究	杉山　摩利子	糖尿病・内分泌内科	2,340,000	補委	日本学術振興会
組織再生を目指したペプチドによる材料表面設計の研究	牧田　智	小児外科	2,600,000	補委	日本学術振興会
KLRG2を介した胃癌肝転移の分子病態解明とバイオマーカー開発	中西　香企	消化器外科二	2,210,000	補委	日本学術振興会
心臓外科手術における揮発性麻酔薬による予後改善効果の研究	田村　高廣	麻酔科	650,000	補委	日本学術振興会
電気生理学的手法を用いた内因性疼痛抑制能の測定法の確立	絹川　友章	麻酔科	1,040,000	補委	日本学術振興会
急性肝不全の病態解明と遺伝子治療を含めた新規創薬イノベーション	田中　卓	救急科	910,000	補委	日本学術振興会
新規オルガノイドモデルを用いた下垂体腺腫の薬剤反応メカニズムの解明	永田　雄一	脳神経外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
大腿骨壊死に対するFGFR3シグナル活性化による骨形成の検討	大澤　郁介	整形外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
ヒアルロン酸合成酵素の遺伝子導入による新たな変形性膝関節症の治療に向けて	石塚　真哉	整形外科	1,690,000	補委	日本学術振興会

進行卵巣癌の病勢制御を目指した癌関連中皮細胞の機能解析と腹膜再生治療の開発	吉原　雅人	産婦人科学	1,820,000	補委	日本学術振興会
卵巣がん1細胞レベルでのマルチトランスクリプトーム解析による発がん機構の解明	吉田　康将	産婦人科学	2,080,000	補委	日本学術振興会
早産減少を目指した新規管理法の検討～生体内水素産生能と免疫細胞Th17の関わり～	今井　健史	総合周産期母子医療センター(生殖)	1,430,000	補委	日本学術振興会
網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫の網膜障害に関与する眼内タンパクの同定	冨田　遼	眼科	1,430,000	補委	日本学術振興会
口腔扁平上皮癌における Notch 上 O-グルコース糖鎖修飾の役割の解析	浦田　悠輔	歯科口腔外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
機械学習理論を応用した進行性下顎頭吸収の発症リスク評価システムの開発	佐世　暁	歯科口腔外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
チタン表面改質によるマクロファージ活性化制御に基づいた新たな骨再生法の開発	外山　直人	外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
細胞老化が引き起こす疾患の病態解明と細胞外小胞に含まれるmiRNAの予防効果	渡邊　純奈	外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
独居高齢者に対するICTを活用した包括的フレイル予防システムの運用による介入効果	井上　愛子	老年内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
静圧検知IoTインソールを用いた動的荷重測定と解析による腰痛の発症前兆候の解明	佐伯　将臣	先端医療開発部	1,430,000	補委	日本学術振興会
持続血糖測定機会提供と学習支援を併用した糖尿病患者への新しい体験型学習方法の開発	尾上　剛史	糖尿病・内分泌内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
COVID-19の後遺症の人類学：生物医療・漢方鍼灸・アーユルヴェーダを事例に	梅村　絢美	卒後臨床研修・キャリア形成支援センター	910,000	補委	日本学術振興会
簡便な胆道癌PDOXマウスモデルの開発と応用～理想の個別化医療を目指した探索～	吉川　潤一	移植外科(二外)	1,690,000	補委	日本学術振興会
遺伝性骨髄不全症候群に対する網羅的プロテオミクス解析	若松　学	小児科	2,730,000	補委	日本学術振興会
キメラ抗原受容体を樹状細胞に組み込んだ新規細胞療法の抗腫瘍効果機序解析	向山　宣昭	耳鼻いんこう科	2,210,000	補委	日本学術振興会
In silico解析を活用した球脊髄性筋萎縮症の骨格筋病態の解明	飯田　円	神経内科学	1,690,000	補委	日本学術振興会
ポリグルタミン病における神経変性の超早期病態解明と核酸医薬開発	蛭薙　智紀	脳神経内科	2,340,000	補委	日本学術振興会
Exploring the mechanisms of synaptic dysfunction related to loss-of-TDP-43 function in the pathogenesis of ALS/FTLD	李　佳益	神経内科学	2,340,000	補委	日本学術振興会
集束超音波療法と脳機能画像解析を通した振戦性疾患の病態メカニズム解明	坪井　崇	脳神経内科(卒キャリ)	2,340,000	補委	日本学術振興会
認知予備能に関わる脳内ネットワークと血液バイオマーカーの統合解析	小倉　礼	脳とこころの研究センター	2,730,000	補委	日本学術振興会
せん妄下にみられる各精神症状の要因や予後に関する研究	立花　昌子	精神科	260,000	補委	日本学術振興会
精神障害の病態としてのヒストンメチル化異常一患者におけるゲノム変異を起点として一	加藤　秀一	親と子どもの心療科	520,000	補委	日本学術振興会
統合失調症心臓病態を反映した心循環系副作用リスク評価系の構築	奥村　啓樹	薬剤部	2,080,000	補委	日本学術振興会
原発性肺癌の予後予測：超高精細3D-CTによる腫瘍体積とFDG-PET/CT	神谷　晋一朗	放射線部	1,690,000	補委	日本学術振興会
腹部大動脈瘤形成の血行力学的なリスク因子・予防因子の考察・研究	杉山　将隆	量子医学(新規低侵襲～寄附講座)	3,510,000	補委	日本学術振興会
3次元CTを用いた微小膵癌の新規画像診断技術の確立	山雄　健太郎	光学医療診療部	2,340,000	補委	日本学術振興会
肝内マクロファージ極性と類洞内皮障害に着目したirAE肝障害の発症機序の解明	伊藤　隆徳	消化器内科	1,560,000	補委	日本学術振興会

クローン病の腸管線維化と粘膜低酸素領域との関連性の免疫学的解明	村手　健太郎	消化器内科	2,080,000	補委	日本学術振興会
NASHに対する新規治療の開発	武藤　久哲	光学医療診療部	1,560,000	補委	日本学術振興会
冠動脈疾患進展の新規曝露危険因子と好中球を介した機序及び新規予防戦略の探索	田中　哲人	循環器内科	2,340,000	補委	日本学術振興会
クローン性造血がHFpEF病態を修飾するメカニズムの解明	由良　義充	循環器内科(救急診療等運営本部)	2,080,000	補委	日本学術振興会
気管支基底細胞を標的とした特発性肺線維症の病態解明と治療薬開発	表　紀仁	呼吸器内科(救急診療等運営本部)	2,470,000	補委	日本学術振興会
血液透析患者における大動脈弁石灰化の進展様式の解明と予後予測法の開発	倉沢　史門	臨良研究教育学(腎臓内科学)	2,340,000	補委	日本学術振興会
部位別腎病理スコアと機能学的メタボローム解析を融合した新規腎病理評価系の確立	今泉　貴広	先端医療開発部	3,120,000	補委	日本学術振興会
先天性魚鱗癬の病態におけるリゾリン脂質の役割解明と新規治療標的への展開	棚橋　華奈	皮膚科	2,470,000	補委	日本学術振興会
毛孔性紅色粃糠疹V型を含めたCard14関連炎症性角化症の病態解明への挑戦	吉川　剛典	皮膚科	2,600,000	補委	日本学術振興会
自己炎症性角化症の病態形成におけるNlrp1の役割	村瀬　友哉	皮膚科	2,730,000	補委	日本学術振興会
全ゲノム解析による食道癌の周術期補助療法と早期再発に関する研究	杉田　静紀	消化器外科一	2,210,000	補委	日本学術振興会
オリガミ理論に基づいた正確な肺部分切除法の創出	門松　由佳	呼吸器外科	260,000	補委	日本学術振興会
細胞外小胞の革新的サーフェスオーム解析を用いた肺癌早期診断バイオマーカーの開発	加藤　毅人	呼吸器外科	2,470,000	補委	日本学術振興会
脳硬膜マクロファージを中心とした新たなせん妄発生機序の解明	佐藤　威仁	麻酔科	1,430,000	補委	日本学術振興会
COVID-19の過剰な呼吸ドライブを起点とした病態ダイナミクスの解明	神宮司　成弘	救急科	3,380,000	補委	日本学術振興会
低分子ヘパリンの脊髄損傷に対する治療効果	伊藤　定之	整形外科学(障害児(者)寄附講座)	2,470,000	補委	日本学術振興会
尿中miRNAsを用いた小児もやもや病の診断と病期進行予測	金森　史哲	脳神経外科学	2,080,000	補委	日本学術振興会
変形性関節症の新しい治療 ーOAモデルのCD44断片化とADAM10に注目してー	鈴木　望人	整形外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
解糖系阻害剤は関節滑膜炎の抑制、関節軟骨保護のための新規治療薬となり得るか？	大橋　禎史	整形外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
新規ヒアルロニダーゼKIAA1199活性阻害を標的とした骨肉腫に対する薬剤開発	小池　宏	整形外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
CRISPR-Cas9スクリーニングによる卵巣奇形腫悪性転化の新規治療の開発	玉内　学志	産科婦人科	2,080,000	補委	日本学術振興会
子宮内膜微小環境に着目した子宮内膜症の病態解明と抜本的新規治療法の開発	村岡　彩子	産科婦人科	1,300,000	補委	日本学術振興会
妊娠高血圧症候群による児の神経学的後障害の病態解明と先制医療への戦略	牛田　貴文	産科婦人科	1,560,000	補委	日本学術振興会
腹膜環境誘導性Notchシグナルを基軸とした卵巣癌腫瘍内不均一性の解明と標的化	杉山　麻衣	産婦人科	2,080,000	補委	日本学術振興会
革新的CAR-T細胞療法の開発を目指した腹膜播種免疫抑制機構の解明と克服	芳川　修久	産科婦人科	1,170,000	補委	日本学術振興会
内リンパ水腫の質的診断に関する新規評価法と治療のアルゴリズムの開発	小林　万純	耳鼻いんこう科	4,420,000	補委	日本学術振興会
遺伝子治療に向けた網膜色素変性の網膜微細形態評価と機能評価	川野　健一	眼科	780,000	補委	日本学術振興会

老化細胞の選択的除去による糖尿病網膜症の予防と早期治療のための薬剤開発	鈴村　文那	眼科	1,950,000	補委	日本学術振興会
細胞老化と脂肪変性・線維化に着目した後天性眼瞼下垂の原因別病態解明	清水　英幸	眼科	1,560,000	補委	日本学術振興会
遺伝性網膜変性疾患のゲノム医療実現に向けた大規模な病因遺伝子変異探索	小柳　俊人	眼科	1,820,000	補委	日本学術振興会
環境負荷に応答した幹細胞が分泌する細胞外小胞による機能的血管網構築と歯周組織再生	坂口　晃平	歯科口腔外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
プラズマ活性化乳酸リンゲル液による口腔がん細胞特異的殺傷作用のオミクス解析	佐藤　康太郎	顎顔面外科学	1,950,000	補委	日本学術振興会
アルツハイマー病における代謝調節に関わる中枢末梢相関の維持・破綻機構の解明	中井　剛	薬剤部	2,730,000	補委	日本学術振興会
幹細胞由来細胞外小胞に含まれるmiRNAを用いた薬剤性顎骨壊死の予防	渡邊　純奈	歯科口腔外科	520,000	補委	日本学術振興会
末梢神経をターゲットとした神経幹細胞移植による脱神経横隔膜の機能再建	浅見　雄太	手の外科（救急診療等運営本部）	1,560,000	補委	日本学術振興会
シングルセル解析による球脊髄性筋萎縮症の早期病態解明と治療法開発	飯田　円	神経内科学	1,560,000	補委	日本学術振興会
シングルセルシーケンス解析を応用した重症EBウイルス関連疾患の病態解析	鈴木　高子	小児科	1,560,000	補委	日本学術振興会
弱酸性腫瘍間質液のpH制御による抗癌剤治療効果の検討	砂川　真輝	腫瘍外科学(外科周術期～寄附講座)	1,560,000	補委	日本学術振興会
急性骨髄性白血病に対する新規分子標的療法の感受性規定因子および耐性機序の解明	中島　麻梨絵	血液内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
新規神経芽腫マーカー3-MTSによるリスク分類の有効性検証	中川　洋一	小児外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
メタボリックシンドロームに対する乳歯歯髄幹細胞培養上清を用いた新規治療の開発	武藤　久哲	光学医療診療部	1,560,000	補委	日本学術振興会
不完全な膠原病所見を有する間質性肺炎の肺組織遺伝子発現解析と診断マーカーの開発	表　紀仁	呼吸器内科(救急診療等運営本部)	1,560,000	補委	日本学術振興会
機械学習を用いた間質性肺炎急性増悪発症と予後の予測モデルの構築	寺町　涼	メディカルITセンター	1,300,000	補委	日本学術振興会
精神障害をもつ患者でのヒストンメチル化修飾の調節障害ーゲノム変異を起点としてー	加藤　秀一	親と子どもの心療科	1,560,000	補委	日本学術振興会
抗PD-1抗体による甲状腺での免疫関連有害事象の非再発機序の解明	安田　康紀	糖尿病・内分泌内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
神経核ごとのAVPニューロンの投射先の解析	川口　頌平	糖尿病・内分泌内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
遺伝子治療に向けた網膜色素変性の網膜微細形態評価と機能評価	川野　健一	眼科	1,430,000	補委	日本学術振興会
プラズマ活性乳酸リンゲル液を用いた口腔癌に対する新規治療法の開発	佐藤　康太郎	顎顔面外科学	1,560,000	補委	日本学術振興会
膵癌分子サブタイプの可塑性の解明とその作用機序に基づく新規診断治療法の開発	馬場　泰輔	消化器外科一	1,430,000	補委	日本学術振興会
脳波-機能的MRI同時記録による小児急性脳症後てんかんの脳内ネットワークの解明	伊藤　祐史	小児科	1,430,000	補委	日本学術振興会
皮膚バリアを担う角質細胞脂質エンベロープの形成機序の解明と魚鱗癬治療への展望	伊藤　靖敏	皮膚科（専攻医）	1,300,000	補委	日本学術振興会
加齢黄斑変性の新規治療法開発に向けた眼内環境評価と網膜形態評価	佐治木　愛	眼科	1,430,000	補委	日本学術振興会
中枢神経系原発悪性リンパ腫の治療抵抗性獲得機構の解明と新規治療法の同定	前田　紗知	脳神経外科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
下肢筋力低下の検出と足底感覚強化によりフレイルを予防するスマートインソールの開発	山賀　崇	リハビリテーション科	1,430,000	補委	日本学術振興会

臓器特異的なUBXD8の機能を主軸としたアルコール性肝障害の病態形成メカニズム	今井　則博	光学医療診療部	15,600,000	補 委	日本学術振興会
進行卵巣癌の病勢制御を目的とした腹膜マトリソームの機能・構造解明と新規治療標的化	吉原　雅人	産婦人科学	15,600,000	補 委	日本学術振興会
エンベロープウイルスの膜融合タンパク質に着目した自然免疫回避機構の解明	渡辺　崇広	ウイルス学	15,470,000	補 委	日本学術振興会
腹水中ペプチド・デグラドミクスに注目した進行卵巣癌に対する腹腔内環境戦略の創生	梶山　広明	産婦人科学	6,500,000	補 委	日本学術振興会
希少難治性皮膚疾患に関する調査研究	秋山　真志	皮膚科学	36,000,000	補 委	国立保健医療科学院
学会連携を通じた希少癌の適切な医療の質向上と次世代を担う希少がん領域の人材育成に資する研究	小寺　泰弘	消化器外科学	15,000,000	補 委	厚生労働省
間脳下垂体機能障害に関する調査研究	有馬　寛	糖尿病・内分泌内科学	15,990,000	補 委	国立保健医療科学院
子どもの死を検証し予防に活かす包括的制度を確立するための研究	沼口　敦	救急・内科系集中治療部	20,000,000	補 委	厚生労働省
院内の医療安全管理体制を定量的に評価する指標の確立と実装を行う研究	長尾　能雅	患者安全推進部	6,110,000	補 委	厚生労働省
肉腫・脳腫瘍などの希少がんを対象としたゲノム解析による予防法・診断法・治療法の開発	齋藤　竜太	脳神経外科学	1,414,400	補 委	国立大学法人東京大学
精緻な疾患レジストリーと遺伝・環境要因の包括的解析による糖尿病性腎臓病、慢性腎臓病の予後層別化と最適化医療の確立	丸山　彰一	腎臓内科学	2,500,000	補 委	学校法人川崎学園　川崎医科大学
ゲノム情報により造血幹細胞移植の最適化を目指す研究	村田　誠	血液・腫瘍内科学	63,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
認知症予防を目指した多因子介入によるランダム化比較研究	梅垣　宏行	地域在宅医療学・老年科学	3,900,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
精神障害のゲノム変異を起点としたバイオリソースと臨床情報の活用による非競争的フェーズにおける産学連携創薬の基盤構築	尾崎　紀夫	精神疾患病態解明学	19,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
精神障害のゲノム変異を起点としたバイオリソースと臨床情報の活用による非競争的フェーズにおける産学連携創薬の基盤構築	尾崎　紀夫	精神疾患病態解明学	19,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
乳児期発症のアトピー性皮膚炎の予後を追跡しアレルギーマーチへの診療の影響と危険因子を探索する前向きコホート研究	秋山　真志	皮膚科学	650,000	補 委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
植込型補助人工心臓装着予定患者を対象とした出血性合併症リスクの事前予測に基づいた個別化精密医療・最適化補助人工心臓治療の実現	六鹿　雅登	心臓外科学	208,000	補 委	国立大学法人東北大学
ゲノム情報により造血幹細胞移植の最適化を目指す研究	村田　誠	血液・腫瘍内科学	2,512,974	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
糖尿病性腎症、慢性腎臓病の重症化抑制に資する持続的・自立的エビデンス創出システムの構築と健康寿命延伸・医療最適化への貢献	丸山　彰一	腎臓内科学	1,300,000	補 委	学校法人川崎学園　川崎医科大学
t(8;21)およびinv(16)陽性AYA・若年成人急性骨髄性白血病に対する微小残存病変を指標とするゲムツズマブ・オゾガマイシン治療介入の有効性と安全性を評価する研究	清井　仁	血液・腫瘍内科学	2,340,000	補 委	国立大学法人長崎大学
川崎病冠動脈瘤発症予防のための急性期治療難治例予測診断法開発に直結するエビデンス創出研究	加藤　太一	小児科学	39,000	補 委	学校法人福岡大学
PDX治療モデルを併用した治療抵抗性急性骨髄性白血病クローンの成立過程に生じる分子病態に基づく層別化システムの確立と標的治療薬開発に関する研究	清井　仁	血液・腫瘍内科学	20,740,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
レビー小体病ハイリスク者に対するゾニサミドの有効性・安全性に関する研究	勝野　雅央	神経内科学	78,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
特発性間質性肺炎の前向きレジストリの構築とインタラクティブMDD診断システムを用いた診断標準化に基づく疫学データの創出―人工知能（AI）診断システムと新規バイオマーカーの開発―	橋本　直純	呼吸器内科学	1,040,000	補 委	国立大学法人浜松医科大学
上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験	梶山　広明	産婦人科学	260,000	補 委	国立大学法人筑波大学
患者層別化マーカー探索技術の開発／医療ニーズの高い特定疾患・薬剤に対する患者層別化基盤技術の開発	勝野　雅央	神経内科学	2,600,000	補 委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性を検証する臨床第Ⅲ相試験	小寺　泰弘	消化器外科学	910,000	補 委	静岡県立静岡がんセンター

神経・筋相互作用を標的とした運動神経疾患の病態解明と治療開発	勝野　雅央	神経内科学	1,300,000	補 ○委	学校法人愛知医科大学
肺尖部胸壁浸潤癌に対する化学放射線療法後の術前後デュルバルマブもしくはデュルバルマブ維持療法を併用した集学的治療に関する単群検証的試験（JCOG1807C）	芳川　豊史	呼吸器外科学	1,300,000	補 ○委	国立研究開発法人国立がん研究センター
可変形3次元画像による大規模バーチャル手術手技アトラスの構築と呼吸器外科手術ガイドシステムの創出	芳川　豊史	呼吸器外科学	7,800,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
手術動画の機械学習とAI画像解析による手術の定量化（鉗子の軌跡追跡による手術手技伝承システム、教育プログラムの開発）	内田　広夫	小児外科学	7,800,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
精神疾患のヒトゲノム変異を基盤とする神経回路・分子病態に関する研究	尾崎　紀夫	精神疾患病態解明学	23,400,000	補 ○委	学校法人藤田学園
精神疾患レジストリの利活用による治療効果、転帰予測、新たな層別化に関する研究	尾崎　紀夫	精神疾患病態解明学	13,000,000	補 ○委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
FTLDモデルマーモセットを用いた新規高次脳機能評価系の確立	石垣　診祐	脳神経内科	19,500,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
GD2陽性固形腫瘍に対する非ウイルスベクターを用いたキメラ抗原受容体T細胞製剤の開発	髙橋　義行	小児科学	90,090,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
小児および若年成人における再発難治CD19陽性B細胞性急性リンパ性白血病に対する同種造血細胞移植後維持療法の確立に関する研究	髙橋　義行	小児科学	4,030,000	補 ○委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
液−液相分離を正常化する核酸医薬によるFTLD治療法開発	石垣　診祐	脳神経内科	23,400,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
患者レジストリを利活用した脊柱靱帯骨化症の治療成績向上のための多施設臨床研究	今釜　史郎	整形外科学	780,000	補 ○委	国立大学法人東京医科歯科大学
血液バイオマーカーを用いた超早期アルツハイマー病コホートの構築	勝野　雅央	神経内科学	11,700,000	補 ○委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
高齢発症関節リウマチ患者の健康寿命延伸を目指した治療戦略の確立	小嶋　俊久	整形外科学	650,000	補 ○委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
ヒト多能性幹細胞を用いた下垂体前葉機能低下症への再生医療技術開発	須賀　英隆	糖尿病・内分泌内科学	29,302,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
最初期アルツハイマー病を検出する脳ナビゲーションタスクの開発とその神経回路基盤解明に関する研究開発	石垣　診祐	脳神経内科	7,085,000	補 ○委	学校法人藤田学園
難治性腎疾患の疾患・重症度分類の再定義に向けた研究開発	丸山　彰一	腎臓内科学	18,200,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
シングルセルバーコードラベル化PDXモデルによる難治性造血器腫瘍クローンの選択・進展過程に関与する分子病態の解明に関する研究	清井　仁	血液・腫瘍内科学	13,000,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
喉頭摘出者における音声変換技術を用いた自己音声の再獲得と発声補助機器の開発	西尾　直樹	耳鼻咽喉科学	16,900,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
進行リスクを判別する神経芽腫腫瘍マーカーの開発	内田　広夫	小児外科学	13,000,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
孤発性ALS 患者メタボローム ・エクソソームmiRNA・蛋白質メチル 化を起点とする双方向TR	勝野　雅央	神経内科学	87,700,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
デュアル修飾型アンチセンス核酸を用いた癌種横断的な新規治療薬の研究開発	神田　光郎	消化器外科学	28,600,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
統合失調症と自閉スペクトラム症の多階層情報の統合による病態解明	尾崎　紀夫	精神疾患病態解明学	96,070,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
無意識下の運動制御を基にした手術技術の均等化・標準化に関する研究開発	建部　将広	手の外科学（四肢外傷学寄附講座）	9,100,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
網膜神経回路機能に着目した脳一感覚ネットワークの統合的理解に基づく発達障害の治療戦略の構築	上野　真治	眼科学	4,290,000	補 ○委	国立大学法人大阪大学
肉腫・脳腫瘍などの希少がんを対象としたゲノム解析による予防法・診断法・治療法の開発	齋藤　竜太	脳神経外科学	15,600	補 ○委	国立大学法人東京大学
神経科学を活用する複合性局所疼痛症候群に対する intelligent neuromodulation system の開発	平田　仁	手の外科学	72,029,100	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
可及的摘出術が行われた初発膠芽腫に対するカルムスチン脳内留置用剤を用いた標準治療確立に関する研究	齋藤　竜太	脳神経外科学	1,300,000	補 ○委	学校法人北里研究所

臓器・組織の特異性に着目した新規免疫複合療法の開発	齋藤　竜太	脳神経外科学	1,300,000	補 ○委	国立研究開発法人国立がん研究センター
初発中枢神経原発胚細胞腫瘍に対する化学療法併用放射線治療の低侵襲化に関する研究開発	齋藤　竜太	脳神経外科学	260,000	補 ○委	国立大学法人京都大学
災害時における感覚器障害者の援助要請手段と効果的な支援提供を実現する双方向連携システムの開発と社会実装にむけた効果検証	吉田　忠雄	耳鼻咽喉科学	650,000	補 ○委	北海道公立大学法人　札幌医科大学
COVID-19感染後の精神症状を有する患者レジストリの構築と病態解明及び新規治療法の開発に資する研究	尾崎　紀夫	精神疾患病態解明学	23,400,000	補 ○委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
慢性腎臓病の発症・進展に関するヘルスケアサービスやデジタル技術介入の提言に資するエビデンスの構築	丸山　彰一	腎臓内科学	1,300,000	補 ○委	国立大学法人大阪大学
iPS細胞を用いた希少疾患の研究促進のための研究者マッチング	須賀　英隆	糖尿病・内分泌内科学	10,400,000	補 ○委	国立大学法人京都大学
COVID-19罹患後大規模コホート研究から得られた新規知見に基づく治療戦略創出	石井　誠	呼吸器内科学	1,300,000	補 ○委	学校法人　慶應義塾
固形腫瘍の代謝チェックポイントを打破するCART細胞療法の開発	齋藤　竜太	脳神経外科学	1,300,000	補 ○委	国立研究開発法人国立がん研究センター
向精神薬が自動車運転技能に与える影響の判定基準の開発	岩本　邦弘	精神医学	7,800,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
球脊髄性筋萎縮症に対する適正治療エビデンス創出のためのリアルワールドデータベース整備	橋詰　淳	臨床研究教育学（神経内科学）	13,000,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
精神科トランスレーショナルリサーチの推進に向けた精神医学研究システムの開発	尾崎　紀夫	精神疾患病態解明学	3,900,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新型コロナウイルス感染症後遺症の病態生理の多分野融合による解明	石井　誠	呼吸器内科学	14,882,712	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
特殊環状ペプチドによる癌種横断的な新規分子標的治療薬の探索	神田　光郎	消化器外科学	6,875,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
AYA世代および成人T細胞性急性リンパ性白血病の小児型治療適用における限界年齢と新規バイオマーカー探索に関する研究	早川　文彦	血液内科	17,550,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病に対するポナチニブを組み込んだ治療法の確立と分子基盤の解明	早川　文彦	血液内科	325,000	補 ○委	学校法人日本大学
小児から成人をシームレスに対象とした B前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する前方視的臨床試験による標準治療の開発研究	早川　文彦	血液内科	325,000	補 ○委	埼玉県立小児医療センター
臨床病期I/II/III食道癌（T4を除く）に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第III相試験	安藤　昌彦	先端医療開発部	4,550,000	補 ○委	学校法人　慶應義塾
進行肺癌の血漿遊離DNAを利用したマルチ遺伝子解析法に基づく個別化医療の確立を目指した研究	森瀬　昌宏	呼吸器内科	390,000	補 ○委	国立研究開発法人国立がん研究センター
双方向トランスレーショナルアプローチによる精神疾患の脳予測性障害機序に関する研究開発	山本　真江里	精神科	6,500,000	補 ○委	国立大学法人東京大学
認知症予防を目指した多因子介入によるランダム化比較研究	木下　文恵	先端医療開発部	1,300,000	補 ○委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
中性脂肪蓄積心筋血管症の診療に直結するエビデンス創出研究	奥村　貴裕	循環器内科	130,000	補 ○委	国立大学法人大阪大学
MCI及び認知症を有する人とその家族介護者へのグループ型同時介入プログラムの実現可能性検証	木下　文恵	先端医療開発部	260,000	補 ○委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	西田　佳弘	整形外科（ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科）	390,000	補 ○委	国立大学法人岡山大学
慢性心筋炎の診断基準策定のための実態調査	奥村　貴裕	循環器内科	2,600,000	補 ○委	国立大学法人三重大学
「若年性骨髄単球性白血病（JMML）に対する標準的化学療法の確立を目指した第2相臨床試験」の開発	村松　秀城	小児科	20,150,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
CD19陽性悪性リンパ腫に対するpiggyBacトランスポゾン法によるキメラ抗原受容体遺伝子改変自己T細胞の安全性及び有効性に関する第Ⅰ/Ⅱ相医師主導治験	髙橋　義行	小児科学	77,090,000	補 ○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
CCR4を標的としたキメラ抗原受容体遺伝子改変T細胞療法の非臨床試験	寺倉　精太郎	血液内科	10,400,000	補 ○委	国立研究開発法人国立がん研究センター

新生児の肺障害を修復する多能性幹細胞（Muse細胞）を用いた再生治療の開発	佐藤　義朗	小児科（総合周産期（新生児））	39,000,000	補○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ヒト特異的RNA代謝異常とシナプス形態に基づく筋萎縮性側索硬化症の病態解明,治療法研究	横井　聡	神経内科学	10,400,000	補○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
AYA世代の精神疾患高リスク群における予防的睡眠マネジメントに関する研究	髙橋　長秀	親と子どもの心療科	300,001	補○委	学校法人東邦大学
関節内変形治癒骨折手術に対するカスタムメイド手術ガイド実用化のための医師主導治験	山本　美知郎	手の外科学	4,290,000	補○委	国立大学法人大阪大学
レジストリを活用した慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対するエドキサバンの適応拡大のための第Ⅲ相医師主導治験	室原　豊明	循環器内科学	2,470,000	補○委	国立大学法人九州大学
卵巣がんゲノム搭載細胞外小胞による新規リキッドバイオプシー戦略	横井　暁	産科婦人科	10,010,000	補○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
免疫チェックポイント阻害薬の安全な使用に資するirAE心筋障害スクリーニング手法と危険因子の探索研究	坂東　泰子	循環器内科	390,000	補○委	学校法人国際医療福祉大学
FGFR3シグナル抑制による軟骨無形成症治療薬の実用化開発研究	松下　雅樹	整形外科	70,135,649	補○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
進行非小細胞肺癌に対する複合免疫療法の標準治療確立のためのランダム化比較第Ⅲ相試験	安藤　昌彦	先端医療開発部	1,300,000	補○委	国立大学法人九州大学
未治療低腫瘍量濾胞性リンパ腫に対するリツキシマブ早期介入に関するランダム化比較第Ⅲ相試験	島田　和之	血液内科	650,000	補○委	国立大学法人山形大学
オールジャパン拡張型心筋症ゲノムコホート研究によるゲノム医療の発展	奥村　貴裕	循環器内科	650,000	補○委	国立大学法人東京大学
間葉系幹細胞治療用中空糸膜カラムの開発	古橋　和拡	腎臓内科	18,850,000	補○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高齢者切除不能局所進行非小細胞肺癌に対する化学放射線療法のランダム化比較第Ⅲ相試験	安藤　昌彦	先端医療開発部	1,300,000	補○委	静岡県立静岡がんセンター
「一過性骨髄異常増殖症(TAM)に対する標準化学療法の確立を目指した第2相臨床試験」の開発	村松　秀城	小児科	10,400,000	補○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
分泌タンパク質SMOC1を標的としたLKB1不活化肺癌における新規治療戦略の構築	田中　一大	呼吸器内科	10,010,000	補○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高深度血漿プロテオーム解析に基づく新規大腸癌早期診断法の開発	中村　正直	消化器内科	390,000	補○委	愛知県がんセンター
日本ブレインバンクネット(JBBN)による精神・神経疾患死後脳リソース基盤の強化に関する研究開発	鳥居　洋太	精神科	9,100,000	補○委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
国産既存薬の新効能による膵がんの間質初期化治療法の開発と第I/II 相医師主導治験の実施	川嶋　啓揮	消化器内科学	87,080,500	補○委	国立大学法人東京大学
ROS1融合遺伝子陽性の進行固形がんに対する治療開発を目指した研究	森瀬　昌宏	呼吸器内科	520,000	補○委	国立研究開発法人国立がん研究センター
高齢者非小細胞肺がん患者に対する抗がん薬のPK/PDに基づく個別化医療研究（フォローアップ）	安藤　雄一	化学療法部	390,000	補○委	国立研究開発法人国立がん研究センター
慢性活動性Epstein-Barrウイルス感染症の起因となるウイルス感染細胞の特定	村松　秀城	小児科	1,300,000	補○委	公立大学法人名古屋市立大学
再生医療等製品用ヒト（同種）体性幹細胞原料となる高品質な細胞原料の安定供給体制の構築に関する研究開発	小谷　友美	産婦人科学（総合周産期（生殖））	3,250,000	補○委	株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング
FLNAを標的とした進行性核上性麻痺の病態解明と治療法開発	佐橋　健太郎	神経内科	15,600,000	補○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
RSウイルス感染による新生児、乳児及び幼児を対象としたパリビズマブの多施設医師主導治験の推進（新規ハイリスク患者対象）	檜　顕成	小児外科(希少性～)	520,000	補○委	学校法人聖マリアンナ医科大学
本邦における初発急性前骨髄球性白血病に対するATRA・ATO併用分化誘導療法の確立	石川　裕一		2,470,000	補○委	国立大学法人筑波大学
サブプレート神経活動のダイナミズムによる脳神経回路の発達機構	城所　博之	小児科	19,500,000	補○委	公益財団法人東京都医学総合研究所
成人発症スチル病（AOSD）に対する5-アミノレブリン酸塩酸塩／クエン酸第一鉄ナトリウム（5-ALA HCL/SFC）投与の医師主導治験	近藤　猛	総合診療科	1,300,000	補○委	国立大学法人長崎大学

CAGリピートを標的としたsiRNAによるポリグルタミン病治療法の検証	佐橋　健太郎	神経内科	4,730,000	補○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
間質変容誘導による免疫チェックポイント阻害剤感受性改善薬の開発	飯田　忠	消化器内科(救急診療等運営本部)	13,241,800	補○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
オートファジー病SENDA/BPANに対する遺伝子治療開発	城所　博之	小児科	1,300,000	補○委	学校法人自治医科大学
患者レジストリJapan PH Registryを利活用した肺動脈性肺高血圧症に対する抗IL-6受容体抗体適応拡大のための医師主導治験	足立　史郎	循環器内科	650,000	補○委	学校法人国際医療福祉大学
日本全地域で心不全診療連携を最適化するAI実装DtoDシステムの開発と実用化	奥村　貴裕	循環器内科	1,523,600	補○委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
経皮的冠動脈形成術後の重症化予防を目的とする遠隔行動変容支援と外来診療との効果的連携に関する研究開発	杉下　明隆	先端医療開発部	4,056,000	補○委	学校法人愛知医科大学
切除可能肝細胞癌に対する陽子線治療と外科的切除の非ランダム化同時対照試験	安藤　昌彦	先端医療開発部	1,300,000	補○委	国立研究開発法人国立がん研究センター
直腸癌局所再発に対する標準治療確立のための研究開発	安藤　昌彦	先端医療開発部	1,040,000	補○委	国立研究開発法人国立がん研究センター
HBV cccDNAの産生と維持に関わるウイルスおよび宿主因子の探索	本多　隆	消化器内科	13,000,000	補○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
進行軟部肉腫に対する二次治療における標準治療の開発のための研究	西田　佳弘	整形外科(ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科)	455,000	補○委	国立大学法人大分大学
児童青年精神疾患のコンピュータ適応型スクリーニング法およびコンピュータ支援診断面接法開発のためのプロトコル作成	髙橋　長秀	親と子どもの心療科	260,000	補○委	公立大学法人名古屋市立大学
精神疾患の個別化医療を実現するためのゲノム・空間オミクス多施設共同研究	久島　周	精神医学	59,930,000	補○委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター
アトピー性皮膚炎をモデルとした次世代リバーストランスレーショナル研究基盤構築に向けた研究	小川　靖	先端医療開発部	650,000	補○委	京都府公立大学法人
腸換気法を用いた革新的呼吸補助技術の開発	藤井　祐	麻酔科	13,000,000	補○委	国立大学法人東京医科歯科大学
医療施設における標準コードの効率的なマッピング手法に関する調査および実証研究	白鳥　義宗	メディカルITセンター	260,000	補○委	国立大学法人九州大学
高齢がん医療の質の向上を目指した診療体制の基盤整備に関する研究	安藤　雄一	化学療法部	390,000	補○委	国立大学法人島根大学
経口セマグルチドのパーキンソン病に対する有効性検証および用量探索試験	勝野　雅央	神経内科学	1,300,000	補○委	国立大学法人大阪大学
アカデミアシーズの実用化に向けた研究開発体制における研究マネジメント人材の育成システム開発に関する研究	清水　忍	先端医療開発部	1,040,000	補○委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
臨床研究中核病院以外のAROにおける多職種の視点による高品質の臨床研究計画作成支援体制の構築	清水　忍	先端医療開発部	650,000	補○委	国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学
非臨床研究中核病院における各専門職種のリソースを考慮した研究計画立案支援体制の構築	安藤　昌彦	先端医療開発部	650,000	補○委	国立大学法人浜松医科大学
微量体液中エクソソーム解析による革新的がん腹膜播種バイオマーカー開発	横井　暁	産科婦人科	11,500,000	補○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
補剤の免疫賦活能を介した新たな養子細胞療法の強化戦略	芳川　修久	産科婦人科	3,900,000	補○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
網羅的免疫解析に基づくCAR-T細胞療法の効果予測・判定および造血細胞移植適応決定のためのバイオマーカー開発	寺倉　精太郎	血液内科	7,800,000	補○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
All Japan 大規模レジストリデータを背景とした間質性肺炎の治療プログラム及びデバイスの開発	古川　大記	メディカルITセンター	26,000,000	補○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
糖鎖と神経細胞活動の動的因果関係から明らかにする3q29欠失症候群の病態	有岡　祐子	先端医療開発部	6,500,000	補○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ビデオゲームを用いた実行機能介入による注意欠如多動症の治療機器の研究開発	髙橋　長秀	親と子どもの心療科	25,764,049	補○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Elucidating the effect DNA damage response gene-mediated Clonal Hematopoiesis has on immune cell function and Cardiovascular disease.	由良　義充	循環器内科(救急診療等運営本部)	2,990,000	補○委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

網膜色素変性に対するEYS変異特異的ゲノム編集遺伝子治療の開発	西口　康二	眼科学	19,000,000	補○委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
胃癌腹膜播種に特化したアンチセンス核酸医薬開発	神田　光郎	消化器外科学	138,180,900	補○委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
圧倒的に低侵襲な気胸治療を可能とするカテーテル開発	中村　彰太	呼吸器外科	13,000,000	補○委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
拡張型心筋症に対するテイラーメイド方式心臓形状矯正ネットの医師主導治験	秋田　利明	心臓外科学	103,350,000	補○委	国立研究開発法人　日本医療研究開発機構
標準化電子ワークシートを核とした分散型臨床試験のシステム・運用両面からの構築	安藤　昌彦	先端医療開発部	36,828,000	補○委	九州大学
細胞外微粒子による疾患の発症メカニズムと治療法の開発	橋本　直純	呼吸器内科学	13,000,000	補○委	国立研究開発法人科学技術振興機構
近赤外光線免疫療法の作用機序の解明	佐藤　和秀	呼吸器内科学	975,000	補○委	国立研究開発法人科学技術振興機構
細胞外微粒子への生体応答と発がん・動脈硬化症との関連の解析(豊國：分担)	室原　豊明	循環器内科学	13,000,000	補○委	国立研究開発法人科学技術振興機構
ヒト脳神経発生を正確に再現し、測れなかったものを測る	須賀　英隆	糖尿病・内分泌内科学	7,800,000	補○委	国立研究開発法人科学技術振興機構
Contact Reality の実現による遠隔触診システム開発	平田　仁	手の外科学	65,914,000	補○委	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
電子カルテ情報活用型多施設症例データベースを利用した糖尿病に関する臨床情報収集に関する研究	有馬　寛	糖尿病・内分泌内科学	300,000	補○委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター
中津川市阿木地区における減塩対策事業の効果評価研究	佐藤　寿一	総合診療科	2,564,500	補○委	中津川市
地域在住高齢者および関節リウマチ患者におけるフレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームに関する疫学調査	小嶋　俊久	整形外科学	600,000	補○委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
時間・空間光励起制御による革新的疾患モデル開発解明研究	佐藤　和秀	呼吸器内科学	12,048,400	補○委	国立研究開発法人科学技術振興機構
高齢者運動器疾患における老化を基盤とした包括的診療体系の共創	今釜　史郎	整形外科学	1,400,000	補○委	国立研究開発法人長寿医療研究センター
高齢者運動器疾患における老化を基盤とした包括的診療体系の共創	伊藤　定之	整形外科学(障害児(者)寄附講座)	1,000,000	補○委	国立研究開発法人長寿医療研究センター
NCNPブレインバンクの運営およびブレインバンク生前登録システムの推進	尾崎　紀夫	精神疾患病態解明学	1,000,000	補○委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
bスポーツの社会機能に及ぼす効果の検証	平田　仁	手の外科学	1,950,000	補○委	国立研究開発法人科学技術振興機構
完全な炎症制御による先天性魚鱗癬の克服	武市　拓也	皮膚科	9,100,000	補○委	国立研究開発法人科学技術振興機構
高齢者総合機能評価(CGA)ガイドラインの作成研究	梅垣　宏行	地域在宅医療学・老年科学	600,000	補○委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
高齢者における院内死亡、転倒、耐性菌感染、新興再興感染症(インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、結核等)に関する研究	八木　哲也	臨床感染統御学	600,000	補○委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
レビー小体病の早期診断・治療効果判定に資する高精度バイオマーカー開発および感覚刺激による身体機能の変化に対する脳神経機能の解析	勝野　雅央	神経内科学	2,000,000	補○委	国立研究開発法人長寿医療研究センター
老年症候群に対する循環器病管理による影響を明らかとするための、多施設共同の包括的縦断観察研究	因田　恭也	循環器内科学	1,000,000	補○委	国立研究開発法人長寿医療研究センター
高齢者の感覚器機能/加齢性疾患の身体機能に与える影響および新規予防・治療法の開発に関する研究	西口　康二	眼科学	500,000	補○委	国立研究開発法人長寿医療研究センター
慢性腎臓病進行例(CKD G3b～G5)の予後向上のための予後、合併症、治療に関するコホート研究(REACH-J-CKD cohort)	丸山　彰一	腎臓内科学	1,350,000	補○委	国立大学法人筑波大学
がん微小環境に着目したフェロトーシス誘発プラズマによる癌治療の創成	佐藤　康太郎	顎顔面外科学	1,600,000	補○委	大学共同利用機関法人自然科学研究機構
HER2陽性乳癌のT-DXd治療に対するオランザピン併用制吐療法の有効性を検討するプラセボコントロール二重盲検ランダム化第Ⅱ相比較試験(ERICA)	増田　慎三	乳腺・内分泌外科学	158,600	補○委	特定非営利活動法人西日本がん研究機構

J-CAT及びJ-CAT PRIMEを活用した純粋小脳型脊髄小脳変性症のヒストリカルデータの収集	勝野　雅央	神経内科学	143,000	補 ○委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
COVID-19感染が内分泌・代謝疾患診療に及ぼすインパクトに関する全国規模調査研究	有馬　寛	糖尿病・内分泌内科学	280,000	補 ○委	一般社団法人日本内分泌学会
全世代対応型遠隔メンタルヘルスケアシステム(KOKOROBO-J)によるメンタルヘルスプラットフォームの開発・社会実装拠点に関する名古屋大学による研究開発	尾崎　紀夫	精神疾患病態解明学	1,040,000	補 ○委	国立研究開発法人科学技術振興機構
分散・協調遠隔操作による生体内CAの投薬モニタリングと実証評価	川嶋　啓揮	消化器内科学	21,450,000	補 ○委	国立研究開発法人科学技術振興機構
Awareness AIによる神経系異常からの回復実験	平田　仁	手の外科学	4,998,500	補 ○委	国立研究開発法人科学技術振興機構
がん細胞外小胞の臨床応用へ向けた基盤技術開発研究	横井　暁	産科婦人科	11,440,000	補 ○委	国立研究開発法人科学技術振興機構
「共生社会」をつくるアートコミュニケーション共創拠点に関する東海国立大学機構による研究開発	杉下　明隆	先端医療開発部	1,950,000	補 ○委	国立研究開発法人科学技術振興機構
肺腫瘍塞栓性微小血管症（PTTM）に対するイマチニブの有効性と安全性に関する探索的臨床研究	足立　史郎	循環器内科	100,000	補 ○委	国立大学法人東京大学
多施設共同研究におけるがん患者に対する適切なQOL評価法確立のための研究	安藤　昌彦	先端医療開発部	1,800,000	補 ○委	国立研究開発法人国立がん研究センター
プレゼンティズムを予防し地域の看護師が持続して働きやすい環境づくりをIoTで実現する	白鳥　義宗	メディカルITセンター	13,000,000	補 ○委	東海総合通信局
神経系難病の臨床開発促進におけるナショナルセンターの果たすべき研究基盤整備の検討	清水　忍	先端医療開発部	300,000	補 ○委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
生体がもつ巧妙な炎症制御機構の解明から治療応用へ	古橋　和拡	腎臓内科	7,800,000	補 ○委	国立研究開発法人科学技術振興機構
高齢者運動器疾患における老化を基盤とした包括的診療体系の共創	関　泰輔	整形外科	1,400,000	補 ○委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
老年症候群における血液学的老化の研究	安藤　雄一	化学療法部	600,000	補 ○委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
フレイル高齢者のレジストリ研究及びロコモ、サルコペニアを含めた病態解明及び予防介入法の確立を目指した臨床ならびに関連研究	小宮　仁	地域連携・患者相談センター	600,000	補 ○委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
老年症候群における血液学的老化の研究	松下　正	輸血部	600,000	補 ○委	国立研究開発法人長寿医療研究センター
ONO-7913（抗CD47抗体：Magrolimab）の輸血前検査に及ぼす影響の検証とその対処法の確立に関する研究	松下　正	輸血部	2,376,864	補 ○委	一般社団法人日本輸血・細胞治療学会
ミッドカインを活用した新型コロナウイルス（COVID-19)重症化予測簡易判定系の研究・開発における臨床研究の遂行と検体の収集	春日井　大介	救急科	999,999	補 ○委	沖縄工業高等専門学校

計528件

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Ito A, Ichikawa K, Miyazaki M,他	薬剤部	Clinical impact of standardized creatinine on dose adjustment of capecitabine.	Nagoya J. Med. Sci. Aug.2022 84. 547-553,doi:10.18999/nagjms.84.3.547	Original Article
2	Isaji H, Yamada K	薬剤部	A Survey on the Actual Use of and Reasons for Heated Tobacco Products in Patients with Rheumatoid Arthritis	Int. J. Environ. Res. Public Health 2022, Sep. 202219, 12465. https://doi.org/10.3390/ijerph191912465	Original Article
3	Takase S, Liao J, Liu Y, 他	薬剤部	Antipsychotic-like effects of fasudil, a Rho-kinase inhibitor, in a pharmacologic animal model of schizophrenia	European Journal of Pharmacology. 2022, 931, 175207, Sep. 2022doi: 10.1016/j.ejphar.2022.175207.	Original Article
4	Tanaka R, Liao J, Hada K, 他	薬剤部	Inhibition of Rho-kinase ameliorates decreased spine density in the medial prefrontal cortex and methamphetamine-induced cognitive dysfunction in mice carrying schizophrenia-associated mutations of the Arhgap10 gene	Pharmacological Research, Jan.2023,187. (2023)106589, https://doi.org/10.1016/j.phrs.2022.106589	Original Article
5	Y Matsumura, Y Kawarada, M Matsuo, 他	薬剤部	Retrospective Analysis of Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio in Patients with Melanoma Who Received Ipilimumab Monotherapy or Ipilimumab in Combination with Nivolumab in Japan	Biol. Pharm. Bull. Mar. 2023, 46, 3, 427-431 (2023), doi: 10.1248/bpb.b22-00750.	Original Article
6	Matsuzaki T, Kato Y, Mizoguchi H, Yamada K	薬剤部	A machine learning model that emulates experts' decision making in vancomycin initial dose planning	J Pharmacol Sci. 2022 Apr;148(4):358-363. doi: 10.1016/j.jphs.2022.02.005. Epub 2022 Feb 20.	Original Article
7	Ayako Mitsuma, Yasuki Ito, Tomoya Shimokata, 他	化学療法部	Direct observation of retinal microvessels in cancer patients after systemic administration of bevacizumab and oxaliplatin.	Cancer Diagn Progn. 2022 May 3;2(3):330-335. doi: 10.21873/cdp.10113. eCollection May-Jun 2022.	Original Article
8	Osamu Maeda, Ayumu Matsuoka, Madoka Yanagawa, 他	化学療法部	Selection of chemotherapy for older patients with pancreatic cancer based on geriatric assessment.	J Geriatr Oncol. 2022 Nov;13(8):1260-1263. doi: 10.1016/j.jgo.2022.09.005. Epub 2022 Sep 15.	Original Article
9	Yao Liang, Osamu Maeda, Kazushi Miyata, 他	化学療法部	Feasibility assessment of global standard chemoradiotherapy followed by surgery in Japanese patients with esophageal cancer.	Mol Clin Oncol. 2023 Mar 2;18(4):34.doi: 10.3892/mco.2023.2630. eCollection 2023 Apr.	Original Article
10	Yuichi Ando, Sachi Morita, Tomoya Shimokata, 他	化学療法部	A rapid and durable response to larotrectinib in a patient with NTRK fusion-positive secretory carcinoma originating from the external auditory canal.	Int Cancer Conf J. 2022 Jun 14;11(4):242-246. doi: 10.1007/s13691-022-00559-6. eCollection 2022 Oct.	Case Report
11	Ozeki N, Kadomatsu Y, Mizuno Y,他	呼吸器外科	Risk assessment for loss-of-rexerxise capacity after lung cancer surgery: current advances in surgery and systemic treatment.	World J Surg 2022 Apr;46(4):933-941. doi: 10.1007/s00268-021-06427-3. Epub 2022 Jan 10.	Original Article
12	Kadomatsu Y, Sugiyama T, Sato K, 他	呼吸器外科	Relationship of smoking cessation period with the incidence of complications in lung cancer surgery.	Eur J Cardiothorac Surg 2022 Aug 3;62(3):ezac163. doi: 10.1093/ejcts/ezac163.	Original Article
13	Ozeki N, Iwano S, Nakamura S,他	呼吸器外科	Chest three-dimensional-computed tomography imaging data analysis for the variation of exercise capacity after lung lobectomy.	Clin Physiol Funct Imaging. 2022 Sep;42(5):362-371. doi: 10.1111/cpf.12777. Epub 2022 Jul 11.	Original Article
14	Ito T. Okachi S, Sato K, 他	呼吸器外科	Prevention of droplet dispersal with "e-mask": A new daily use endoscopic mask during bronchoscopy.	Respirology 2022 Oct;27(10):863-873. doi: 10.1111/resp.14321. Epub 2022 Jul 3.	Original Article
15	Nakanishi K, Ozeki N, Tateyama H, 他	呼吸器外科	Skeletal muscle and related protein expression as prognostic factors on thymic squamous cell carcinoma.	J Thorac Dis 2022 Sep; 14(9): 3245-3254.	Original Article
16	Kadomatsu Y, Nakao M, Ueno H, 他	呼吸器外科	A Novel System Applying Artificial Intelligence in the Identification of Air Leak Sites.	JTCVS Tech. 2022 Jun 27;15:181-191. doi: 10.1016/j.xjtc.2022.06.011. eCollection 2022 Oct.	Original Article
17	Ito T, Nakamura S, Kadomatsu Y, 他	呼吸器外科	Impact of pleural thickness on occurrence of postoperative complications in patients with malignant mesothelioma.	Ann Surg Oncol . 2023 Mar;30(3):1574-1583. doi: 10.1245/s10434-022-12790-9. Epub 2022 Nov 13.	Original Article
18	Sato K, Nakamura S, Kadomatsu Y, 他	呼吸器外科	Neoadjuvant therapy for patients with non-small cell lung cancer complicated with chest wall invasion.	Anticancer Res . 2022 Nov;42(11):5539-5546. doi: 10.21873/anticanres.16059.	Original Article

19	Kato T, Katsuya R, Okado S, 他	呼吸器外科	Real-world evidence of safety and influence for lung cancer surgery under COVID-19 pandemic in Japan.	J Thorac Dis . 2023 Feb 28;15(2):542-551. doi: 10.21037/jtd-22-1289. Epub 2023 Feb 3.	Original Article
20	Fujii T, Yoneyama Y, Kinebuchi A, 他	呼吸器外科	Enteral liquid ventilation oxygenates a hypoxic pig model.	iScience . 2023 Feb 13;26(3):106142. doi: 10.1016/j.isci.2023.106142. eCollection 2023 Mar 17.	Original Article
21	Nakamura S, Ito T, Chen-Yoshikawa TF.	呼吸器外科	ASO Author Reflections: Pleural Thickness in Patients with Malignant Pleural Mesothelioma.	Ann Surg Oncol . 2023 Mar;30(3):1584-1585. doi: 10.1245/s10434-022-12844-y. Epub 2022 Nov 16.	Others
22	Chen-Yoshikawa TF.	呼吸器外科	Is it true that less is more in thoracic surgery?	J Thorac Dis . 2022 Oct;14(10):3674-3676. doi: 10.21037/jtd-22-951.	Others
23	Nakanishi K, Chen-Yoshikawa TF	呼吸器外科	Commentary: To know yourself is to know your neighbor	J Thorac Cardiovasc Surg . 2022 Jun;163(6):1988-1989. doi: 10.1016/j.jtcvs.2021.01.030. Epub 2021 Jan 20.	Others
24	Kadomatsu Y, Chen-Yoshikawa TF	呼吸器外科	Commentary: Change the temperature before we have to.	J Thorac Cardiovasc Surg . 2022 Aug;164(2):e71-e72. doi: 10.1016/j.jtcvs.2021.01.083. Epub 2021 Jan 30.	Others
25	Fukumoto K, Chen-Yoshikawa TF.	呼吸器外科	Commentary: Look before you leap.	Semin Thorac Cardiovasc Surg . 2022 Autumn;34(3):1074. doi: 10.1053/j.semtcvs.2021.06.018. Epub 2021 Jun 23.	Others
26	Nakamura S, Fukui T, Ito H, 他	呼吸器外科	Challenges in left sleeve pneumonectomy in the left lateral decubitus position.	Nagoya J Med Sci . 2022 Aug;84(3):673-677. doi: 10.18999/nagjms.84.3.673.	Case Report
27	Kadomatsu Y, Ueno H, Goto M, 他	呼吸器外科	Postoperative empyema complicated with descending necrotizing fasciitis: A case report.	Surg Case Rep . 2022 Jul 15;8(1):133. doi: 10.1186/s40792-022-01492-9.	Case Report
28	Miyai Y, Sugiyama D, Hase T, Asai N, Taki T, Nishida K, Fukui T, Chen-Yoshikawa TF, Kobayashi H,	呼吸器外科	Meflin-positive cancer-associated fibroblasts enhance tumor response to immune checkpoint blockade.	Life Sci Alliance 2022 Mar 2;5(6):e202101230. doi: 10.26508/lsa.202101230. Print 2022 Jun.	Original Article
29	Okado S, Chen-Yoshikawa TF.	呼吸器外科	Less is more in thoracic surgery.	JTCVS Tech . 2022 Mar 10;13:242-243. doi: 10.1016/j.xjtc.2022.03.001.	Others
30	Furukawa T, Oyama S, Yokota H, 他	メディカルITセンター	A comprehensible machine learning tool to differentially diagnose idiopathic pulmonary fibrosis from other chronic interstitial lung diseases.	Respirology. 2022 Sep;27(9):739-746. doi: 10.1111/resp.14310. Epub 2022 Jun 13.	Original Article
31	Banno H, Sugimoto M, Sato T,他	血管外科	New Morphological Factor for Predicting Late Proximal Type I Endoleak after Endovascular Aneurysm Repair.	Ann Vasc Surg. 2022 Apr;81:154-162. doi: 10.1016/j.avsg.2022.09.049. Epub 2021 Nov 12.	Original Article
32	Kodama A, Kobayashi T, Guntani A, 他	血管外科	Comparison of clinical outcomes, including the wound healing rate, between inframalleolar bypass to the pedal artery and that to the pedal branch artery in the modern endovascular era.	J Vasc Surg. 2022 Jun;75(6):2019-2029.e2. doi: 10.1016/j.jvs.2022.01.138. Epub 2022 Feb 16.	Original Article
33	Kodama A, Komori K, Koyama A, 他	血管外科	Impact of Serum Zinc Level and Oral Zinc Supplementation on Clinical Outcomes in Patients Undergoing Infrainguinal Bypass for Chronic Limb-Threatening Ischemia.	Circ J. 2022 May 25;86(6):995-1006. doi: 10.1253/circj.CJ-21-0832. Epub 2022 Mar 26.	Original Article
34	Mutsuga M, Banno H, Okumura T, 他	血管外科	Impella5.0 "ILIPELLA" Approach for a Fulminant Myocarditis Patient With a Small Peripheral Artery.	Heart Lung Circ. 2022 May;31(5):e72-e74. doi: 10.1016/j.hlc.2022.12.007. Epub 2022 Jan 19.	Original Article
35	Kodama A, Takahara M, Iida O, 他	血管外科	Ambulatory Status Over Time after Revascularization in Patients with Chronic Limb-Threatening Ischemia.	J Atheroscler Thromb. 2022 Jun 1;29(6):866-880. doi: 10.5551/jat.62892. Epub 2021 May 27.	Original Article
36	Kawai Y, Banno H, Sato T,他	血管外科	Epicardial adipose tissue volume is associated with abdominal aortic aneurysm expansion.	J Vasc Surg. 2022. Nov.76(5):1253-1260. doi: 10.1016/j. jvs.2022.04.032. Epub 2022 Jun 1.	Original Article
37	Kawai Y, Kodama A, Sato T,他	血管外科	Predictors of infrapopliteal vein bypass graft revision in patients with chronic limb-threatening ischemia.	Vascular. 2022 Aug 30:17085381221124706. doi: 10.1177/17085381221124706. Online ahead of print.	Original Article
38	Ikeda S, Sato T, Kawai Y,他	血管外科	One-year sac regression is associated with freedom from fatal adverse events after endovascular aneurysm repair.	Journal of Vascular Surgery. 2023 Jan;77(1):136-142.e2. doi: 10.1016/j.jvs.2022.08.017. Epub 2022 Aug 24.	Original Article

39	Shirota C, Tainaka T, Sumida W, 他	小児外科	Single-incision laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure (SILPEC) for inguinal hernia with prolapsed ovary	Surgical Endoscopy.2022/6;36(6):4328-4332	Original Article
40	Tainaka T, Shirota C, Hinoki A, 他	小児外科	Laparoscopic definitive surgery for congenital biliary dilatation with aggressive hilar bile ductoplasty and complete resection of the intrapancreatic bile duct in pediatric patients is safe and effective, comparable to open surgery	Surg Endosc. 2022 Oct;36(10):7352-7359	Original Article
41	Nakagawa Y, Uchida h, Amano H,他	小児外科	Patients with gastric volvulus recurrence have high incidence of wandering spleen requiring laparoscopic gastropexy and splenopexy	Pediatric Surgery International.2022 Jun;38(6):875-881	Original Article
42	Tainaka T, Shirota C, Sumida W, 他	小児外科	Laparoscopic definitive surgery for choledochal cyst is performed safely and effectively in infants	Journal of Minimal Access Surgery.2022 Jul-Sep;18(3):372-377	Original Article
43	Yasui A, Hinoki A, Amano H,他	小児外科	Thoracoscopic posterior tracheopexy during primary esophageal atresia repair ameliorate tracheomalacia in neonates: a single-center retrospective comparative cohort study	BMC Surgery. 2022 Jul 25;22(1):285	Original Article
44	Nakagawa Y, Uchida H, Hinoki A, 他	小児外科	Laparoscopic closure of Roux limb perforation during double-balloon endoscopic retrograde cholangiography with laparoscopy-assisted endoscopic hepatolithectomy 30 years after congenital biliary dilatation radical surgery: A case report	Asian Journal of Endoscopic Surgery. 2023 Jan;16(1):118-122	Case Report
45	Takimoto A, Sumida W, Shirota C, 他	小児外科	Retroperitoneoscopic resection of a large paraganglioma surrounded by the right diaphragmatic crus on the dorsal side of the inferior vena cava: A pediatric case report.	Asian Journal of Endoscopic Surgery. 2023 Jan;16(1):131-134	Case Report
46	Kato D,Uchida H,Amano H,他	小児外科	Laparoscopic revision of Kasai portoenterostomy after initial laparoscopic portoenterostomy in patients with biliary atresia: a limited but positive effect on native liver survival	Pediatric Surgery International. 2022 Dec;38(12):1821-1827	Original Article
47	Yasui A,Hinoki A,Amano H,他	小児外科	Adding a spur valve to laparoscopic portoenterostomy for patients with biliary atresia can achieve a high jaundice clearance rate and lower the number of episodes of cholangitis	Pediatric Surgery International. 2022 Dec;38(12):1881-1885	Original Article
48	Sumida W, Tainaka T, Shirota C, 他	小児外科	Biochemical markers to predict the development of gastrointestinal bleeding and esophageal varices after portoenterostomy in biliary atresia.	Pediatric Surgery International. 2022 Dec;38(12):1799-1805	Original Article
49	Takimoto A, Amano H, Sumida W, 他	小児外科	Laparoscopic Duodenal-Caudal Detachment Method: Early Experience of a Novel Technique for Malrotation with Volvulus in Neonates.	Journal of Laparoendoscopic & Advanced Surgical Techniques and Videoscopy. 2023 Feb;33(2):220-225	Original Article
50	Shirota C, Hinoki A, Togawa T,他	小児外科	Intraoperative indocyanine green fluorescence cholangiography can rule out biliary atresia: A preliminary report.	Frontiers in Pediatrics. 2022/11/4; 10: 1005879	Original Article
51	Nakagawa Y,Uchida H,Hinoki A,他	小児外科	Combined negative pressure wound therapy with irrigation and dwell time and artificial dermis prevents infection and promotes granulation formation in a ruptured giant omphalocele: a case report	BMC Pediatrics. 2022 Nov 26;22(1):680	Case Report
52	Nakagawa Y, Makita S, Uchida H, 他	小児外科	A giant bilateral inguinal hernia requiring artificial mesh and multi-stage surgery in infancy; hernioplasty with silo placement to prevent acute compartment syndrome	Frontiers in Pediatrics. 2022 Nov 10;10:1030934	Case Report
53	Nakagawa Y, Sumida W, Amano H, 他	小児外科	Preoperative imaging contributes to pathologically complete resection of the urachal remnant by determining an appropriate surgical approach without unnecessary and excessive surgical invasion: a	BMC Urology. 2022 Dec 19;22(1):207	Case Report
54	Nakagawa Y,Hinoki A,Amano H,他	小児外科	Circumumbilical incision for neonatal abdominal surgery: additional skin incision when there is difficulty in manipulating the intestine	Nagoya Journal of Medical Science. 2022 Nov;84(4):716-722	Original Article
55	Yoichi Nakagawa, Satoshi Makita, Hiroo Uchida,他	小児外科	Refractory tracheoesophageal fistula treated using multi-stage surgery: A case report	Front Pediatr. 2022 Dec 21;10:1053154	Case Report
56	NakagawaY, Uchida H, Makita S ,他	小児外科	A new type of retropancreatic fascia hernia in the supramesocolic space preoperatively misdiagnosed as a diaphragmatic hernia: report of two cases	Surgical Case Reports. 2023 Jan 11;9(1):5	Case Report
57	Nakagawa Y, Yokota K, Uchida H,他	小児外科	Laparoscopic restorative proctocolectomy with ileal-J-pouch anal canal anastomosis without diverting ileostomy for total colonic and extensive aganglionosis is safe and feasible with combined Lugol's iodine staining technique and indocyanine green fluorescence angiography	Frontiers in Pediatrics2023 Jan 6;10:1090336	Original Article
58	Uchida H, Gregory M. Tiao, Pranavkumar Shivakumar,他	小児外科	Editorial: Infants with cholestasis	Frontiers in Pediatrics. 2023 Mar 28;11:1175231	Review

59	Taniguchi R, Muramatsu H, Okuno Y,	小児科	A patient with very early onset FH-deficient renal cell carcinoma diagnosed at age seven	Fam Cancer. 2022 Jul;21(3):337-341.	Case Report
60	Yokoyama S,Ishizua Y,Honda T, 他	消化器内科	Endoscopic injection sclerotherapy with polidocanol for cardiac varices in children and adolescents.	Archives de p･ediatrie. 2023 Feb;30(2):109-112	Original Article
61	Yokoyama S, Ishizu Y, Honda T,他	消化器内科	The presence of high-risk varices after sclerotherapy in biliary atresia Running Head: Presence of varices post EIS in BA	Pediatrics International. 2023 Jan;65(1)	Original Article
62	Yamamoto T, Morooka H, Ito T, 他	消化器内科	Clustering using unsupervised machine learning to stratify the risk of immune-related liver injury	J Gastroenterol Hepatol. 2023 Feb;38(2):251-258. doi: 10.1111/jgh.16038.	Original Article
63	Ito Y, Miwa T, Kanda M, 他	消化器外科2	Risk score for predicting death from other causes after curative gastrectomy for gastric cancer	Gastric Cancer. 2023 Mar;26(2):317-323. doi: 10.1007/s10120-022-01354-1. Epub 2022 Nov 30.	Original Article
64	Kanda M, Terashima M, Kinoshita T, 他	消化器外科2	A multi-institutional study to evaluate the feasibility of next-generation sequencing and genomic analysis using formalin-fixed, paraffin-embedded biopsies of gastric cancer	Gastric Cancer. 2023 Jan;26(1):108-115. doi: 10.1007/s10120-022-01351-4. Epub 2022 Nov 11.	Original Article
65	Umeda S, Kanda M, Shimizu D, 他	消化器外科2	Lysosomal-associated membrane protein family member 5 promotes the metastatic potential of gastric cancer cells	Gastric Cancer. 2022 May;25(3):558-572. doi: 10.1007/s10120-022-01284-y. Epub 2022 Feb 28.	Original Article
66	Li Y, Takanari K, Nakamura R, 他	形成外科	Artificial PGA/Collagen-based Bilayer Conduit in Short Gap Interposition Setting Provides Comparable Regenerative Potential to Direct Suture	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2023 Mar 27;11(3):e4875. doi: 10.1097/GOX.0000000000004875. eCollection 2023 Mar.	Original Article
67	Hashikawa K, Kamei Y.	形成外科	The dawn of a new era in surgery for lymphedema	Nagoya J Med Sci. 2023 Feb;85(1):7-9. doi: 10.18999/nagjms.85.1.7.	Letter
68	Terabe K, Takahashi N, Asai S, 他	整形外科	Effectiveness of tacrolimus concomitant with biological disease-modifying antirheumatic drugs in patients with rheumatoid arthritis	Mod Rheumatol. 2023 Mar 2;33(2):292-301. doi: 10.1093/mr/roac025. 10.1093/mr/roac025	Original Article
69	Suzuki M, Asai S, Sobue Y,他	整形外科	Influence of frailty on patient global assessment in rheumatoid arthritis	Geriatr Gerontol Int. 2022 May;22(5):399-404. doi: 10.1111/ggi.14375. Epub 2022 Apr 1. 10.1111/ggi.14375	Original Article
70	Ohashi Y, Takahashi N, Sobue Y, 他	整形外科	Factors associated with frailty in rheumatoid arthritis patients with decreased renal function	Mod Rheumatol. 2023 Mar 2;33(2):323-329. doi: 10.1093/mr/roac018. 10.1093/mr/roac018	Original Article
71	Kishimoto K, Asai S, Takahashi N, 他	整形外科	Changes in perioperative C-reactive protein levels in patients with rheumatoid arthritis undergoing total knee arthroplasty in the biologic era	Nagoya J Med Sci. 2022 May;84(2):286-300. doi: 10.18999/nagjms.84.2.286. 10.18999/nagjms.84.2.286	Original Article
72	Terabe K, Takahashi N, Asai S,他	整形外科	Reasons and Risk Factors For Discontinuation of Treatment with Any Biological Disease-Modifying Antirheumatic Drugs in Patients with Rheumatoid Arthritis: A Long-term Observational Study	Mod Rheumatol. 2022 Aug 17:roac090. doi: 10.1093/mr/roac090. Online ahead of print. 10.1093/mr/roac090	Original Article
73	Asai S, Takahashi N, Kishimoto K, 他	整形外科	Increased prevalence of Staphylococcus aureus nasal carriage in rheumatoid arthritis patients with moderate/high disease activity	J Orthop Sci. 2022 Oct 7:S0949-2658(22)00255-X. doi: 10.1016/j.jos.2022.09.014. Online ahead of print. 10.1016/j.jos.2022.09.014	Original Article
74	Ohashi Y, Takahashi N, Sobue Y, 他	整形外科	Disease activity at baseline is an independent predictor of frailty at one year in pre-frail patients with rheumatoid arthritis; a multicenter retrospective observational study	J Orthop Sci. 2022 Nov 29:S0949-2658(22)00308-6. doi: 10.1016/j.jos.2022.10.025. Online ahead of print. 10.1016/j.jos.2022.10.025	Original Article
75	Yasunari Kamiya, Masaki Matsushita, Kenichi Mishima,他	整形外科	Meclozine ameliorates bone mineralization and growth plate structure in a mouse model of X-linked hypophosphatemia	Exp Ther Med. 2022 Nov 30;25(1):39. doi: 10.3892/etm.2022.11738. eCollection 2023 Jan.	Original Article
76	Kenichi Mishima, Yuka Tsukagoshi Okabe, Masaaki Mizuno,他	整形外科	Efficacy of soluble lansoprazole-impregnated beta-tricalcium phosphate for bone regeneration	Sci Rep. 2022 Nov 29;12(1):20550. doi: 10.1038/s41598-022-25184-4.	Original Article
77	Segi N, Nakashima H, Shinjo R, 他	整形外科	Reply to "Letter to the Editor Concerning 'Trabecular Bone Remodeling as a New Indicator of Osteointegration After Posterior Lumbar Interbody Fusion.' by Segi et al.".	Global Spine J. 2023 Mar 6:21925682231162860. doi: 10.1177/21925682231162860. Online ahead of print. Free article. No abstract available.	Original Article
78	Ito S, Nakashima H, Machino M, 他	整形外科	Comparison of the Relationship between Visual Acuity and Motor Function in Non-Elderly and Elderly Adults.	J Clin Med. 2023 Mar 3;12(5):2008. doi: 10.3390/jcm12052008. Free PMC article.	Original Article

79	Segi N, Nakashima H, Shinjo R, Kagami Y,他	整形外科	Vertebral Endplate Concavity in Lateral Lumbar Interbody Fusion: Tapered 3D-Printed Porous Titanium Cage versus Squared PEEK Cage.	Medicina (Kaunas). 2023 Feb 15;59(2):372. doi: 10.3390/medicina59020372. Free PMC article.	Original Article
80	Ito S, Nakashima H, Yoshii T,他	整形外科	Deep learning-based prediction model for postoperative complications of cervical posterior longitudinal ligament ossification.	Eur Spine J. 2023 Feb 6. doi: 10.1007/s00586-023-07562-2. Online ahead of print.	Original Article
81	Ito S, Sakai Y, Ando K,他	整形外科	＜Editors' Choice＞ Neck pain after cervical laminoplasty is associated with postoperative atrophy of the trapezius muscle.	Nagoya J Med Sci. 2023 Feb;85(1):103-112. doi: 10.18999/nagjms.85.1.103.PMID: 36923613 Free PMC article.	Original Article
82	Ouchida J, Nakashima H, Kanemura T, 他	整形外科	The age-specific normative values of standing whole-body sagittal alignment parameters in healthy adults: based on international multicenter data.	Eur Spine J. 2023 Feb;32(2):562-570. doi: 10.1007/s00586-022-07445-y. Epub 2022 Nov 15.	Original Article
83	Segi N, Nakashima H, Machino M,他	整形外科	Epidemiology of Cervical Fracture/Cervical Spinal Cord Injury and Changes in Surgical Treatment Modalities in Elderly Individuals During a 10-year Period: A Nationwide Multicenter Study in Japan.	S.Global Spine J. 2023 Jan 13:21925682231151643. doi: 10.1177/21925682231151643. Online ahead of print.PMID: 36638077 Free article.	Original Article
84	Ando K, Machino M, Ito S, Segi N,他	整形外科	Surgical outcomes in instrumented surgery for dumbbell type spinal cord tumor -the comparison with non-instrumented surgery for spinal cord tumor.	J Orthop Sci. 2022 Dec 10:S0949-2658(22)00333-5. doi: 10.1016/j.jos.2022.10.026. Online ahead of print.	Original Article
85	Ito S, Nakashima H, Sato K, 他	整形外科	Laterality of lumbar disc herniation.	J Orthop Sci. 2022 Nov 9:S0949-2658(22)00287-1. doi: 10.1016/j.jos.2022.10.003. Online ahead of print.	Original Article
86	Ouchida J, Nakashima H, Kanemura T, 他	整形外科	Impact of the hip joint mobility on whole-body sagittal alignment: prospective analysis in case with hip arthroplasty.	Eur Spine J. 2022 Sep;31(9):2399-2407. doi: 10.1007/s00586-022-07251-6. Epub 2022 Jul 1.PMID: 35776178	Original Article
87	Ito S, Sakai Y, Harada A, Ando K, 他	整形外科	Myelopathy caused by intrathecal remnants of oil-based contrast medium.	J Orthop Sci. 2022 Sep;27(5):1159-1163. doi: 10.1016/j.jos.2019.12.016. Epub 2020 Feb 25. PMID: 32111548 No abstract available.	Original Article
88	Ouchida J, Nakashima H, Kanemura T, 他	整形外科	Impact of Adjacent Facet Joint Osteoarthritis on Adjacent Segment Degeneration after Short-Segment Lateral Lumbar Interbody Fusion for Indirect Decompression: Minimum 5-Year Follow-Up.	Biomed Res Int. 2022 Aug 22;2022:3407681. doi: 10.1155/2022/3407681. eCollection 2022. PMID: 36046461 Free PMC article.	Original Article
89	Machino M, Sakai K, Yoshii T, 他	整形外科	Treatment for the Thoracic Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament and Ossification of the Ligamentum Flavum.	J Clin Med. 2022 Aug 11;11(16):4690. doi: 10.3390/jcm11164690. PMID: 36012929 Free PMC article.	Original Article
90	Segi N, Ozaki T, Suzuki Y, 他	整形外科	Close association of polarization and LC3, a marker of autophagy, in axon determination in mouse hippocampal neurons.	Exp Neurol. 2022 Aug;354:114112. doi: 10.1016/j.expneurol.2022.114112. Epub 2022 May 11.	Original Article
91	Nakashima H, Kanemura T, Satake K, 他	整形外科	Sacroiliac Joint Degeneration After Lumbopelvic Fixation.	Global Spine J. 2022 Jul;12(6):1158-1164. doi: 10.1177/2192568220978235. Epub 2020 Dec 30.PMID: 33375856 Free PMC article.	Original Article
92	Nakashima H, Yoneda M, Machino M, 他	整形外科	Utility of ultrasonography in the diagnosis of lumbar spondylolysis in adolescent patients.	J Orthop Sci. 2022 Jul 18:S0949-2658(22)00186-5. doi: 10.1016/j.jos.2022.06.019. Online ahead of print. PMID: 35864027	Original Article
93	Koshimizu H, Nakashima H, Tomita H, 他	整形外科	Pedicular kinking during posterior corrective procedure for thoracolumbar kyphoscoliosis with unstable osteoporotic fracture.	J Orthop Sci. 2022 Jul 7:S0949-2658(22)00171-3. doi: 10.1016/j.jos.2022.06.007. Online ahead of print. PMID: 35811253 No abstract available.	Original Article
94	Machino M, Nakashima H, Ito K, 他	整形外科	Association between Occupation and Cervical Disc Degeneration in 1211 Asymptomatic Subjects.	J Clin Med. 2022 Jun 9;11(12):3301. doi: 10.3390/jcm11123301. PMID: 35743372 Free PMC article.	Original Article
95	Machino M, Nakashima H, Ito K, 他	整形外科	Cervical disc degeneration is associated with a reduction in mobility: A cross-sectional study of 1211 asymptomatic healthy subjects.	J Clin Neurosci. 2022 May;99:342-348. doi: 10.1016/j.jocn.2022.03.035. Epub 2022 Mar 25.	Original Article
96	Machino M, Ando K, Kobayashi K, 他	整形外科	Associations Between Neck and Shoulder Pain and Neuropathic Pain in a Middle-aged Community-living Population.	Spine (Phila Pa 1976). 2022 Apr 15;47(8):632-639. doi: 10.1097/BRS.0000000000004207. Epub 2021 Aug 24.	Original Article
97	Segi N, Nakashima H, Shinjo R, 他	整形外科	Trabecular Bone Remodeling as a New Indicator of Osteointegration After Posterior Lumbar Interbody Fusion.	Global Spine J. 2022 Apr 12:21925682221090484. doi: 10.1177/21925682221090484. Online ahead of print. PMID: 35414295	Original Article
98	Koshimizu H, Nakashima H, Ohara T, 他	整形外科	Implant-Related Complications after Spinal Fusion: A Multicenter Study.	Global Spine J. 2022 Apr 9:21925682221094267. doi: 10.1177/21925682221094267. Online ahead of print. PMID: 35400240	Original Article

99	Machino M, Kawakami N, Ohara T, 他	整形外科	Factors affecting postoperative pulmonary function deterioration in adolescent idiopathic scoliosis: A prospective study using 3-dimensional image reconstruction by biplanar stereoradiography.	J Clin Neurosci. 2022 Apr;98:182-188. doi: 10.1016/j.jocn.2022.02.014. Epub 2022 Feb 18.	Original Article
100	Koike H, Nishida Y, Shinomura T,他	整形外科	Possible Repositioning of an Oral Anti-Osteoporotic Drug, Ipriflavone, for Treatment of Inflammatory Arthritis via Inhibitory Activity of KIAA1199, a Novel Potent Hyaluronidase.	Int J Mol Sci. 2022 Apr 7;23(8):4089. doi: 10.3390/ijms23084089.	Original Article
101	Ito K, Nishida Y, Hamada S, 他	整形外科	Efficacy of auranofin as an inhibitor of desmoid progression.	Sci Rep. 2022 Jul 13;12(1):11918. doi: 10.1038/s41598-022-15756-9.	Original Article
102	Ikuta K, Nishida Y, Sakai T, 他	整形外科	Surgical Treatment and Complications of Deep-Seated Nodular Plexiform Neurofibromas Associated with Neurofibromatosis Type 1.	J Clin Med. 2022 Sep 26;11(19):5695. doi: 10.3390/jcm11195695.	Original Article
103	Ikuta K, Nishida Y, Ota T, 他	整形外科	A clinical trial of a unidirectional porous tricalcium phosphate filling for defects after resection of benign bone lesions: a prospective multicenter study.	Sci Rep. 2022 Sep 26;12(1):16060. doi: 10.1038/s41598-022-20359-5.	Original Article
104	Sakai T, Okuno Y, Murakami N, 他	整形外科	Case report: Novel NIPBL-BEND2 fusion gene identified in osteoblastoma-like phosphaturic mesenchymal tumor of the fibula.	Front Oncol. 2023 Jan 5;12:956472. doi: 10.3389/fonc.2022.956472. eCollection 2022.	Case Report
105	Zhang J, Nishida Y, Koike H, 他	整形外科	Hyaluronan in articular cartilage: analysis of hip osteoarthritis and osteonecrosis of femoral head.	J Orthop Res. 2023 Feb;41(2):307-315. doi: 10.1002/jor.25364. Epub 2022 May 24.	Original Article
106	Sakai T, Nishida Y, Ito K,他	整形外科	Clinical results of active surveillance for extra-abdominal desmoid-type fibromatosis.	Cancer Med. 2023 Mar;12(5):5245-5254. doi: 10.1002/cam4.5329. Epub 2022 Oct 9.	Original Article
107	Osawa Y, Takegami Y, Kato D, 他	整形外科	Hip function in patients undergoing conservative treatment for osteonecrosis of the femoral head	Int Orthop. 2023 Jan;47(1):89-94. doi: 10.1007/s00264-022-05569-w. Epub 2022 Sep 14.	Original Article
108	Hiroto Funahashi, Yusuke Osawa, Taisuke Seki, 他	整形外科	Pelvic morphologies of developmental dysplasia and primary osteoarthritis on range of motion after total hip arthroplasty.	J Orthop Res. 2023 Mar 3. doi: 10.1002/jor.25544. Epub ahead of print. PMID: 36866827.	Original Article
109	Oshika Y, Takegami Y, Tokutake K, 他	整形外科	Ulnar Nerve Neuropathy After Surgery for Intraarticular Distal Humerus Fractures: An Analysis of 116 Patients.	J Hand Surg Am. 2023 Mar 15:S0363-5023(23)00068-0. doi: 10.1016/j.jhsa.2023.02.001. Epub ahead of print. PMID: 36932009.	Original Article
110	Takemoto G, Osawa Y, Seki T, 他	整形外科	A large preoperative pelvic oblique angle affects perception of leg length discrepancy after total hip arthroplasty.	J Orthop Sci. 2023 Feb 24:S0949-2658(23)00019-2. doi: 10.1016/j.jos.2023.01.013. Epub ahead of print. PMID: 36841713.	Original Article
111	Yamamoto S, Takegami Y, Tokutake K, 他	整形外科	Effect of anaesthesia on cemented hemiarthroplasty -A multicentre retrospective study (TRON study).	J Orthop Sci. 2023 Feb 21:S0949-2658(23)00024-6. doi: 10.1016/j.jos.2023.02.005. Epub ahead of print. PMID: 36822946.	Original Article
112	Mori Y, Takegami Y, Tokutake K, 他	整形外科	Retrospective Comparative Study of Clinical Outcomes and Cost-Effectiveness with Bone Substitutes on Volar Locking Plate Fixation of Unstable Distal Radial Fractures in the Elderly.	J Hand Surg Asian Pac Vol. 2023 Feb;28(1):61-68. doi: 10.1142/S2424835523500091. Epub 2023 Feb 20. PMID: 36803469.	Original Article
113	Kurokawa H, Takegami Y, Tokutake K, 他	整形外科	Predictive factors for one-year mortality after surgery for periprosthetic femoral fracture: A retrospective multicenter (TRON group) study.	J Orthop Sci. 2023 Jan 18:S0949-2658(23)00004-0. doi: 10.1016/j.jos.2022.12.015. Epub ahead of print. PMID: 36669954.	Original Article
114	Sakurai S, Takegami Y, Tokutake K, 他	整形外科	Are the Clinical Results of Locking Plate Fixation for Distal Radius Fractures Inferior in Patients over 80 Years of Age? A Multicentre (TRON Group) Study.	Indian J Orthop. 2022 Dec 6;57(1):117-123. doi: 10.1007/s43465-022-00788-0. PMID: 36660494; PMCID: PMC9789222.	Original Article
115	Takami H, Takegami Y, Tokutake K, 他	整形外科	Mortality and clinical outcomes of Vancouver type B periprosthetic femoral fractures : a multicentre retrospective study.	Bone Jt Open. 2023 Jan;4(1):38-46. doi: 10.1302/2633-1462.41.BJO-2022-0145.R1. PMID: 36647618; PMCID: PMC9887342.	Original Article
116	Ohshima K, Tokutake K, Takegami Y,他	整形外科	Longer time of implantation using the buried pin technique for intramedullary nailing would decrease refracture in the diaphyseal forearm fracture in children-retrospective multicenter (TRON) study.	Injury. 2023 Mar;54(3):924-929. doi: 10.1016/j.injury.2023.01.025. Epub 2023 Jan 10. PMID: 36642566.	Original Article
117	Shimizu K, Takegami Y, Tokutake K,他	整形外科	What factors are associated with loss of alignment after open reduction and internal fixation for tibial plateau fractures? A retrospective multicenter (TRON group) study.	. J Orthop Sci. 2022 Dec 26:S0949-2658(22)00372-4. doi: 10.1016/j.jos.2022.12.008. Epub ahead of print. PMID: 36575098.	Original Article
118	Tanaka K, Takegami Y, Tokutake K,他	整形外科	A less invasive operative method using a medial cannulated cancellous screw and single plate fixation for the treatment of transcondylar fracture of the humerus in elderly patients in multicenter (TRON group) study.	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2022 Dec 20. doi: 10.1007/s00590-022-03464-z. Epub ahead of print. PMID: 36536109.	Original Article

119	Yokoyama H, Takegami Y, Tokutake K, 他	整形外科	Clinical comparison of double-plate fixation by the perpendicular plate method versus parallel plate method for distal humeral fracture: a multicenter (TRON group) study.	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2022 Dec 17. doi: 10.1007/s00590-022-03462-1. Epub ahead of print. PMID: 36527504.	Original Article
120	Saito Y, Takegami Y, Tokutake K,他	整形外科	Home exercises after volar locking plate fixation for distal radius fracture in the elderly are as effective as supervised physiotherapy -multicenter retrospective study.	J Orthop Sci. 2022 Dec 14:S0949-2658(22)00330-X. doi: 10.1016/j.jos.2022.11.017. Epub ahead of print. PMID: 36526519.	Original Article
121	Iida H, Seki T, Takegami Y,他	整形外科	Association between locomotive syndrome and fall risk in the elderly individuals in Japan: The Yakumo study.	J Orthop Sci. 2022 Dec 13:S0949-2658(22)00337-2. doi: 10.1016/j.jos.2022.11.023. Epub ahead of print. PMID: 36522244.	Original Article
122	Kagami Y, Tokutake K, Takegami Y, 他	整形外科	Do heel-unloading orthoses improve clinical outcomes in patients after surgical treatment of calcaneal fracture? A propensity-matched, multicenter analysis of the TRON database.	Prosthet Orthot Int. 2022 Dec 1;46(6):569-575. doi: 10.1097/PXR.0000000000000168. Epub 2022 Jul 1. PMID: 36515902.	Original Article
123	Komaki K, Takegami Y, Tokutake K,他	整形外科	Early weight bearing versus late weight bearing after intramedullary nailing for distal femoral fracture (AO/OTA 33) in elderly patients: A multicenter propensity-matched study.	J Orthop Sci. 2022 Nov 25:S0949-2658(22)00312-8. doi: 10.1016/j.jos.2022.10.023. Epub ahead of print. PMID: 36443141.	Original Article
124	Kato D, Takegami Y, Seki T,他	整形外科	Differences in peri-hip articular pain after total hip arthroplasty between taper wedge stem and fit-and-fill stem.	J Orthop. 2022 Nov 4;35:58-63. doi: 10.1016/j.jor.2022.10.014. PMID: 36387764; PMCID: PMC9661431.	Original Article
125	Okamoto M, Seki T, Takegami Y, 他	整形外科	Effect of trochanter displacement on impingement and bone contact in total hip arthroplasty performed after curved intertrochanteric varus osteotomy for osteonecrosis of the femoral head: a simulation study.	BMC Musculoskelet Disord. 2022 Sep 8;23(1):850. doi: 10.1186/s12891-022-05803-x. PMID: 36076229; PMCID: PMC9454145.	Original Article
126	Makihara K, Takegami Y, Tokutake K, 他	整形外科	Risk factors for fracture-related infection after open reduction and internal fixation of proximal humerus fractures: A multicenter retrospective study of 496 fractures (TRON group study).	Injury. 2022 Jul;53(7):2573-2578. doi: 10.1016/j.injury.2022.05.022. Epub 2022 May 27. PMID: 35641333.	Original Article
127	Takegami Y, Seki T, Osawa Y, 他	整形外科	Comparison of periprosthetic femoral fracture torque and strain pattern of three types of femoral components in experimental model.	Bone Joint Res. 2022 May;11(5):270-277. doi: 10.1302/2046-3758.115.BJR-2021-0375.R2. PMID: 35514237; PMCID: PMC9130673.	Original Article
128	Takemoto G, Osawa Y, Seki T, 他	整形外科	Factors influencing inconsistent leg length discrepancy in dysplastic hip osteoarthritis: a retrospective study.	BMC Musculoskelet Disord. 2022 Apr 23;23(1):381. doi: 10.1186/s12891-022-05348-z. PMID: 35461275; PMCID: PMC9034481.	Original Article
129	Sugimoto R, Tokutake K, Takegami Y, 他	整形外科	The Association of Bohler's Angle With Postoperative Pain and Gender for Displaced Intra-Articular Calcaneal Fracture, Multicenter Retrospective Study-TRON Study	. J Foot Ankle Surg. 2022 Jul-Aug;61(4):766-770. doi: 10.1053/j.jfas.2021.11.011. Epub 2021 Nov 29. PMID: 34933790.	Original Article
130	Omichi T, Takegami Y, Tokutake K, 他	整形外科	Mortality and functional outcomes of fragility fractures of the pelvis by fracture type with conservative treatment: a retrospective, multicenter TRON study.	Eur J Trauma Emerg Surg. 2022 Aug;48(4):2897-2904. doi: 10.1007/s00068-021-01839-1. Epub 2021 Dec 1. PMID: 34850256.	Original Article
131	Sugimoto T, Tokutake K, Takegami Y, 他	整形外科	Plate fixation through the lateral extensile approach versus cannulated screw fixation through the sinus tarsi approach for calcaneal fracture: a multicenter, propensity score-matched TRON study.	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2022 Oct;32(7):1333-1340. doi: 10.1007/s00590-021-03115-9. Epub 2021 Sep 9. PMID: 34499226.	Original Article
132	Saito Y, Tokutake K, Takegami Y, 他	整形外科	Does surgical treatment for unstable fragility fracture of the pelvis promote early mobilization and improve survival rate and postoperative clinical function?	Eur J Trauma Emerg Surg. 2022 Oct;48(5):3747-3756. doi: 10.1007/s00068-021-01729-6. Epub 2021 Jun 22. PMID: 34156485.	Original Article
133	Fujita T, Takegami Y, Ando K,他	整形外科	Risk factors for second hip fracture in elderly patients: an age, sex, and fracture type matched case-control study.	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2022 Apr;32(3):437-442. doi: 10.1007/s00590-021-02996-0. Epub 2021 May 18. PMID: 34003374.	Original Article
134	Hiroshige Fujishiro, Shusei Arafuka, Kazuyoshi Ogasawara, 他	精神科	Temporal trajectories of proposed biomarkers in psychiatric-onset prodromal dementia with Lewy bodies: a case report	Psychogeriatrics. 2023 Jan;23(1):196-200. doi: 10.1111/psyg.12922.	Case Report
135	Keita Kawai, Kunihiro Iwamoto, Seiko Miyata,他	精神科	A Study of Factors Causing Sleep State Misperception in Patients with Depression	Nat Sci Sleep. 2022 Jul 15;14:1273-1283. doi: 10.2147/NSS.S366774. eCollection 2022.	Original Article
136	Ippei Okada, Seiko Miyata, Kunihiro Iwamoto,他	精神科	Prevalence of obstructive sleep apnea as assessed by polysomnography in psychiatric patients with sleep-related problems	Sleep Breath. 2022 Dec;26(4):1983-1991. doi: 10.1007/s11325-022-02566-6	Original Article
137	Iwamoto, K., Saji, M., Matsuoka, E. 他	精神科	Driving performance of patients with epilepsy undergoing antiepileptic monotherapy	Psychiatry Clin Neurosci Rep.2023 Mar; 2: e83.doi.org/10.1002/pcn5.83	Letter
138	Wada S, Iwamoto K, Okumura H,他	精神科	Sensory evaluation of the bitterness of asenapine using D-sorbitol pretreatment: single-blind, placebo-controlled, crossover trial	BMC Psychiatry. 2023 Mar 14;23(1):159. doi: 10.1186/s12888-023-04664-5	Others

139	Yamaguchi A, Iwamoto K, Ando M, 他	精神科	Driving performance of euthymic outpatients with bipolar disorder undergoing real-world pharmacotherapy	Psychiatry Clin Neurosci. 2022 May;76(5):172-178. doi: 10.1111/pcn.13332	Original Article
140	Kushima I, Aleksic B, Kimura H, 他	精神科	X chromosome aneuploidies and schizophrenia: association analysis and phenotypic characterization.	Psychiatry Clin Neurosci. 2022 Dec;76(12):667-673. doi: 10.1111/pcn.13474. Epub 2022 Sep 24.	Original Article
141	Kato H, Kimura H, Kushima I,他	精神科	The genetic architecture of schizophrenia: review of large-scale genetic studies.	J Hum Genet. 2023 Mar;68(3):175-182. doi: 10.1038/s10038-022-01059-4. Epub 2022 Jul 12.	Review
142	Kimura H, Nakatochi M, Aleksic B, 他	精神科	Exome sequencing analysis of Japanese autism spectrum disorder case-control sample supports an increased burden of synaptic function-related genes.	Transl Psychiatry. 2022 Jul 11;12(1):265. doi: 10.1038/s41398-022-02033-6.	Original Article
143	Kushima I, Nakatochi M, Aleksic B, 他	精神科	Cross-Disorder Analysis of Genic and Regulatory Copy Number Variations in Bipolar Disorder, Schizophrenia, and Autism Spectrum Disorder.	Biol Psychiatry. 2022 Sep 1;92(5):362-374. doi: 10.1016/j.biopsych.2022.04.003. Epub 2022 Apr 22.	Original Article
144	Kushima I, Imaeda M, Tanaka S,他	精神科	Contribution of copy number variations to the risk of severe eating disorders.	Psychiatry Clin Neurosci. 2022 Sep;76(9):423-428. doi: 10.1111/pcn.13430. Epub 2022 Jun 20.	Original Article
145	Kushima I, Uematsu M, Ishizuka K, 他	精神科	Psychiatric patients with a de novo 17q12 deletion: Two case reports.	Psychiatry Clin Neurosci. 2022 Jul;76(7):345-347. doi: 10.1111/pcn.13367. Epub 2022 May 19.	Letter
146	Nawa Y, Kushima I, Aleksic B, 他	精神科	Treatment-resistant schizophrenia in patients with 3q29 deletion: A case series of four patients.	Psychiatry Clin Neurosci. 2022 Jul;76(7):338-339. doi: 10.1111/pcn.13361. Epub 2022 May 12.	Letter
147	Kushima I, Lo T, Aleksic B, 他	精神科	Case report of a female with bipolar disorder and MBD5 deletion.	Psychiatry Clin Neurosci. 2022 Apr;76(4):127-128. doi: 10.1111/pcn.13329. Epub 2022 Feb 10.	Letter
148	Yamamoto M, Bagarinao E, Shimamoto M, 他	精神科	Involvement of cerebellar and subcortical connector hubs in schizophrenia.	Neuroimage Clin. 2022;35:103140. doi: 10.1016/j.nicl.2022.103140. Epub 2022 Aug 4.	Original Article
149	Arafuka S, Fujishiro H, Iritani S, 他	精神科	Striatal 123IFP-CIT SPECT demonstrates nigral degeneration in the early stage of behavioral variant frontotemporal dementia: an autopsy case with FTLD-TDP-type B.	Psychogeriatrics 22(4):580-585, 2022. doi: 10.1111/psyg.12842.	Case Report
150	Kimura H, Yokoyama H, Torii Y, 他	精神科	Electroconvulsive therapy as a potential therapeutic option in psychiatric-onset prodromal dementia with Lewy bodies.	Int J Geriatr Psychiatry 2023 Jan;38(1):e5863. doi: 10.1002/gps.5863.	Letter
151	Torii Y, Iritani S, Fujishiro H, 他	精神科	An autopsy case of schizophrenia comorbid with argyrophilic grain disease.	Psychogeriatrics 23:371-373, 2023 doi: 10.1111/psyg.12935.	Letter
152	Okochi S, Murase C, Akiyama M	皮膚科	Symmetrical peripheral gangrene in a patient with septic shock due to Serratia marcescens.	J Dermatol 2022. May, 49 (5): e181-e182. doi: 10.1111/1346-8138.16339.	Letter
153	Ueno E, Murase C, Fukaura R, 他	皮膚科	Multiple diagnostic examinations are effective for the early diagnosis of scrofuloderma.	Clin Med 2023. Mar, 23 (2): 179-181, doi: 10.7861/clinmed.2022-0557.	Letter
154	Akiyama M	皮膚科	Autoinflammatory keratinization diseases (AiKDs): The concept, diseases involved, and pathogeneses.	Dermatologica Sinica 2022. Oct-Dec, 40 (4): 197-203, doi: 10.4103/1027-8117.365590	Review
155	Akiyama M	皮膚科	Ichthyosis Scoring System (ISS)-A powerful tool in the era of immune pathway-targeted therapies for ichthyosis.	JAMA Dermatol 2022. Apr, 158 (4): 354-356, doi: 10.1001/jamadermatol.2021.5342.	Others
156	Akiyama M	皮膚科	Understanding immune profiles in ichthyosis may lead to novel therapeutic targets.	J Allergy Clin Immunol 2022. Apr, 149 (4): 1210-1212,doi: 10.1016/j.jaci.2022.02.010.	Others
157	Muro Y, Yamashita Y, Koizumi H, 他	皮膚科	Appropriate immunoassay systems are needed to evaluate various anticentromere antibodies as biomarkers for disease progression in systemic sclerosis.	J Immunol Methods. 2023 Jan;512:113400. doi: 10.1016/j.jim.2022.113400.	Letter
158	Muro Y, Yamashita Y, Koizumi H, 他	皮膚科	Two novel anti-aminoacyl tRNA synthetase antibodies: Autoantibodies against cysteinyl-tRNA synthetase and valyl-tRNA synthetase.	Autoimmun Rev. 2022 Dec;21(12):103204. doi: 10.1016/j.autrev.2022.103204.	Letter

159	Koizumi H, Muro Y, Imai S, 他	皮膚科	A case of juvenile amyopathic dermatomyositis with anti-transcription intermediary factor 1-α antibody showing negative anti-TIF1-γ ELISA results: Comment on "Case of pembrolizumab-induced dermatomyositis with anti-transcription intermediary factor 1-γ antibody".	J Dermatol. 2023 Jan;50(1):e39-e40. doi: 10.1111/1346-8138.16587.	Letter
160	Muro Y, Nishida K, Yamashita Y, 他	皮膚科	Comment on: Favourable complete remission of anti-OJ antibody-positive myositis after lung cancer resection.	Rheumatology (Oxford). 2022 Aug 3;61(8):e232-e234. doi: 10.1093/rheumatology/keac170.	Letter
161	Yamashita Y, Yamano Y, Muro Y, 他	皮膚科	Clinical significance of anti-NOR90 antibodies in systemic sclerosis and idiopathic interstitial pneumonia	Rheumatology (Oxford). 2022 Apr 11;61(4):1709-1716. doi: 10.1093/rheumatology/keab575.	Original Article
162	Takeichi T, Ikeda K, Muro Y,他	皮膚科	Epithelioid cell granuloma formation in CARD14-associated papulosquamous eruptions	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2022 May;36(5):e369-e371. doi: 10.1111/jdv.17890. Epub 2021 Dec 29.	Case Report
163	Murase Y, Takeichi T, Koseki J, 他	皮膚科	UVB-Induced Skin Autoinflammation Due to Nlrp1b Mutation and Its Inhibition by Anti-IL-1β Antibody	Front Immunol. 2022 Jun 17;13:876390. doi: 10.3389/fimmu.2022.876390. eCollection 2022.	Original Article
164	Ito Y, Takeichi T, Nakagawa K, 他	皮膚科	Case of ichthyosis with confetti caused by KRT10 mutation, complicated with multiple malignant melanomas	J Dermatol. 2022 Jul;49(7):e228-e229. doi: 10.1111/1346-8138.16348. Epub 2022 Mar 6.	Case Report
165	Suzuki Y, Takeichi T, Tanahashi K, 他	皮膚科	Deep Phenotyping of Superficial Epidermolytic Ichthyosis due to a Recurrent Mutation in KRT2	Int J Mol Sci. 2022 Jul 14;23(14):7791. doi: 10.3390/ijms23147791.	Case Report
166	Miyazaki A, Taki T, Takeichi T, 他	皮膚科	Darier disease successfully treated with a topical agent containing vitamin A (retinyl palmitate), vitamin E, and urea	J Dermatol. 2022 Aug;49(8):779-782. doi: 10.1111/1346-8138.16395. Epub 2022 Apr 19.	Case Report
167	Yamashita Y, Takeichi T, Ishizu Y, 他	皮膚科	Eosinophilic granulomatosis with polyangiitis complicated with idiopathic thrombocytopenic purpura and sclerosing cholangitis showing eosinophilic infiltration	J Dermatol. 2022 Aug;49(8):e270-e271. doi: 10.1111/1346-8138.16399. Epub 2022 Apr 20.	Case Report
168	Miyazaki A, Takeichi T, Takeuchi S,他	皮膚科	Extremely mild dominant dystrophic epidermolysis bullosa: Genotype information from whole-exome sequencing of salivary gDNA predicts disease severity	J Dermatol. 2022 Aug;49(8):e276-e277. doi: 10.1111/1346-8138.16402. Epub 2022 Apr 21.	Case Report
169	Takeichi T, Ohno Y, Tanahashi K,他	皮膚科	Ceramide Analysis in Combination With Genetic Testing May Provide a Precise Diagnosis for Self-Healing Collodion Babies	J Lipid Res. 2022 Dec;63(12):100308. doi: 10.1016/j.jlr.2022.100308. Epub 2022 Nov 1.	Original Article
170	Yamashita Y, Muro Y, Koizumi H, 他	皮膚科	Comment on: Disease evolution in a long-term follow-up of 104 undifferentiated connective tissue disease patients	Clin Exp Rheumatol. 2023 Jan;41(1):195-196. doi: 10.55563/clinexprheumatol/fnrck0. Epub 2022 Oct 4.	Letter
171	Miyazaki A, Takeichi T, Tanahashi K,他	皮膚科	Whole-exome sequencing reveals a retinitis pigmentosa-causative PRPH2 variant as a secondary finding in a patient with pseudoxanthoma elasticum	J Dermatol. 2023 Feb;50(2):e85-e86. doi: 10.1111/1346-8138.16618. Epub 2022 Oct 25.	Case Report
172	Noda T, Akashi N, Shimomura M, 他	皮膚科	Prominent dermal accumulation of Russell bodies underlying pseudocarcinomatous hyperplasia with fungal infection	Nagoya J Med Sci. 2023 Feb;85(1):123-126. doi: 10.18999/nagjms.85.1.123.	Case Report
173	Horisaki K, Muro Y, Ogawa-Momohara M, 他	皮膚科	Occurrence of cholangiocarcinoma, three years after negative seroconversion of anti-TIF1γ antibody, in a dermatomyositis patient	Eur J Dermatol. 2023 Feb 1;33(1):48-49. doi: 10.1684/ejd.2023.4414.	Case Report
174	Takeichi T, Akiyama M.	皮膚科	Current understanding of the phenotypic spectrum of patients with NLRP1 variants	Br J Dermatol. 2023 Feb 10;188(2):160-167. doi: 10.1093/bjd/ljac036.	Letter
175	Kurihara M, Watari T, Rohde JM, 他	患者安全推進部	Nationwide survey on Japanese residents' experience with and barriers to incident reporting.	PLoS One. 2022 Dec 1;17(12):e0278615.	Original Article
176	Masaru Kurihara, Takashi Watari, Shintaro Kosaka,他	患者安全推進部	Root cause analysis to identify major barriers to the promotion of patient safety in Japan	JOURNAL OF PATIENT SAFETY AND RISK MANAGEMENT 28(1) 9-14 2023年2月	Original Article
177	Kazushige Ichikawa, Toshiaki Taoka, Masanori Ozaki, 他	医療技術部放射線部門	Impact of tissue properties on time-dependent alterations in apparent difusion coefcient: a phantom study using oscillating-gradient spin-echo and pulsed-gradient spin-echo sequences	Jpn J Radiol. 2022 Sep;40(9):970-978. doi: 10.1007/s11604-022-01281-2. Epub 2022 May 7.	Original Article
178	Yoshinori T, Shiro A, Yoshihisa N, Shingo I, 他	医療技術部放射線部門	End-Systolic Eccentricity Index Obtained by Enhanced Computed Tomography Is a Predictor of Pulmonary Vascular Resistance in Patients with Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension.	Life 2022 Apr;12(4):593. doi: 10.3390/life12040593	Original Article

179	Keiko Hattori, Yota Mizuno, Yasuhiro Ogura, 他	医療技術部リハビリ部門	Effects of Neuromuscular Electrical Stimulation on Lower Limb Muscle Strength After Living Donor Liver Transplant: A Case-Control Study	Transplant Proc . 2022 Apr;54(3):749-754.	Original Article
180	Nishio N, Mitani S, Sakamoto K, 他	耳鼻咽喉科	Validation of a surgical training model containing indocyanine green for near-infrared fluorescence imaging.	Laryngoscope Investig Otolaryngol. 2022 Jul 8;7(4):1011-1017. doi: 10.1002/lio2.858.	Original Article
181	Yoshida T, Naganawa S, Kobayashi M, 他	耳鼻咽喉科	17O-labeled water distribution in the human inner ear: insights into lymphatic dynamics and vestibular function.	Front Neurol 2022;13. https://doi.org/10.3389/fneur.2022.1016577	Original Article
182	Yoshida T, Kobayashi M, Sugimoto S,他	耳鼻咽喉科	Endolymphatic hydrops on listening difficulties in patients with normal hearing level.	Acta Otolaryngol. 2023 Feb;143(2):163-169. doi: 10.1080/00016489.2023.2182450.	Original Article
183	Inagaki K, Yoshida T, Kobayashi M, 他	耳鼻咽喉科	Impact of endolymphatic hydrops on DPOAE in subjects with normal to mild hearing loss.	Laryngoscope Investigative Otolaryngology 2022;25:262-268.	Original Article
184	Sone M, Yoshida T, Sugimoto S,他	耳鼻咽喉科	Pathological significance and classification of endolymphatic hydrops in otological disorders.	Nagoya J Med Sci 2022;84:497-505	Review
185	Hamazaki M, Sawada T, Yamamura T, 他	消化器内科	Fecal microbiota transplantation in the treatment of irritable bowel syndrome: a single-center prospective study in Japan	BMC Gastroenterol. 2022 Jul 14;22(1):342. doi: 10.1186/s12876-022-02408-5.	Original Article
186	Wada H, Murate K, Nakamura M, 他	消化器内科	The effects of ustekinumab on small intestinal lesions and stenotic lesions	Nagoya J Med Sci. 2022 Nov;84(4):825-838. doi: 10.18999/nagjms.84.4.825	Original Article
187	Meza MRR, Nakamura M, Yamamura T,他	消化器内科	Immunoproliferative Small Intestinal Disease Diagnosed by Double-balloon Endoscopy with Biopsy Sampling	Intern Med. 2022 Sep 1;61(17):2593-2599. doi: 10.2169/internalmedicine.8847-21. Epub 2022 Feb 8	Case Report
188	Maeda K, Nakamura M, Yamamura T, 他	消化器内科	Gelsolin as a Potential Biomarker for Endoscopic Activity and Mucosal Healing in Ulcerative Colitis	Biomedicines. 2022 Apr 9;10(4):872. doi: 10.3390/biomedicines10040872.	Original Article
189	Rodriguez Meza MR, Nakamura M, Yamamura T, 他	消化器内科	Analysis of immunologic comorbidities in ulcerative colitis patients: a tool to prevent exacerbations in ulcerative colitis cases	Nagoya J Med Sci. 2022 Nov;84(4):733-745. doi: 10.18999/nagjms.84.4.733	Original Article
190	Ohashi A, Yamamura T, Nakamura M, 他	消化器内科	Network Analysis of Gut Microbiota Including Fusobacterium and Oral Origin Bacteria and Their Distribution on Tumor Surface, Normal Mucosa, and in Feces in Patients with Colorectal Cancer	Digestion. 2022;103(6):451-461. doi: 10.1159/000527170. Epub 2022 Nov 7.	Original Article
191	Kawamura T, Yamamura T, Nakamura M, 他	消化器内科	Accuracy of Serum Leucine-Rich Alpha-2 Glycoprotein in Evaluating Endoscopic Disease Activity in Crohn's Disease	Inflamm Bowel Dis. 2023 Feb 1;29(2):245-253. doi: 10.1093/ibd/izac076	Original Article
192	Kawashima H, Ohno E, Ishikawa T,他	消化器内科	Endoscopic management of perihilar cholangiocarcinoma.	Dig Endosc. 2022 Sep;34(6):1147-1156. doi: 10.1111/den.14317. Epub 2022 Jun 2.	Original Article
193	Ohno E, Ishikawa T, Mizutani Y, 他	消化器内科	Factors associated with misdiagnosis of preoperative endoscopic ultrasound in patients with pancreatic cystic neoplasms undergoing surgical resection.	J Med Ultrason (2001). 2022 Jul;49(3):433-441. doi: 10.1007/s10396-022-01205-7. Epub 2022 Apr 12.	Original Article
194	Iida T, Mizutani Y, Esaki N, 他	消化器内科	Pharmacologic conversion of cancer-associated fibroblasts from a protumor phenotype to an antitumor phenotype improves the sensitivity of pancreatic cancer to chemotherapeutics.	Oncogene. 2022 May;41(19):2764-2777. doi: 10.1038/s41388-022-02288-9	Original Article
195	Aoki Toshinori, Ohno Eizaburo, Ishikawa Takuya, 他	消化器内科	Endoscopic sphincterotomy and endoscopic biliary stenting do not affect the sensitivity of transpapillary forceps biopsy for the diagnosis of bile duct adenocarcinoma	BMC Gastroenterol. 2022 Jul 5;22(1):329. doi: 10.1186/s12876-022-02402-x	Original Article
196	Mori Hiroshi, Kawashima Hiroki, Ohno Eizaburo,他	消化器内科	Comparison of an Inside Stent and a Fully Covered Self-Expandable Metallic Stent as Preoperative Biliary Drainage for Patients with Resectable Perihilar Cholangiocarcinoma	Canadian Journal of Gastroenterology and Hepatology. 2022 Jul 5;2022:3005210. doi: 10.1155/2022/3005210. eCollection 2022.	Original Article
197	Gibo Noriaki, Hamaguchi Tomonari, Miki Yasuo, 他	消化器内科	Examination of Abnormal Alpha-synuclein Aggregates in the Enteric Neural Plexus in Patients with Ulcerative Colitis	J Gastrointestin Liver Dis. 2022 Sep 15;31(3):290-300. doi: 10.15403/jgld-4313.	Original Article
198	Ohno Eizaburo, Kawashima Hiroki, Ishikawa Takuya, 他	消化器内科	The role of EUS elastography-guided fine needle biopsy in the histological diagnosis of solid pancreatic lesions: a prospective exploratory study	Scientific reports. 2022 Oct 5;12(1):16603. doi: 10.1038/s41598-022-21178-4.	Original Article

199	Ishiwatari Hirotoshi, Kawabata Takanori, Kawashima Hiroki,他	消化器内科	Clinical Outcomes of Inside Stents and Conventional Plastic Stents as Bridge-to-Surgery Options for Malignant Hilar Biliary Obstruction	Digestive Diseases and Sciences. 2022 Oct 15. doi: 10.1007/s10620-022-07718-y	Original Article
200	Nakaoka Kazunori, Ohno Eizaburo, Kawabe Naoto, 他	消化器内科	Current Status of the Diagnosis of Early-Stage Pancreatic Ductal Adenocarcinoma	Diagnostics. 2023 Jan 6;13(2):215. doi: 10.3390/diagnostics13020215.	Original Article
201	Yamamoto T, Imai N, Kuzuya T, Yokoyama S, 他	消化器内科	Changes in Body Composition Predict the Time to Treatment Failure of Lenvatinib in Patients with Advanced Hepatocellular Carcinoma: A Pilot Retrospective Study	Nutr Cancer. 2022;74(9):3118-3127. doi: 10.1080/01635581.2022.2049322. Epub 2022 Mar 12.	Original Article
202	Noritaka Matsuda 1, Takashi Hirose 1, Naomi Kakushima 1, 他	消化器内科	Comparison of Endoscopic Ultrasonography and Conventional Endoscopy for Prediction of Tumor Depth in Superficial Nonampullary Duodenal Epithelial Tumors	Digestion. 2022;103(4):319-328. doi: 10.1159/000524841. Epub 2022 Jun 1.	Original Article
203	Shinya Yokoyama, Yoji Ishizu, Takashi Honda, 他	消化器内科	Pipeline Esophagogastric Varices Secondary to Extrahepatic Portal Vein Obstruction Treated Endoscopically with the Assistance of Transileocolic Obliteration	Intern Med. 2022 Dec 1;61(23):3503-3511. doi: 10.2169/internalmedicine.9404-22. Epub 2022 Apr 30.	Case Report
204	Ishizu Y, Ishigami M, Honda T, 他.	消化器内科	Factors associated with the progression of myosteatosis in patients with cirrhosis	Nutrition. 2022 Nov-Dec;103-104:111777. doi: 10.1016/j.nut.2022.111777. Epub 2022 Jun 17.	Original Article
205	Sugiyama Y, Ishizu Y, Ando Y, 他	消化器内科	An improved method to assess skeletal muscle mass in patients with liver cirrhosis based on computed tomography images	Hepatol Res. 2022 Nov;52(11):937-946. doi: 10.1111/hepr.13820. Epub 2022 Aug 16.	Original Article
206	Imai N, Ishigami M, Oie Y, 他	消化器内科	Effectiveness of Porous Glass Membrane Pumping Emulsification Device in Transarterial Chemoembolization for Solitary Hepatocellular Carcinoma	Anticancer Res. 2022 Aug;42(8):3947-3951. doi: 10.21873/anticanres.15889.	Original Article
207	Ishizu Y, Ishigami M, Honda T,他	消化器内科	Decreased appetite is associated with the presence of sarcopenia in patients with cirrhosis	Nutrition. 2022 Nov-Dec;103-104:111807. doi: 10.1016/j.nut.2022.111807. Epub 2022 Jul 22.	Original Article
208	Yamamoto T, Ito T, Mizuno K,他	消化器内科	A case of anti-programmed death-ligand 1 antibody-induced multisystem immune-related adverse events with pancreatitis and steroid-resistant	J Dig Dis. 2022 Jul;23(7):404-409. doi: 10.1111/1751-2980.13122.	Case Report
209	Inukai Y, Yamamoto K, Honda T*, Ito T, Imai N, Ishizu Y, Nakamura M, Kawashima H,	消化器内科	Differences in the intestinal microbiome associated with diarrhea during lenvatinib treatment for hepatocellular carcinoma	Dig Dis. 2023;41(1):138-147. doi: 10.1159/000524298. Epub 2022 Mar 28	Original Article
210	Zhao M, Ma L, Honda T*,他	消化器内科	Astaxanthin Attenuates Nonalcoholic Steatohepatitis with Downregulation of Osteoprotegerin in Ovariectomized Mice Fed Choline-Deficient High-Fat	Dig Dis Sci. 2023 Jan;68(1):155-163. doi: 10.1007/s10620-022-07489-6. Epub 2022 Apr 10.	Original Article
211	Muto H, Honda T*, Tanaka T, 他	消化器内科	Proteomic Analysis Reveals Changes in Tight Junctions in the Small Intestinal Epithelium of Mice Fed a High-Fat Diet	Nutrients. 2023 Mar 19;15(6):1473. doi: 10.3390/nu15061473.	Original Article
212	Iwama S, Kobayashi T, Yasuda Y,他	糖尿病・内分泌内科	Immune checkpoint inhibitor-related thyroid dysfunction	Best Pract Res Clin Endocrinol Metab. 2022 May;36(3):101660. doi: 10.1016/j.beem.2022.101660. Epub 2022 Apr 12.	Review
213	Kobayashi T, Iwama S, Yamagami A, 他	糖尿病・内分泌内科	Elevated TSH level, TgAb and prior use of ramucirumab or TKIs as risk factors for thyroid dysfunction in PD-L1 blockade.	J Clin Endocrinol Metab. 2022 Sep 28;107(10):e4115-e4123. doi: 10.1210/clinem/dgac467.	Original Article
214	Sun R, Sugiyama M, Wang S, 他	糖尿病・内分泌内科	Inflammation in VTA Caused by HFD Induces Activation of Dopaminergic Neurons Accompanied by Binge-like Eating.	Nutrients. 2022 Sep 16;14(18):3835. doi: 10.3390/nu14183835.	Original Article
215	Ito Y, Sun R, Yagimuma H, 他	糖尿病・内分泌内科	Protein Tyrosine Phosphatase 1B Deficiency Improves Glucose Homeostasis in Type 1 Diabetes Treated With Leptin	Diabetes. 2022 Sep 1;71(9):1902-1914. doi: 10.2337/db21-0953.	Original Article
216	Kurimoto J, Takagi H, Miyata T, 他	糖尿病・内分泌内科	Mineralocorticoids induce polyuria by reducing apical aquaporin-2 expression of the kidney in partial vasopressin deficiency.	Endocr J. 2023 Mar 28;70(3):295-304. doi: 10.1507/endocrj.EJ22-0339. Epub 2022 Nov 30.	Original Article
217	Handa T, Onoue T, Kobayashi T,他	糖尿病・内分泌内科	Resting energy expenditure depends on energy intake during weight loss in people with obesity: a retrospective cohort study.	Arch Endocrinol Metab. 2023 Mar 10;67(2):233-241. doi: 10.20945/2359-3997000000532. Epub 2022 Dec 1.	Original Article
218	Kawaguchi Y, Hagiwara D, Tsumura T,他	糖尿病・内分泌内科	Knockdown of endoplasmic reticulum chaperone BiP leads to the death of parvocellular AVP/CRH neurons in mice.	J Neuroendocrinol. 2023 Jan;35(1):e13223. doi: 10.1111/jne.13223. Epub 2022 Dec 19.	Original Article

219	Yamaguchi J, Yokoyama Y, Fujii T, 他	消化器外科1	Results of a Phase II Study on the Use of Neoadjuvant Chemotherapy (FOLFIRINOX or GEM/nab-PTX) for Borderline-resectable Pancreatic Cancer (NUPAT-01)	Ann Surg. 2022 Jun 1;275(6):1043-1049. doi: 10.1097/SLA.0000000000005430. Epub 2022 Mar 3.	Others
220	Kawakatsu S, Ebata T, Watanabe N,他	消化器外科1	Mild Prognostic Impact of Postoperative Complications on Long-term Survival of Perihilar Cholangiocarcinoma	Ann Surg. 2022 Jul 1;276(1):146-152. doi: 10.1097/SLA.0000000000004465. Epub 2020 Sep 1.	Original Article
221	Yamada M, Mizuno T, Yamaguchi J, 他	消化器外科1	Superiority of clinical American Joint Committee on Cancer T classification for perihilar cholangiocarcinoma	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2022 Jul;29(7):768-777. doi: 10.1002/jhbp.1066. Epub 2021 Nov 9.	Original Article
222	Fukuoka M, Ichikawa Y, Osako T,他	消化器外科1	The ELEANOR noncoding RNA expression contributes to cancer dormancy and predicts late recurrence of estrogen receptor-positive breast cancer	Cancer Sci. 2022 Jul;113(7):2336-2351. doi: 10.1111/cas.15373. Epub 2022 May 3.	Original Article
223	Mishina T, Uehara K, Ogura A, 他	消化器外科1	Role of resection for extrahepatopulmonary metastases of colon cancer	Jpn J Clin Oncol. 2022 Jul 8;52(7):735-741. doi: 10.1093/jjco/hyac045.	Others
224	Hasebe K, Yamazaki K, Yamaguchi J,他	消化器外科1	Trefoil factor 1 inhibits the development of esophageal adenocarcinoma from Barrett's epithelium	Lab Invest. 2022 Aug;102(8):885-895. doi: 10.1038/s41374-022-00771-1. Epub 2022 Mar 12.	Others
225	Watanabe N, Mizuno T, Yamaguchi J,他	消化器外科1	A proposal of drain removal criteria in hepatobiliary resection	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2022 Sep;29(9):974-982. doi: 10.1002/jhbp.1194. Epub 2022 Jun 24.	Others
226	Nishimura K, Miyata K, Fukaya M,他	消化器外科1	Early volume loss of skeletal muscle after esophagectomy: a risk for late-onset postoperative pneumonia	Dis Esophagus. 2022 Nov 15;35(11):doac019. doi: 10.1093/dote/doac019.	Others
227	Aiba T, Uehara K, Tsuyuki Y,他	消化器外科1	Minimum radial margin in pelvic exenteration for locally advanced or recurrent rectal cancer	Eur J Surg Oncol. 2022 Dec;48(12):2502-2508. doi: 10.1016/j.ejso.2022.06.015. Epub 2022 Jun 16.	Original Article
228	Ishii K, Yokoyama Y, Yonekawa Y,他	消化器外科1	Tranexamic acid and blood loss in pancreaticoduodenectomy: TAC-PD randomized clinical trial	Br J Surg. 2023 Jan 10;110(2):159-165. doi: 10.1093/bjs/znac382.	Original Article
229	Asai Y, Yamaguchi J, Mizuno T, 他	消化器外科1	Impact of preoperative muscle mass and quality on surgical outcomes in patients undergoing major hepatectomy for perihilar cholangiocarcinoma	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2023 Feb;30(2):202-211. doi: 10.1002/jhbp.1220. Epub 2022 Aug 3.	Original Article
230	Yamazaki K, Kokuryo T, Yamaguchi J, 他	消化器外科1	Antitumor Effects of Deep Ultraviolet Irradiation for Pancreatic Cancer	Anticancer Res. 2023 Feb;43(2):621-630. doi: 10.21873/anticanres.16198.	Original Article
231	Kawakatsu S, Yamaguchi J, Mizuno T, 他	消化器外科1	Early Prediction of a Serious Postoperative Course in Perihilar Cholangiocarcinoma: Trajectory Analysis of the Comprehensive Complication Index	Ann Surg. 2023 Mar 1;277(3):475-483. doi: 10.1097/SLA.0000000000005162. Epub 2021 Aug 13.	Original Article
232	Otsuka S, Mizuno T, Yamaguchi J, 他	消化器外科1	Efficacy of Extended Modification in Left Hemihepatectomy for Advanced Perihilar Cholangiocarcinoma: Comparison Between H12345'8'-B-MHV and H1234-B	Ann Surg. 2023 Mar 1;277(3):e585-e591. doi: 10.1097/SLA.0000000000005248. Epub 2021 Oct 8.	Original Article
233	Nakashima Y, Yokoyama Y, Ogawa H, 他	消化器外科1	Which modality is better to diagnose high-grade transformation in retroperitoneal liposarcoma? Comparison of computed tomography, positron emission tomography, and magnetic resonance imaging	Int J Clin Oncol. 2023 Mar;28(3):482-490. doi: 10.1007/s10147-022-02287-6. Epub 2022 Dec 30.	Original Article
234	Shimizu D, Miyata K, Fukaya M,他	消化器外科1	Risk Factors for Muscle Loss During Neoadjuvant Therapy for Esophageal Cancer	Anticancer Res. 2023 Mar;43(3):1309-1315. doi: 10.21873/anticanres.16278.	Original Article
235	Kano MT, Kokuryo T, Baba T, 他	消化器外科1	Cyclodextrin Conjugated α-Bisabolol Suppresses FAK Phosphorylation and Induces Apoptosis in Pancreatic Cancer	Anticancer Res. 2023 Mar;43(3):1009-1016. doi: 10.21873/anticanres.16245.	Original Article
236	Price ZK, Lokman NA, Yoshihara M, 他	産婦人科	Disabled-2 (DAB2): A Key Regulator of Anti- and Pro-Tumorigenic Pathways	Int J Mol Sci. 2022 Dec 31;24(1):696. doi: 10.3390/ijms24010696.	Original Article
237	Tanaka H, Mizuno M, Ishikawa K,他	産婦人科	Plasma activated Ringer's lactate solution	Free Radic Res. 2023 Jan;57(1):14-20. doi: 10.1080/10715762.2023.2182663. Epub 2023 Mar 1.	Original Article
238	Uno K, Iyoshi S, Yoshihara M, 他	産婦人科	Metastatic Voyage of Ovarian Cancer Cells in Ascites with the Assistance of Various Cellular Components	Int J Mol Sci. 2022 Apr 15;23(8):4383. doi: 10.3390/ijms23084383.	Review

239	Ushida T, Kotani T, Kinoshita F,他	産婦人科	Liver transaminase levels during pregnancy: a Japanese multicenter study	J Matern Fetal Neonatal Med. 2022 Dec;35(25):5761-5767. doi: 10.1080/14767058.2021.1892633. Epub 2021 Feb 28.	Original Article
240	Kotani T, Ushida T, Nakamura N,他	産婦人科	5p deletion with congenital diaphragmatic hernia: a case report	J Med Case Rep. 2022 Oct 19;16(1):390. doi: 10.1186/s13256-022-03579-1.	Case Report
241	Aoki C, Imai K, Owaki T, 他	産婦人科	The Possible Effects of Zinc Supplementation on Postpartum Depression and Anemia	Medicina (Kaunas). 2022 May 29;58(6):731. doi: 10.3390/medicina58060731.	Original Article
242	Yoshikawa N, Yoshihara M, Tamauchi S, 他	産婦人科	Hypoalbuminemia for the prediction of survival in patients with stage IVB cervical cancer	PLoS One. 2022 Sep 2;17(9):e0273876. doi: 10.1371/journal.pone.0273876. eCollection 2022.	Original Article
243	Matsuo S, Ushida T, Emoto R, 他	産婦人科	Machine learning prediction models for postpartum depression: A multicenter study in Japan	J Obstet Gynaecol Res. 2022 Jul;48(7):1775-1785. doi: 10.1111/jog.15266. Epub 2022 Apr 19.	Original Article
244	Yoshihara M, Mogi K, Kitami K, 他	産婦人科	Who are the long-term survivors of recurrent ovarian carcinoma?: a retrospective analysis of a multicenter study	Int J Clin Oncol. 2022 Oct;27(10):1660-1668. doi: 10.1007/s10147-022-02214-9. Epub 2022 Jul 30.	Original Article
245	Tano S, Kotani T, Ushida T,他	産婦人科	Optimal annual body mass index change for preventing spontaneous preterm birth in a subsequent pregnancy	Sci Rep. 2022 Oct 19;12(1):17502. doi: 10.1038/s41598-022-22495-4.	Original Article
246	Kotani T, Tsuda H, Ito Y, 他	産婦人科	Prenatal diagnosis of distal 13q deletion syndrome in a fetus with esophageal atresia: a case report and review of the literature	J Med Case Rep. 2022 Dec 27;16(1):481. doi: 10.1186/s13256-022-03713-z.	Case Report
247	Iyoshi S, Sumi A, Yoshihara M,他	産婦人科	Obesity contributes to the stealth peritoneal dissemination of ovarian cancer: a multi-institutional retrospective cohort study	Obesity (Silver Spring). 2022 Aug;30(8):1599-1607. doi: 10.1002/oby.23497. Epub 2022 Jul 18.	Original Article
248	Ushida T, Kotani T, Baba J, 他	産婦人科	Antenatal prediction models for outcomes of extremely and very preterm infants based on machine learning	Arch Gynecol Obstet. 2022 Dec 11. doi: 10.1007/s00404-022-06865-x. Online ahead of print.	Original Article
249	Sonehara R, Nakamura T, Iwase A, 他	産婦人科	Predictive factors for massive hemorrhage in women with retained products of conception: a prospective study	Sci Rep. 2022 Jul 13;12(1):11859. doi: 10.1038/s41598-022-15564-1.	Original Article
250	Ushida T, Cotechini T, Protopapas N, 他	産婦人科	Aberrant inflammation in rat pregnancy leads to cardiometabolic alterations in their offspring and intrauterine growth restriction in the F2 generation - CORRIGENDUM	J Dev Orig Health Dis. 2022 Dec;13(6):816. doi: 10.1017/S2040174422000368. Epub 2022 Jun 27.	Original Article
251	Ushida T, Kotani T, Nakatochi M, 他	産婦人科	Intrauterine exposure to hypertensive disorders of pregnancy and postnatal growth in extremely and very preterm infants	Pregnancy Hypertens. 2022 Jun;28:174-179. doi: 10.1016/j.preghy.2022.05.007. Epub 2022 May 10.	Original Article
252	Ikeda Y, Yoshihara M, Yoshikawa N, 他	産婦人科	Is cystectomy an option as conservative surgery for young patients with borderline ovarian tumor? A multi-institutional retrospective study	Int J Gynaecol Obstet. 2022 May;157(2):437-443. doi: 10.1002/ijgo.13844. Epub 2021 Aug 19.	Original Article
253	Ikeda Y, Yoshihara M, Tamauchi S,他	産婦人科	Survival benefits of retroperitoneal lymphadenectomy for optimally-resected advanced ovarian high-grade serous carcinoma: a multi-institutional retrospective study	J Gynecol Oncol. 2022 Jul;33(4):e40. doi: 10.3802/jgo.2022.33.e40. Epub 2022 Feb 21.	Original Article
254	Fuma K, Kotani T, Nakamura N,他	産婦人科	Severe Congenital Diaphragmatic Hernia With Trisomy 9: A Case Report and Review of the Literature	Cureus. 2022 Aug 25;14(8):e28395. doi: 10.7759/cureus.28395. eCollection 2022 Aug.	Case Report
255	Ushida T, Matsuo S, Nakamura N,他	産婦人科	Reassessing the duration of each stage of labor and their relation to postpartum hemorrhage in the current Japanese population	J Obstet Gynaecol Res. 2022 Jul;48(7):1760-1767. doi: 10.1111/jog.15280. Epub 2022 May 3.	Original Article
256	Yoshida K, Yokoi A, Yamamoto T,他	産婦人科	Aberrant Activation of Cell-Cycle-Related Kinases and the Potential Therapeutic Impact of PLK1 or CHEK1 Inhibition in Uterine Leiomyosarcoma	Clin Cancer Res. 2022 May 13;28(10):2147-2159. doi: 10.1158/1078-0432.CCR-22-0100.	Original Article
257	Nagao Y, Yokoi A, Yoshida K, 他	産婦人科	Novel therapeutic strategies targeting UCP2 in uterine leiomyosarcoma	Pharmacol Res. 2023 Mar;189:106693. doi: 10.1016/j.phrs.2023.106693. Epub 2023 Feb 10.	Original Article
258	Ushida T, Nakamura N, Nakatochi M, 他	産婦人科	Impact of hypertensive disorders of pregnancy on respiratory outcomes in extremely and very preterm infants: A population-based study in Japan	Pregnancy Hypertens. 2022 Aug;29:54-60. doi: 10.1016/j.preghy.2022.06.003. Epub 2022 Jun 17.	Original Article

259	Ushida T, Cotechini T, Protopapas N, 他	産婦人科	Aberrant inflammation in rat pregnancy leads to cardiometabolic alterations in the offspring and intrauterine growth restriction in the F2 generation	J Dev Orig Health Dis. 2022 Dec;13(6):706-718. doi: 10.1017/S2040174422000265. Epub 2022 May 20.	Original Article
260	Ushida T, Nakatochi M, Kobayashi Y,他	産婦人科	Antenatal corticosteroids and outcomes of small for gestational age infants born at 24-31 gestational weeks: a population-based propensity score matching analysis	Arch Gynecol Obstet. 2022 Nov 10. doi: 10.1007/s00404-022-06834-4. Online ahead of print.	Original Article
261	Aoki C, Imai K, Mizutani T, 他	産婦人科	Molecular hydrogen has a positive impact on pregnancy maintenance through enhancement of mitochondrial function and immunomodulatory effects on T cells	Life Sci. 2022 Nov 1;308:120955. doi: 10.1016/j.lfs.2022.120955. Epub 2022 Sep 15.	Original Article
262	Tano S, Kotani T, Yoshihara M,他	産婦人科	A case of non-immune hydrops fetalis with maternal mirror syndrome diagnosed by trio-based exome sequencing: An autopsy case report and literature review	Mol Genet Metab Rep. 2022 Oct 14;33:100925. doi: 10.1016/j.ymgmr.2022.100925. eCollection 2022 Dec.	Case Report
263	Watanabe E, Yokoi A, Yoshida K, 他	産婦人科	Drug library screening identifies histone deacetylase inhibition as a novel therapeutic strategy for choriocarcinoma	Cancer Med. 2023 Feb;12(4):4543-4556. doi: 10.1002/cam4.5243. Epub 2022 Sep 15.	Original Article
264	Tano S, Kotani T, Ushida T,他	産婦人科	Trend changes in age-related body mass index gain after coronavirus disease 2019 pandemic in Japan: a multicenter retrospective cohort study	Reprod Biol Endocrinol. 2023 Jan 19;21(1):7. doi: 10.1186/s12958-023-01061-1.	Original Article
265	Uno K, Yoshihara M , Tano S,他	産婦人科	Proton beam therapy for the isolated recurrence of endometrial cancer in para-aortic lymph nodes: a case report	BMC Womens Health. 2022 Sep 14;22(1):375. doi: 10.1186/s12905-022-01961-1	Original Article
266	Yamamoto E, Nishino K, Niimi K, 他	産婦人科	Epidemiologic study on gestational trophoblastic diseases in Japan.	J Gynecol Oncol. 2022 Nov;33(6):e72. doi: 10.3802/jgo.2022.33.e72. Epub 2022 Aug 10.	Original Article
267	Kotani T , Imai K , Ushida T , 他	産婦人科	Pregnancy Outcomes in Women with Thyroid Diseases	JMA J . 2022 Apr 15;5(2):216-223. doi: 10.31662/jmaj.2021-0191.	Original Article
268	Tamura T, Mori A, Nishiwaki K.	麻酔科	Safe sedation management using volatile anesthetics during cardiopulmonary bypass	J Anesth. 2022 Apr;36(2):287-293. doi: 10.1007/s00540-022-03054-7. Epub 2022 Mar 10.	Original Article
269	Shimojo M, Inden Y, Yanagisawa S, 他	循環器内科	A novel practical algorithm using machine learning to differentiate outflow tract ventricular arrhythmia origins	J Cardiovasc Electrophysiol. 2023 Mar;34(3):627-637. doi: 10.1111/jce.15823. Epub 2023 Jan 24.	Original Article
270	Ohguchi S, Inden Y, Yanagisawa S, 他	循環器内科	Regional left atrial conduction velocity in the anterior wall is associated with clinical recurrence of atrial fibrillation after catheter ablation: efficacy in combination with the ipsilateral low voltage area	BMC Cardiovasc Disord. 2022 Nov 1;22(1):457. doi: 10.1186/s12872-022-02881-6.	Original Article
271	Yanagisawa S, Suzuki H, Kanzaki Y, 他	循環器内科	Efficacy and feasibility of cryoballoon ablation for atrial fibrillation in patients with heart failure: A large-scale multicenter study	J Cardiovasc Electrophysiol. 2022 Dec;33(12):2447-2464. doi: 10.1111/jce.15691. Epub 2022 Oct 5.	Original Article
272	Yanagisawa S, Inden Y, Watanabe R, 他	循環器内科	Depolarization and repolarization dynamics after His-bundle pacing: Comparison with right ventricular pacing and native ventricular conduction	Ann Noninvasive Electrocardiol. 2022 Sep;27(5):e12991. doi: 10.1111/anec.12991. Epub 2022 Jul 8.	Original Article
273	Usui R, Mutsuga M, Narita Y, 他	循環器内科	Higher F-wave frequency associates with poor procedural success rate after Maze procedure	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2022 Dec;70(12):997-1004. doi: 10.1007/s11748-022-01836-0. Epub 2022 Jun 30.	Original Article
274	Okajima T, Inden Y, Yanagisawa S, 他	循環器内科	Impact of synchronized left ventricular pacing rate on risk for ventricular tachyarrhythmias after cardiac resynchronization therapy in patients with heart failure	J Interv Card Electrophysiol. 2022 Oct;65(1):239-249. doi: 10.1007/s10840-022-01284-z. Epub 2022 Jun 23.	Original Article
275	Yanagisawa S, Inden Y, Riku S,他	循環器内科	Coagulation Response and Prothrombotic Effect of Uninterrupted Oral Anticoagulant Administration After Catheter Ablation for VT	JACC Clin Electrophysiol. 2022 Jun;8(6):735-748. doi: 10.1016/j.jacep.2022.02.015. Epub 2022 Apr 27.	Original Article
276	Yanagisawa S, Inden Y, Okajima T,他	循環器内科	Evaluation of the Novel Automated Anti-Tachycardia Pacing Algorithm Successfully Terminating Sustained Monomorphic Ventricular Tachycardia in an Electrophysiology Study	Int Heart J. 2022;63(3):633-638. doi: 10.1536/ihj.21-755.	Original Article
277	Nakagomi T, Inden Y, Yanagisawa S, 他	循環器内科	Characteristics of successful reactive atrial-based antitachycardia pacing in patients with cardiac implantable electronic devices: History of catheter ablation of atrial fibrillation as a predictor of high treatment efficacy	J Cardiovasc Electrophysiol. 2022 Jul;33(7):1515-1528. doi: 10.1111/jce.15551. Epub 2022 May 27.	Original Article
278	Shimojo M, Inden Y, Yanagisawa S, 他	循環器内科	Identification of high priority focal activations in persistent atrial fibrillation using a novel mapping strategy	Heart Vessels. 2022 May;37(5):840-853. doi: 10.1007/s00380-021-01977-x. Epub 2021 Oct 27.	Original Article

279	Inooka D, Omori Y, Ouchi N,他	眼科	Ablation of Ctrp9, Ligand of AdipoR1, and Lower Number of Cone Photoreceptors in Mouse Retina.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2022 May 2;63(5):14. doi: 10.1167/iovs.63.5.14.	Original Article
280	Fang L, Ohashi K, Otaka N, 他	循環器内科	Omentin attenuates angiotensin II-induced abdominal aortic aneurysm formation in apolipoprotein-E knockout mice.	Cardiovasc Res. 2022 May 6;118(6):1597-1610. doi: 10.1093/cvr/cvab179.	Original Article
281	Ouchi N, Ohashi K, Murohara T.	循環器内科	Recent progress in adipocytokine research.	Nagoya J Med Sci. 2023 Feb;85(1):23-26. doi: 10.18999/nagjms.85.1.23.	Review
282	Ito M, Shibata R, Ohashi K,他	循環器内科	Omentin modulates chronic remodeling after myocardial infarction.	Circ Rep. 2023 Jan 18;5(2):46-54. doi: 10.1253/circrep.CR-22-0079. eCollection 2023 Feb 10.	Original Article
283	Shimizu Y, Murohara T.	循環器内科	Therapeutic Angiogenesis for Thromboangiitis Obliterans.	Circ J. 2023 Mar 31.	Others
284	Suzuki J, Shimizu Y, Hayashi T, 他	循環器内科	Hydrogen Sulfide Attenuates Lymphedema Via the Induction of Lymphangiogenesis Through a PI3K/Akt-Dependent Mechanism.	J Am Heart Assoc. 2022 Nov;11(21): e026889.	Original Article
285	Shimizu Y, Kondo K, Hayashida R,他	循環器内科	TACT-ADRC multicenter trial Group. Therapeutic angiogenesis for patients with no-option critical limb ischemia by adipose-derived regenerative cells: TACT-ADRC multicenter trial.	Angiogenesis. 2022 Nov;25(4):535-546.	Original Article
286	Narita S, Unno K, Kato K,他	循環器内科	Direct reprogramming of adult adipose-derived regenerative cells toward cardiomyocytes using six transcriptional factors	iScience. 2022 Jun 24;25(7):104651.	Original Article
287	Yamaguchi S, Shimizu Y, Murohara T, 他	循環器内科	Adipose-derived regenerative cells as a promising therapy for cardiovascular diseases: an overview.	Nagoya J Med Sci. 2022 May;84(2):208-215.	Review
288	Tokuda K, Tanaka A, Tobe A,他	循環器内科	Impact of C-Reactive Protein on Long-Term Cardiac Events in Stable Coronary Artery Disease Patients with Chronic Kidney Disease	J Atheroscler Thromb. 2023 Mar 11. doi: 10.5551/jat.64047. Online ahead of print.	Original Article
289	Kondo T, Araki T, Imaizumi T, 他	循環器内科	Prognosis in Patients With Cardiogenic Shock Who Received Temporary Mechanical Circulatory Support	JACC Asia. 2022 Oct 31;3(1):122-134. doi: 10.1016/j.jacasi.2022.10.004. eCollection 2023 Feb.	Original Article
290	Tobe A, Tanaka A, Tokuda Y,他	循環器内科	Impact of Albuminuria on the Prognosis After Transcatheter Aortic Valve Implantation	Am J Cardiol. 2023 Jan 1;186:156-162. doi: 10.1016/j.amjcard.2022.09.020. Epub 2022 Oct 22.	Original Article
291	Tobe A, Tanaka A, Furusawa K,他	循環器内科	Heterogeneous Carotid Plaque Predicts Cardiovascular Events after Percutaneous Coronary Intervention	J Atheroscler Thromb. 2022 Dec 11. doi: 10.5551/jat.63622. Online ahead of print.	Original Article
292	Tobe A, Tanaka A, Shirai Y,他	循環器内科	Impact of Handgrip Strength on Clinical Outcomes after Percutaneous Coronary Intervention	J Atheroscler Thromb. 2022 Nov 13. doi: 10.5551/jat.63854. Online ahead of print.	Original Article
293	Tobe A, Tanaka A, Tokuda Y, 他	循環器内科	Albuminuria Predicts Short-Term Worsening Renal Function After Transcatheter Aortic Valve Replacement	Cardiovasc Revasc Med. 2022 Sep;42:178-181. doi: 10.1016/j.carrev.2022.03.014. Epub 2022 Mar 24.	Original Article
294	Tobe A, Tanaka A, Tokuda Y,他	循環器内科	Transcatheter aortic valve replacement for bicuspid aortic stenosis with a severely calcified raphe using an under-sized SAPIEN 3 valve: Sizing by the circle method and deployment by the pressure-regulated method	Cardiovasc Revasc Med. 2022 Aug 22:S1553-8389(22)00726-6. doi: 10.1016/j.carrev.2022.08.025. Online ahead of print.	Case Report
295	Tanaka A, Matsuo K, Kikuchi M,他	循環器内科	Systematic Review and Meta-Analysis of Diagnostic Accuracy to Identify ST-Segment Elevation Myocardial Infarction on Interpretations of Prehospital Electrocardiograms	Circ Rep. 2022 May 25;4(7):289-297. doi: 10.1253/circrep.CR-22-0002. eCollection 2022 Jul 8.	Review
296	Shirai Y, Tanaka A, Tokuda Y, 他	循環器内科	Large interventricular membranous septal aneurysm renders the anatomy unsuitable for transcatheter aortic valve replacement	J Card Surg. 2022 Jul;37(7):2103-2104. doi: 10.1111/jocs.16504. Epub 2022 Apr 11.	Case Report
297	Tobe A, Tanaka A, Tokuda Y, 他	循環器内科	Albuminuria predicts worsening renal function after transcatheter aortic valve replacement	J Cardiol. 2022 May;79(5):648-654. doi: 10.1016/j.jjcc.2021.11.014. Epub 2021 Dec 10.	Original Article
298	Elsokkari I, Tsuji Y, Sapp JL, 他	循環器先端医療研究学寄附講座	Recent Insights Into Mechanisms and Clinical Approaches to Electrical Storm	Can J Cardiol. Apr;38(4):439-453. doi: 10.1016/j.cjca.2021.12.015. Epub 2022 Jan 1.	Review

299	Tsuji Y, Dobrev D.	循環器先端医療研究学寄附講座	Chronic total occlusion of infarct-related artery: A bystander or a risk factor of electrical storm?	Int J Cardiol. 2022 Jul 15;359:36-37. doi: 10.1016/j.ijcard.2022.04.016. Epub 2022 Apr 6.	Others
300	Yura Y, Cochran JD, Walsh K.	循環器内科	Therapy-Related Clonal Hematopoiesis: A New Link Between Cancer and Cardiovascular Disease.	Heart Fail Clin. 2022 Jul;18(3):349-359.	Review
301	Araki T, Okumura T, Hiraiwa H, 他	循環器内科	Serum autotaxin as a novel prognostic marker in patients with non-ischaemic dilated cardiomyopathy	ESC Heart Fail. 2022 Apr;9(2):1304-1313. doi: 10.1002/ehf2.13817. Epub 2022 Feb 2.	Original Article
302	Kazama S, Okumura T, Kimura Y, 他	循環器内科	Biopsy-Proven Fulminant Myocarditis Requiring Mechanical Circulatory Support Following COVID-19 mRNA Vaccination	CJC Open. 2022 May;4(5):501-505. doi: 10.1016/j.cjco.2022.02.004.Epub 2022 Feb 13.	Case Report
303	Hiraiwa H, Okumura T, Sawamura A,他	循環器内科	Splenic size as an indicator of hemodynamics and prognosis in patients with heart failure	Heart Vessels. 2022 Aug;37(8):1344-1355. doi: 10.1007/s00380-022-02030-1. Epub 2022 Jan 29.	Original Article
304	Hiraiwa H, Okumura T, Murohara T.	循環器内科	Amino acid profiling to predict prognosis in patients with heart failure: an expert review	ESC Heart Fail. 2023 Feb;10(1):32-43. doi: 10.1002/ehf2.14222. Epub 2022 Oct 27.	Review
305	Hiraiwa H, Okumura T, Murohara T.	循環器内科	The cardiosplenic axis: the prognostic role of the spleen in heart failure	Heart Fail Rev. 2022 Nov;27(6):2005-2015. doi: 10.1007/s10741-022-10248-4. Epub 2022 May 18.	Review
306	Ito R, Hiraiwa H, Araki T, 他	循環器内科	Prognostic value of malnutrition evaluated using the Global Leadership Initiative on Malnutrition criteria and its association with psoas muscle volume in non-ischemic dilated cardiomyopathy	Heart Vessels. 2022 Dec;37(12):2002-2012. doi: 10.1007/s00380-022-02113-z. Epub 2022 Jun 14.	Original Article
307	Kaminogo K, Yamaguchi S, Tokura T,他	歯科口腔外科	Coping styles and quality of life in oral cancer patients undergoing radical resection and free flap reconstruction	Oral Oncology Reports. 2023 Mar;5:100015. doi:10.1016/j.oor.2023.100015.	Original Article
308	Yamaguchi S, Kaminogo K, Tokura T, 他	歯科口腔外科	Social adaptation following radical resection and free flap reconstruction for oral cancer	Advances in Oral and Maxillofacial Surgery. 2023 Feb;10:100416. doi:10.1016/j.adoms.2023.100416.	Original Article
309	Fujio M, Sayo A, Ogisu K, 他	歯科口腔外科	Comparison study of the Le Fort I osteotomy using 2-and 4-plate fixation	Nagoya Journal of Medical Science. 2023 Feb;85(1):70-78. doi:10.18999/nagjms.85.1.70.	Original Article
310	Sato K, Fujii K, Tanaka H,他	歯科口腔外科	Exposure of low-temperature plasma after vaccination in tongue promotes systemic IgM induction against spike protein of SARS-CoV-2	Free Radical Research.2023 Jan;57(1):30-37. doi:10.1080/10715762.2023.2190486.	Original Article
311	Sakai K, Yamamoto N, Yamaguchi S, 他	歯科口腔外科	Langerhans cell histiocytosis of single-system multifocal bone, including the mandible, in a 22-month-old child: A case report	Oral Science International. 2023 Jan;20(1):60-64. doi:10.1002/osi2.1147.	Case Report
312	Ichimura N, Yamamoto N, Urata Y,他	歯科口腔外科	A case of sternal osteomyelitis caused by defective wound healing after surgery of gingival cancer	IDCases. 2023 Jan;31:e01682. doi:10.1016/j.idcr.2023.e01682.	Case Report
313	Sakaguchi K, Taguchi N, Kobayashi R, 他	歯科口腔外科	Immediate curative effects of exercise therapy in patients with myalgia of the masticatory muscles	Journal of Oral Rehabilitation. 2022 Oct;49(10):937-943. doi:10.1111/joor.13355.	Original Article
314	Yamaguchi S, Kaminogo K, Tokura T,他	歯科口腔外科	Psychological impact on patients with oral cancer before undergoing resection and free flap reconstruction surgery	Oral Oncology Reports. 2022 Oct;3-4:1-3. doi:10.1016/j.oor.2022.100004.	Original Article
315	Sato K, Fujii K, Yamamoto N,他	歯科口腔外科	Association of alcohol intake and female gender with high expression of TMPRSS2 in tongue as potential risk for SARS-CoV-2 infection	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition. 2022 Sep;71(2):129-135. doi: 10.3164/jcbn.21-172.	Original Article
316	Okabe K, Kaneko R, Kawai T,他	歯科口腔外科	Efficacy of semi-solidification of enteral nutrients for postoperative nutritional management with a nasogastric tube	Nagoya Journal of Medical Science. 2022 May;84(2):366-373. doi:10.18999/nagjms.84.2.366.	Original Article
317	Koma Y, Fujimoto T, Sakai K, 他	歯科口腔外科	Coexistence of Sjögren's syndrome and bilateral ranulas: A case report and review of the literature	Oral Science International.2022 May;19(2):111-116. doi:10.1002/osi2.1121.	Case Report
318	Naganawa S	放射線科	Editorial: Hydropic Ear Disease: Imaging and Functional Evaluation	Front Surg. 2022 Apr 27;9:913741. doi: 10.3389/fsurg.2022.913741. eCollection 2022.	Others

319	Naganawa S, Ito R, Taoka T, 他	放射線科/革新的生体可視化技術開発産学協同研究講座	Parasagittal Cystic Lesions May Arise from the Pial Sheath around the Cortical Venous Wall	Magn Reson Med Sci. 2023 Jan 1;22(1):143-146. doi: 10.2463/mrms.bc.2021-0141. Epub 2021 Dec 25.	Original Article
320	Naganawa S, Ito R, Taoka T, 他	放射線科/革新的生体可視化技術開発産学協同研究講座	Letter to editor on the article "A non-invasive, automated diagnosis of Menière's disease using radiomics and machine learning on conventional magnetic resonance imaging: a multicentric, case-controlled feasibility study" by van der Lubbe Mfa et al.	Radiol Med. 2022 Apr;127(4):458-459. doi: 10.1007/s11547-022-01486-5. Epub 2022 Mar 24.	Letter
321	Naganawa S, Ito R, Kawamura M, 他	放射線科/革新的生体可視化技術開発産学協同研究講座	Peripheral Retinal Leakage after Intravenous Administration of a Gadolinium-based Contrast Agent: Age Dependence, Temporal and Inferior Predominance and Potential Implications for Eye Homeostasis	Magn Reson Med Sci. 2023 Jan 1;22(1):45-55. doi: 10.2463/mrms.mp.2021-0100. Epub 2021 Oct 16.	Original Article
322	Naganawa S, Ito R, Kawai H, 他	放射線科/革新的生体可視化技術開発産学協同研究講座	Cross-sectional Area of the Superior Petrosal Sinus is Reduced in Patients with Significant Endolymphatic Hydrops	Magn Reson Med Sci. 2022 Jul 1;21(3):459-467. doi: 10.2463/mrms.mp.2021-0010. Epub 2021 Apr 24.	Original Article
323	Naganawa S, Ito R, Kawai H, 他	放射線科/革新的生体可視化技術開発産学協同研究講座	MR Imaging of Endolymphatic Hydrops in Five Minutes	Magn Reson Med Sci. 2022 Jul 1;21(3):401-405. doi: 10.2463/mrms.ici.2021-0022. Epub 2021 Apr 24	Original Article
324	Taoka T, Ito R, Nakamichi R,他	革新的生体可視化技術開発産学協同研究講座/放射線科	Diffusion-weighted image analysis along the perivascular space (DWI-ALPS) for evaluating interstitial fluid status: age dependence in normal subjects	Jpn J Radiol. 2022 Sep;40(9):894-902. doi: 10.1007/s11604-022-01275-0. Epub 2022 Apr 27.	Original Article
325	Komada T, Kamomae T, Matsushima M, 他	放射線科	Embolization using patient-specific vascular models created by a 3D printer for difficult cases: a report of two cases	Nagoya J Med Sci. 2022 May;84(2):477-483. doi: 10.18999/nagjms.84.2.477.	Case Report
326	Hyodo R, Takehara Y, Mizuno T, 他	放射線科/新規低侵襲画像診断法基盤開発研究寄附講座	Assessing the Complicated Venous Hemodynamics and Therapeutic Outcomes of Budd-Chiari Syndrome with Respiratory-gated 4D Flow MR Imaging During the Expiratory and Inspiratory Phases	Magn Reson Med Sci. 2023 Jan 1;22(1):1-6. doi: 10.2463/mrms.ici.2021-0110. Epub 2021 Dec 9.	Original Article
327	Hyodo R, Takehara Y, Naganawa S	放射線科/新規低侵襲画像診断法基盤開発研究寄附講座	4D Flow MRI in the portal venous system: imaging and analysis methods, and clinical applications	Radiol Med. 2022 Nov;127(11):1181-1198. doi: 10.1007/s11547-022-01553-x. Epub 2022 Sep 19.	Original Article
328	Kumagai M, Kawamura M, Kato Y,他	放射線科	The Impact of System-Related Magnetic Resonance Imaging Geometric Distortion in Stereotactic Radiotherapy: A Case Report	Cureus. 2022 Jul 26;14(7):e27269. doi: 10.7759/cureus.27269. eCollection 2022 Jul.	Case Report
329	Okumura M, Junyan Du, Kageyama S, 他	放射線科	Comprehensive screening for drugs that modify radiation-induced immune responses	Br J Cancer. 2022 Jun;126(12):1815-1823. doi: 10.1038/s41416-021-01688-0. Epub 2022 Feb 19.	Original Article
330	Okumura M, Hojo H, Akimoto T	放射線科	Response to palliative radiotherapy for cancer patients with interstitial lung disease: A physician's perspective	Radiother Oncol. 2022 Apr;169:157-158. doi: 10.1016/j.radonc.2022.02.003. Epub 2022 Feb 11.	Others
331	Shimizu Y, Satake H, Ishigaki S,他	放射線科	Physiological background parenchymal uptake of 18F-FDG in normal breast tissues using dedicated breast PET: correlation with mammographic breast composition, menopausal status, and menstrual cycle	Ann Nucl Med. 2022 Aug;36(8):728-735. doi: 10.1007/s12149-022-01754-4. Epub 2022 May 24.	Original Article
332	Imaizumi T, Meyer J, Wakamatsu M, 他	小児科	Clinical parameter-based prediction of DNA methylation classification generates a prediction model of prognosis in patients with juvenile myelomonocytic leukemia	Sci Rep. 2022 Aug 30;12(1):14753. doi: 10.1038/s41598-022-18733-4.	Original Article
333	Narita K, Muramatsu H, Narumi S, 他	小児科	Whole-exome analysis of 177 pediatric patients with undiagnosed diseases	Sci Rep. 2022 Aug 26;12(1):14589. doi: 10.1038/s41598-022-14161-6.	Original Article
334	Wakamatsu M, Kojima D, Muramatsu H,他	小児科	TREC/KREC Newborn Screening followed by Next-Generation Sequencing for Severe Combined Immunodeficiency in Japan	J Clin Immunol. 2022 Nov;42(8):1696-1707. doi: 10.1007/s10875-022-01335-0. Epub 2022 Jul 28.	Original Article
335	Miyagishima M, Hamada M, Hirayama Y, 他	小児科	Risk factors for unplanned removal of central venous catheters in hospitalized children with hematological and oncological disorders	Int J Hematol. 2022 Aug;116(2):288-294. doi: 10.1007/s12185-022-03346-4. Epub 2022 Jun 21.	Original Article
336	Suzuki T, Ito Y, Ito T, 他	小児科	Pathological gait in Rett syndrome: Quantitative evaluation using three-dimensional gait analysis.	Eur J Paediatr Neurol. 2023 Jan;42:15-21. doi: 10.1016/j.ejpn.2022.11.010. Epub 2022 Dec 5.	Original Article
337	Ito Y, Ito T, Ohno A, 他	小児科	Gait performance and dual-task costs in school-aged children with Down syndrome.	Brain Dev. 2023 Mar;45(3):171-178. doi: 10.1016/j.braindev.2022.11.001. Epub 2022 Nov 21.	Original Article
338	Maki Y, Natsume J, Ito Y, 他	小児科	Involvement of the Thalamus, Hippocampus, and Brainstem in Hypsarrhythmia of West Syndrome: Simultaneous Recordings of Electroencephalography and fMRI Study.	AJNR Am J Neuroradiol. 2022 Oct;43(10):1502-1507. doi: 10.3174/ajnr.A7646. Epub 2022 Sep 22.	Original Article

339	Go K, Kato T, Kito M, 他	小児科	Effects of general anesthesia on the results of cardiac catheterization in pediatric patients with ventricular septal defect.	Congenit Heart Dis. 2023 Mar 18(2), 235-243	Original Article
340	Fukasawa Y, Yamamoto H, Ito M, 他	小児科	Case report: High-dose epoprostenol therapy in pediatric patients with pulmonary hypertension and developmental lung disease	Front Pediatr. Mar 3;11:1116434. doi: 10.3389/fped.2023.1116434. eCollection 2023.	Case Report
341	Kato T, Miura M, Kobayashi T, 他	小児科	Analysis of coronary arterial aneurysm regression in patients with Kawasaki disease by aneurysm severity: factors associated with regression.	J Am Heart Assoc. 2023 Feb 7; 12(3): e022417. doi: 10.1161/JAHA.121.022417. Epub 2023 Jan 31.	Original Article
342	Kato T	小児科	Using biomarkers to predict unresponsiveness to initial immunoglobulin for Kawasaki disease patients.	Circ J. 2022 May 25;86(6):984-985. doi: 10.1253/circj.CJ-21-0821. Epub 2021 Nov 2.	Others
343	Yamaguchi K, Yisireyili M, Goto S, 他	輸血部	Indoxyl Sulfate Activates NLRP3 Inflammasome to Induce Cardiac Contractile Dysfunction Accompanied by Myocardial Fibrosis and Hypertrophy.	Cardiovasc Toxicol. 2022 Apr;22(4):365-377.doi: 10.1007/s12012-021-09718-2.Epub 2022 Jan 28.	Original Article
344	Odaira K, Kawashima F, Tamura S, 他	輸血部	F9 mRNA splicing aberration due to a deep Intronic structural variation in a patient with moderate hemophilia B.	Thromb Res. 2022 May;213:91-96.doi:10.1016/j.thromres.2022.03.010. Epub 2022 Mar 15.	Original Article
345	Tamura S, Mukaide M, Katsuragi Y,他	輸血部	Periosteum-derived podoplanin-expressing stromal cells regulate nascent vascularization during epiphyseal marrow development.	J Biol Chem. 2022 May;298(5):101833. doi:10.1016/j.jbc.2022.101833. Epub 2022 Mar 15.	Original Article
346	Okamoto S, Tamura S, Sanda N, 他	検査部	VWF-Gly2752Ser, a novel non-cysteine substitution variant in the CK domain, exhibits severe secretory impairment by hampering C-terminal dimer formation.	J Thromb Haemost. 2022 Aug;20(8):1784-1796. doi:10.1111/jth.15746. Epub 2022 May 22	Original Article
347	Nishihori M, Araki Y, Suzuki N, 他	輸血部	Medical Management of a Mural Thrombus Inducing Repeated Ischemic Strokes in a Patient with Congenital Afibrinogenemia.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2022 Jul;31(7):106526. doi:10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2022.106526. Epub 2022 Apr 27.	Original Article
348	Suzuki N, Suzuki N, Kawaguchi Y, 他	輸血部	The usefulness of tranexamic acid for bleeding symptoms of chronic consumptive coagulopathy complicated by aortic disease: a single-institute, retrospective study of 14 patients	Thromb J. 2023 Jan 25;21(1):10. doi: 10.1186/s12959-022-00429-4.	Original Article
349	Mutsuga M, Chen-Yoshikawa TF	心臓外科	Commentary: Continuous steady development is made by taking 2 steps forward, 1 step bac	J Thorac Cardiovasc Surg. 2022 Aug;164(2):539-540.	Letter
350	Usui A, Mutsuga M.	心臓外科	Surgical Management for Systolic Anterior Motion (SAM) of the Mitral Valve in Obstructive Hypertrophic Myopathy	Ann Thorac Cardiovasc Surg.2022 Aug 20;28(4):239-248.	Others
351	Mutsuga M, Narita Y, Tokuda Y, 他	心臓外科	Predictors of Failure of Mitral Valve Repair Using Artificial Chordae.	Ann Thorac Surg. 2022 Apr;113(4):1136-1143.	Original Article
352	Mutsuga M, Okumura T, Morimoto R,他	心臓外科	Impact of an improved driveline management for HeartMate II and HeartMate 3 left ventricular assist devices.	Artif Organs.2023 Feb;47(2):387-395.	Original Article
353	○Gen S, Tanaka I*, Morise M,他	呼吸器内科	Clinical efficacy of osimertinib in EGFR-mutant non-small cell lung cancer with distant metastasis.	BMC Cancer.2022 Jun 14;22(1):654. doi: 10.1186/s12885-022-09741-8.	Original Article
354	○Sano M, Shindo Y*, Takahashi K, Okumura J,他	呼吸器内科	Risk factors for antibiotic resistance in hospital-acquired and ventilator-associated pneumonia	J Infect Chemother.2022 Jun;28(6):745-752. doi: 10.1016/j.jiac.2022.02.012. Epub 2022 Feb 24.	Original Article
355	○Thabet N, Shindo Y*, Okumura J, Sano M, 他	呼吸器内科	Clinical characteristics and risk factors for mortality in patients with community-acquired staphylococcal pneumonia	Nagoya J Med Sci.2022 May;84(2):247-259.doi: 10.18999/nagjms.84.2.247.	Original Article
356	○Kobayashi H, Shindo Y*, Kobayashi D, 他	呼吸器内科	Extended-spectrum antibiotics for community-acquired pneumonia with a low risk for drug-resistant pathogens	Observational Study.2022 Nov;124:124-132.doi: 10.1016/j.ijid.2022.09.015. Epub 2022 Sep 16.	Original Article
357	○Ito T, Makino Y, Mashimo S, 他	呼吸器内科	Epidermal growth factor receptor mutation-positive advanced lung adenocarcinoma presenting with acute respiratory failure diagnosed by thin bronchoscope through transnasal route under high-concentration oxygen mask.	Respirol Case Rep.2022 Aug 9;10(9):e01007. doi: 10.1002/rcr2.1007. eCollection 2022 Sep.	Case Report
358	○Murakami Y, Shindo Y, Sano M, 他	呼吸器内科	Effects of lymphocyte and neutrophil counts and their time courses on mortality in patients with postoperative pneumonia	Sci Rep.2022 Aug 26;12(1):14564.doi: 10.1038/s41598-022-18794-5.	Original Article

359	○Suzuki A, Sakamoto K, Nakahara Y, 他	呼吸器内科	BMP3b Is a Novel Antifibrotic Molecule Regulated by Meflin in Lung Fibroblasts	Am J Respir Cell Mol Biol.2022 Oct;67(4):446-458.doi: 10.1165/rcmb.2021-0484OC.	Original Article
360	○Ito T, Matsumoto Y, Okachi S, 他	呼吸器内科	A Diagnostic Predictive Model of Bronchoscopy with Radial Endobronchial Ultrasound for Peripheral Pulmonary Lesions.	Respiration. 2022;101(12):1148-1156. doi: 10.1159/000526574. Epub 2022 Nov 3.	Original Article
361	○Ito T, Okachi S, Iwano S, 他	呼吸器内科	Diagnostic value and safety of endobronchial ultrasonography with a guide sheath transbronchial biopsy for diagnosing peripheral pulmonary lesions in patients with interstitial lung disease.	J ThoracDis. 2022 Nov;14(11):4361-4371.doi: 10.21037/jtd-22-809.	Original Article
362	Muto R, Fukuta S, Watanabe T, 他	呼吸器内科	Predicting oxygen requirements in patients with coronavirus disease 2019 using an artificial intelligence-clinician model based on local non-image data	Front Med (Lausanne) 2022 Nov 30;9:1042067. doi: 10.3389/fmed.2022.1042067. eCollection 2022.	Original Article
363	○Shindo Y, Dela Cruz CS, Witzenrath M.	呼吸器内科	Identification of two specific transcriptomic clusters of COVID-19 acute respiratory distress syndrome patients with different immune profiles and different outcomes	Eur Respir J. 2023 Jan 27;61(1):2202008. doi: 10.1183/13993003.02008-2022. Print 2023 Jan.	Others
364	Miki Hashida, Yoshitaka Nagashima, Yusuke Nishimura, 他	脳神経外科	Spontaneous regression of asymptomatic tumefactive perivascular spaces in the anterior temporal lobe	Nagoya J Med Sci. 2022 Aug;84(3):678-685.	Case Report
365	Yoshitaka Nagashima, Yusuke Nishimura, Kaoru Eguchi, 他	脳神経外科	Recent Molecular and Genetic Findings in Intramedullary Spinal Cord Tumors	Neurospine.2022 Jun;19(2):262-271. doi: 10.14245/ns.2244168.084.	Review
366	Takahiro Oyama, Yusuke Nishimura, Yoshitaka Nagashima, 他	脳神経外科	Laminectomy triggers symptomatic growth of spinal schwannoma in a patient with schwannomatosis	Surg Neurol Int.2022 Jun 23;13:261. doi: 10.25259/SNI_453_2022. eCollection 2022	Case Report
367	Yoshitaka Nagashima, Yusuke Nishimura, Hiroshi Ito,他	脳神経外科	Diagnosis and Treatment Strategies for Arachnoiditis Ossificans Following Subarachnoid Hemorrhage: A Case Report	NMC Case Rep J.2022 Sep 15;9:295-299. doi: 10.2176/jns-nmc.2022-0036. eCollection 2022.	Case Report
368	Yoshitaka Nagashima, Yusuke Nishimura, Motonori Ishii, 他	脳神経外科	Unilateral laminotomy for bilateral decompression and balloon kyphoplasty to decompress lumber canal stenosis aggravated by osteoporotic vertebral compression fractures: A technical note	Surg Neurol Int. 2022 Nov 18;13:538. doi: 10.25259/SNI_971_2022. eCollection 2022.	Others
369	Yoshitaka Nagashima, Yusuke Nishimura, Ryuta Saito	脳神経外科	Magnetic Resonance Imaging Scans of Cervical Spinal Cord Ependymoma with Changing Radiological Features over a Short Period of Time	World Neurosurg.2022 Nov;167:95-97. doi: 10.1016/j.wneu.2022.08.116. Epub 2022 Aug 31.	Case Report
370	Takayuki Awaya, Yusuke Nishimura, Kaoru Eguchi, 他	脳神経外科	Radiological Analysis of Minimally Invasive Microscopic Laminectomy for Lumbar Canal Stenosis with a Focus on Multilevel Stenosis and Spondylolisthesis	World Neurosurg. 2022 Aug;164:e224-e234. doi: 10.1016/j.wneu.2022.04.079. Epub 2022 Apr 25.	Original Article
371	Sho Akahori, Yusuke Nishimura, Kaoru Eguchi, 他	脳神経外科	Comparative Study of Anterior Transvertebral Foraminotomy and Anterior Cervical Discectomy and Fusion for Unilateral Cervical Spondylotic Radiculopathy	World Neurosurg.2023 Mar;171:e516-e523. doi: 10.1016/j.wneu.2022.12.053. Epub 2022 Dec 14.	Original Article
372	Hiroyuki Kato, Takafumi Tanei, Yusuke Nishimura, 他	脳神経外科	Pineal parenchymal tumor of intermediate differentiation with late spinal dissemination 13 years after initial surgery: illustrative case	J Neurosurg Case Lessons. 2023 Feb 13;5(7):CASE22475. doi: 10.3171/CASE22475. Print 2023 Feb 13.	Case Report
373	Yoshitaka Nagashima, Takashi Izumi, Yusuke Nishimura, 他	脳神経外科	The usefulness of three-dimensional fusion imaging of spinal arteriovenous malformation by a workstation connected to angiography systems	Nagoya J Med Sci. 2023 Feb;85(1):127-133. doi: 10.18999/nagjms.85.1.127.	Case Report
374	Tanei T, Maesawa S, Nishimura Y, N他	脳神経外科	Relief of Central Poststroke Pain Affecting Both the Arm and Leg on One Side by Double-independent Dual-lead Spinal Cord Stimulation Using Fast-acting Subperception Therapy Stimulation: A Case Report	NMC Case Rep J. 2023 Feb 9;10:15-20. doi: 10.2176/jns-nmc.2022-0336. eCollection 2023.	Case Report
375	Fukaya N, Tanei T, Nishimura Y, 他	脳神経外科	Spinal Cord Stimulation for Neuropathic Pain following a Spinal Cord Lesion with Past Spinal Surgical Histories Using a Paddle Lead Placed on the Rostral Side of the Lesion: Report of Three Cases	NMC Case Rep J. 2022 Oct 13;9:349-355. doi: 10.2176/jns-nmc.2022-0218. eCollection 2022.	Case Report
376	Abe T, Tanei T, Nishimura Y, 他	脳神経外科	True Angina Pectoris Immediately After Cervical Disc Herniation Surgery for Preoperative Cervical Angina Symptoms: A Case Report	Cureus. 2022 Aug 23;14(8):e28313. doi: 10.7759/cureus.28313. eCollection 2022 Aug.	Case Report
377	Torii J, Maesawa S, Nakatsubo D,他	脳神経外科	Cutoff values for the best management strategy for magnetic resonance-guided focused ultrasound ablation for essential tremor.	J Neurosurg. 2022 May 6;1-12.doi: 10.3171/2022.3.JNS212460. Online ahead of print.	Original Article
378	Mamiya T, Kanamori F, Yokoyama K, 他	脳神経外科	Long noncoding RNA profile of the intracranial artery in patients with moyamoya disease	J Neurosurg. 2022 Jul 29;138(3):709-716.doi: 10.3171/2022.5.JNS22579. Print 2023 Mar 1.	Original Article

379	Maesawa S, Torii J, Nakatsubo D, 他	脳神経外科	Dual-lead deep brain stimulation of the posterior subthalamic area and the thalamus was effective for Holmes tremor after unsuccessful focused ultrasound thalamotomy.	Frontiers in HumanNeuroscience doi.org/10.3389/fnhum.2022.1065459. 2022.12	Original Article
380	Kibe Y, Motomura K, Ohka F, Aoki K, 他	脳神経外科	Imaging features of localized IDH wild-type histologically diffuse astrocytomas: a single-institution case series	Sci Rep.2023 Jan 16;13(1):23. doi: 10.1038/s41598-022-25928-2.	Original Article
381	Yamaguchi J, Ohka F, Lushun C, 他	脳神経外科	CD79B Y196 mutation is a potent predictive marker for favorable response to R-MPV in primary central nervous system lymphoma	Cancer Med. 2023 Mar;12(6):7116-7126. doi: 10.1002/cam4.5512. Epub 2022 Dec 7.	Original Article
382	Motomura K, Ohka F, Aoki K, 他	脳神経外科	Supratotal Resection of Gliomas With Awake Brain Mapping: Maximal Tumor Resection Preserving Motor, Language, and Neurocognitive Functions	Front Neurol. 2022 May 12;13:874826.doi: 10.3389/fneur.2022.874826.	Original Article
383	Kazuhito Takeuchi, Fumiharu Ohka,他	脳神経外科	Endoscopic Trans-Mini-Cylinder Biopsy for Intraparenchymal Brain Lesions	World Neurosurg.2022 Nov;167:e1147-e1153.doi: 10.1016/j.wneu.2022.08.147. Epub 2022 Sep 9.	Original Article
384	Kazuhito Takeuchi, Yuichi Nagata, 他	脳神経外科	Efficacy and safety of the endoscopic “wet-field” technique for removal of supratentorial cavernous malformations	Acta Neurochir (Wien).2022 Oct;164(10):2587-2594.doi: 10.1007/s00701-022-05273-z. Epub 2022 Jun 22.	Original Article
385	Kazuhito Takeuchi, Yuichi Nagata, Kuniaki Tanahashi,他	脳神経外科	Quick and simple dural threading technique for transsphenoidal surgery — dural tenting, haemostasis and skull base reconstruction	Acta Neurochir (Wien). 2022 Jun;164(6):1619-1622.doi: 10.1007/s00701-022-05227-5. Epub 2022 May 2.	Others
386	Yuichi NAGATA, Kazuhito TAKEUCHI, Hiroo SASAKI,他	脳神経外科	Modified Shoelace Dural Closure with Collagen Matrix in Extended Transsphenoidal Surgery	Neurol Med Chir (Tokyo). 2022 Apr 15;62(4):203-208. doi: 10.2176/jns-nmc.2021-0355. Epub 2022 Mar 16.	Original Article
387	Kanamori F, Araki Y, Yokoyama K, 他	脳神経外科	Angiographic characteristics of improper watershed shift after STA-MCA bypass in a patient with moyamoya disease: illustrative case	J Neurosurg Case Lessons. 2022 Apr 18;3(16):CASE22104.Print 2022 Apr 18.	Case Report
388	Fumiaki Kanamori, Yoshio Araki, Kinya Yokoyama,他	脳神経外科	The usefulness and safety of dexmedetomidine for postoperative sedation in pediatric patients with moyamoya disease	J Neurosurg Pediatr.2022 Jul 1;1-7. doi: 10.3171/2022.6.PEDS2241. Online ahead of print.	Original Article
389	Naito.Y, Kato.M, Kawanishi.H, 他	泌尿器科	Clinical utility of intraductal carcinoma of the prostate in treatment selection for metastatic hormone-sensitive prostate cancer.	Prostate. 2023 Mar: 83(4) 307-315	Original Article
390	Yamamoto M, Kato Y, Nakagawa Y, 他	人間拡張・手の外科学	Predictive factors and clinical effects of diabetic hand: A prospective study with 1-year follow-up.	J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2022 Sep;75(9):3285-3292. doi: 10.1016/j.bjps.2022.04.085. Epub 2022 May 2.	Original Article
391	Saeki M, Yamamoto M, Tatebe M,他	人間拡張・手の外科学	Postoperative magnetic resonance imaging following lunate resection and vascularized os pisiform transfer in Kienböck’s disease.	J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2022 Aug;75(8):2831-2870. doi: 10.1016/j.bjps.2022.04.016. Epub 2022 Apr 23.	Original Article
392	Yamamoto M, Yasunaga H, Kakinoki R, 他	人間拡張・手の外科学	The CeCORD-J study on collagenase injection versus aponeurectomy for Dupuytren’s contracture compared by hand function and cost effectiveness.	Sci Rep. 2022 May 31;12(1):9094. doi: 10.1038/s41598-022-12966-z.	Original Article
393	Nakano T, Kurimoto S, Ishii H,他	人間拡張・手の外科学	Mast cell presence in tendon sheaths of trigger fingers: implications on pathogenesis and clinical presentation.	J Plast Surg Hand Surg. 2023 Feb-Dec;57(1-6):257-262. doi: 10.1080/2000656X.2022.2061498. Epub 2022 Apr 10.	Original Article
394	Saeki S, Tokutake K, Takasu M,他	人間拡張・手の外科学	Functional Reconstruction of Denervated Muscle by Xenotransplantation of Neural Cells from Porcine to Rat.	Int J Mol Sci. 2022 Aug 7;23(15):8773. doi: 10.3390/ijms23158773.	Original Article
395	Tokutake K, Takeuchi M, Kurimoto S,他	人間拡張・手の外科学	A Therapeutic Strategy for Lower Motor Neuron Disease and Injury Integrating Neural Stem Cell Transplantation and Functional Electrical Stimulation in a Rat Model.	Int J Mol Sci. 2022 Aug 6;23(15):8760. doi: 10.3390/ijms23158760.	Original Article
396	Saeki M, Oyama S, Yoneda H,他	人間拡張・手の外科学	Demonstration experiment of telemedicine using ultrasonography and telerehabilitation with 5G communication system in aging and depopulated mountainous area.	Digit Health. 2022 Oct 13;8:20552076221129074. doi: 10.1177/20552076221129074. eCollection 2022 Jan-Dec.	Original Article
397	Murayama A, Yoneda H, Maehara A, 他	人間拡張・手の外科学	A highly elastic absorbable monofilament suture fabricated from poly(3-hydroxybutyrate-co-4-hydroxybutyrate).	Sci Rep. 2023 Feb 25;13(1):3275. doi: 10.1038/s41598-023-30292-w.	Original Article
398	Koyo Tsujikawa, Kohei Hamanaka, Yuichi Riku, 他	神経内科	Actin-binding protein filamin-A drives tau aggregation and contributes to progressive supranuclear palsy pathology.	Sci Adv. 2022 May 27;8(21):eabm5029. doi: 10.1126/sciadv.abm5029. Epub 2022 May 25.	Original Article

399	Takashi Tsuboi, Yuki Satake, Keita Hiraga, 他	神経内科	Effects of MAO-B inhibitors on non-motor symptoms and quality of life in Parkinson's disease: A systematic review.	NPJ Parkinsons Dis. 2022 Jun 13;8(1):75. doi: 10.1038/s41531-022-00339-2.	Original Article
400	Kishimoto Y, Hashizume A, Imai Y,他	神経内科	Quantitative evaluation of upper limb ataxia in spinocerebellar ataxias.	Ann Clin Transl Neurol. 2022 Apr;9(4):529-539. doi: 10.1002/acn3.51528. Epub 2022 Mar 15.	Original Article
401	Haruki Koike, Soma Furukawa, Naohiro Mouri,他	神経内科	Early ultrastructural lesions of anti-neutrophil cytoplasmic antibody- versus complement-associated vasculitis.	Neuropathology. 2022 Oct;42(5):420-429. doi: 10.1111/neup.12821. Epub 2022 Jun 15.	Original Article
402	Ayuka Murakami, Seiya Noda, Tomoyuki Kazuta,他	神経内科	Metabolome and transcriptome analysis on muscle of sporadic inclusion body myositis.	Ann Clin Transl Neurol. 2022 Oct;9(10):1602-1615. doi: 10.1002/acn3.51657. Epub 2022 Sep 15.	Original Article
403	Yamada S, Hashizume A, Hijikata Y, 他	神経内科	Mexiletine in spinal and bulbar muscular atrophy: a randomized controlled trial.	Ann Clin Transl Neurol. 2022 Nov;9(11):1702-1714. doi: 10.1002/acn3.51667. Epub 2022 Oct 8.	Original Article
404	Masashi Suzuki, Tomohiko Nakamura, Masaaki Hirayama, 他	神経内科	Wearable sensor device-based detection of decreased heart rate variability in Parkinson's disease.	J Neural Transm (Vienna). 2022 Oct;129(10):1299-1306. doi: 10.1007/s00702-022-02528-y. Epub 2022 Jul 14.	Original Article
405	Haruki Koike, Soma Furukawa, Naohiro Mouri, 他	神経内科	Dosage effects of PMP22 on nonmyelinating Schwann cells in hereditary neuropathy with liability to pressure palsies.	Neuromuscul Disord. 2022 Jun;32(6):503-511. doi: 10.1016/j.nmd.2022.04.002. Epub 2022 Apr 9.	Original Article
406	Haruki Koike, Ryoji Nishi, Soma Furukawa,他	神経内科	In vivo visualization of eosinophil secretion in eosinophilic granulomatosis with polyangiitis: An ultrastructural study.	Allergol Int. 2022 Jul;71(3):373-382. doi: 10.1016/j.alit.2022.02.009. Epub 2022 Apr 12.	Original Article
407	Yuki Fukami, Haruki Koike, Masahiro Iijima,他	神経内科	Role of complement components in vasculitic neuropathy associated with systemic lupus erythematosus and rheumatoid arthritis.	Muscle Nerve. 2022 Aug;66(2):175-182. doi: 10.1002/mus.27636. Epub 2022 Jun 1.	Original Article
408	Yosuke Ogura, Kentaro Sahashi, Tomoki Hirunagi, 他	神経内科	Mid1 is associated with androgen-dependent axonal vulnerability of motor neurons in spinal and bulbar muscular atrophy.	Cell Death Dis. 2022 Jul 13;13(7):601. doi: 10.1038/s41419-022-05001-6.	Original Article
409	Satoshi Yokoi, Takuji Ito, Kentaro Sahashi, 他	神経内科	The SYNGAP1 3'UTR Variant in ALS Patients Causes Aberrant SYNGAP1 Splicing and Dendritic Spine Loss by Recruiting HNRNPK.	J Neurosci. 2022 Nov 23;42(47):8881-8896. doi: 10.1523/JNEUROSCI.0455-22.2022. Epub 2022 Oct 19.	Original Article
410	Kentaro Sahashi, Atsushi Hashizume, Yachiyo Kuwatsuka, 他	神経内科	The Japan Registry for Adult Subjects of Spinal Muscular Atrophy (jREACT-SMA): Protocol for a Longitudinal Observational Study.	JMIR Res Protoc. 2022 Dec 15;11(12):e38878. doi: 10.2196/38878.	Original Article
411	Ryota Torii, Atsushi Hashizume, Shinichiro Yamada, 他	神経内科	Clinical Features of Female Carriers and Prodromal Male Patients With Spinal and Bulbar Muscular Atrophy.	Neurology. 2023 Jan 3;100(1):e84-e93. doi: 10.1212/WNL.0000000000201342. Epub 2022 Sep 30.	Original Article

(注)　1　当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2　報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3　「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4　「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5　「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例:　Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9　/　Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6　「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	南島拓矢、肥田裕丈、宮崎雅之、他	薬剤部	免疫チェックポイント阻害薬の有効性及び安全性に対する抗菌薬使用の影響	医療薬学 2022.5 48巻5号、173-193	Original Article
2	中村 真理子、蛯江 裕美、吉見 陽、他	薬剤部	精巣胚細胞腫瘍に対する低用量シスプラチン分割投与におけるアプレピタントの制吐効果	日本緩和医療薬学雑誌、2022.6 15巻2号、33-40	Original Article
3	加藤 博史、成瀬 亮、長谷川 真由、他	薬剤部	フェンタニル舌下錠の突出痛コントロール不良に至るリスク因子の探索	日本緩和医療薬学雑誌、2022.6 15巻2号、47-51	Original Article

4	山田清文	薬剤部	医療機関における薬剤師の卒後研修とキャリアパス	YAKUGAKU ZASSHI 2022.9 142、965-969	Review
5	肥田裕丈、磯貝里奈、野口健、他	薬剤部	精神科外来患者における抗うつ薬および抗不安薬の多剤併用処方状況に関する調査	医療薬学 2022.9 48巻9号 359-367	Original Article
6	宮崎 雅之, 山田 清文	薬剤部	がん化学療法における多職種連携の推進―看護師が知っておきたい薬の基礎知識―	日薬理誌 2022.11 157、416-420	Original Article
7	渡部 亨平, 稲垣 孝行, 今 俊介, 他	薬剤部	周術期抗菌薬の適正使用に向けた取り組みとアウトカム評価	日本化学療法学会雑誌 2023.3 71巻2号 123-132	Original Article
8	清水優樹, 室原豊明	循環器内科	血管・リンパ管の機能制御と疾患メカニズム	化学同人 2022年8月	
9	外山淳治, 辻幸臣, 李鍾国, 他	循環器先端医療研究学寄附講座	チャネル生成・分解の視点から心室再分極相を再考する.	心電図2022; 42:203-211.	Review
10	外山淳治, 渡邉英一, 李鍾国, 他	循環器先端医療研究学寄附講座	巨大陰性T波の発生機序と臨床的意義.	心臓2022; 54 (9):1014-1021.	Review
11	水野 隆史, 尾上 俊介, 渡辺 伸元, 他	消化器外科1	【高難度肝胆膵外科手術アトラス2022】胆道　血管合併切除を伴う胆道癌手術	手術(0037-4423)76巻4号　Page561-569	Others
12	江畑 智希, 水野 隆史, 尾上 俊介,他	消化器外科1	肝門部胆管癌に対する外科切除　1000例超の経験を未来につなぐ	日本外科学会定期学術集会抄録集122回 Page FS-09-5	Others
13	小林 龍太朗, 上原 圭, 小倉 淳司, 他	消化器外科1	骨盤内臓全摘術後の骨盤死腔炎のリスク因子から考える対策法	日本外科学会定期学術集会抄録集122回 Page DP-034-4	Others
14	渡辺 伸元, 水野 隆史, 尾上 俊介, 他	消化器外科1	C.difficile関連感染症に対する酪酸菌製剤の予防効果について	日本外科学会定期学術集会抄録集122回 Page DP-158-8	Others
15	西村 元伸, 上原 圭, 小倉 淳司, 他	消化器外科1	悪性転化した仙尾部奇形腫の2例	日本外科学会定期学術集会抄録集122回 Page DP-032-8	Case Report
16	三品 拓也, 水野 隆史, 上原 圭, 他	消化器外科1	切除可能同時性肝転移症例の治療戦略　肝実質温存術式の有用性	日本外科学会定期学術集会抄録集122回 Page SF-114-7	Others
17	小倉 淳司, 上原 圭, 村田 悠記, 他	消化器外科1	進行直腸癌に対する治療戦略【International】所進行直腸癌に対する術前化学療法におけるbevacizumabの意義の検討	日本外科学会定期学術集会抄録集122回 Page PD-04-1	Others
18	川勝 章司, 水野 隆史, 山口 淳平, 他	消化器外科1	肝門部胆管癌の手術限界を考える　肝門部領域胆管癌肝切除における術中出血量の安全限界	日本外科学会定期学術集会抄録集122回 Page PD-04-2	Others
19	相場 利貞, 上原 圭, 小倉 淳司, 他	消化器外科1	【内視鏡手術からみえる新しい解剖学】下部消化管　左側結腸癌に対する腹腔鏡下大動脈周囲リンパ節郭清	外科(0016-593X)84号5号 Page484-488	Others
20	上原 圭, 小倉 淳司, 村田 悠記, 他	消化器外科1	腹腔鏡下直腸癌手術におけるエネルギーデバイスの選択　腹腔鏡下直腸癌手術におけるエネルギーデバイスの選択　電気メスを中心とした立場から	日本外科系連合学会誌(0385-7883)47巻3号 Page413	Others
21	神原 祐一, 上原 圭, 小倉 淳司, 他	消化器外科1	高度肥満者に対する手術の工夫　高度肥満症例に対し"小さいが安全な術野"を連続させる腹腔鏡下大腸切除術	日本外科系連合学会誌(0385-7883)47巻3号 Page394	Others
22	上原 圭, 小倉 淳司, 村田 悠記,他	消化器外科1	【本邦の大腸癌治療の現状と展望-海外における標準治療と比較して】局所再発に対する治療選択と実践	日本外科学会雑誌(0301－4894)123巻3号 Page255-261	Others
23	村田 悠記, 上原 圭, 小倉 淳司, 他	消化器外科1	他科と連携した骨盤内臓全摘術　骨盤部感染の低減/QOL向上を目指して	日本外科系連合学会誌(0385-7883)47巻3号 Page421	Others
24	南 貴之, 水野 隆史, 山口 淳平,他	消化器外科1	小細胞癌成分を含む胆管癌の2切除例	日本消化器外科学会雑誌(0386-9768)55巻4号 Page240-250	Original Article
25	水野 隆史, 尾上 俊介, 渡辺 伸元, 他	消化器外科1	消化器外科手術アトラス　肝拡大左葉尾状葉切除術	消化器外科(0387-2645)45巻7号Page717-729	Others

26	水野 隆史, 尾上 俊介, 渡辺 伸元, 他	消化器外科1	【Borderline resectableとは?】肝門部領域胆管癌における borderline resectableとは?	外科(0016-593X)84巻6号 Page670-678	Others
27	高橋 大五郎, 水野 隆史, 尾上 俊介, 他	消化器外科1	【肝胆膵癌におけるconversion therapy】胆道癌におけるconversion therapy 胆道癌conversion慎重な立場から 胆道癌における conversion therapyの現状と問題点	肝胆膵(0389-4991)84巻5号Page669-677	Others
28	村田 悠記, 上原 圭, 小倉 淳司, 他	消化器外科1	【直腸癌局所再発に挑む-最新の治療戦略と手術手技】総論 局所再発直腸癌の治療方針 臓器温存手術や遠隔転移併存症例の手術適応も含めて	臨床外科(0386-9857)77巻5号Page514-519	Others
29	江畑 智希	消化器外科1	治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 胆外胆管癌	日本医事新報(0385-9215)5126号Page46	Others
30	小林 龍太朗, 上原 圭, 小倉 淳司, 他	消化器外科1	扁平上皮癌に悪性転化した仙尾部奇形腫の1例	日本外科系連合学会誌(0385-7883)47巻3号 Page470	Case Report
31	渡辺 伸元, 水野 隆史, 山口 淳平,他	消化器外科1	【これ一冊ですべて網羅!消化器の吻合方法】各臓器における吻合方法 胆管の吻合	消化器外科(0387-2645)45巻8号Page901-909	Others
32	江畑 智希	消化器外科1	手術器具・手術材料 私のこだわり 胆道癌肝切除におけるクラフォード鑷子	臨床外科(0386-9857)77巻9号Page1108-1112	Others
33	川勝 章司, 水野 隆史, 山口 淳平, 他	消化器外科1	肝門部領域胆管癌術後のfailure to rescueを防ぐために	日本消化器外科学会総会77回Page O9-3	Others
34	神原 祐一, 上原 圭, 小倉 淳司, 他	消化器外科1	術前CAR(CRP/albumin ratio)は高齢者大腸癌術後症例の予後予測因子である	日本消化器外科学会総会77回Page P119-6	Others
35	金森 明, 横山 幸浩, 伊神 剛, 他	消化器外科1	遠位胆管癌における病理学的腫瘍浸潤長は術前CT検査で予測可能か?	日本消化器外科学会総会77回Page P142-2	Others
36	林 大介, 江畑 智希, 横山 幸浩,他	消化器外科1	胆道再建を伴う肝右三区域切除における術後肝不全の予測因子	日本消化器外科学会総会77回Page P157-1	Others
37	三竹 泰弘, 尾上 俊介, 横山 幸浩, 他	消化器外科1	肝外胆管の胆管内乳頭状腫瘍(IPNB)に独自のT分類は必要か?	日本消化器外科学会総会77回Page P062-1	Others
38	出井 秀幸, 横山 幸浩, 夏目 誠治, 他	消化器外科1	肝胆膵外科手術における術前腸内細菌叢が術後合併症に及ぼす影響についての前向き臨床研究	日本消化器外科学会総会77回Page P086-3	Others
39	村田 悠記, 水野 隆史, 上原 圭, 他	消化器外科1	切除可能同時性大腸癌肝転移症例に対する肝実質温存肝切除が生存率に与える影響	日本消化器外科学会総会77回Page P093-4	Others
40	杉田 静紀, 宮田 一志, 横山 幸浩, 他	消化器外科1	【総論】消化管癌手術におけるドレーン留置を再考する 食道癌術後頸部吻合部ドレーン排液の継続的アミラーゼ測定の有用性	日本消化器外科学会総会77回Page PD6-1	Others
41	江畑 智希, 水野 隆史, 尾上 俊介,他	消化器外科1	Major肝切除中の出血 いつか遭遇する、その時のために	日本消化器外科学会総会77回Page U40-講師1	Others
42	竹林 三喜子, 國料 俊男, 馬場 泰輔, 他	消化器外科1	膵癌に対するシクロデキストリン抱合化ビサボロールの抗腫瘍効果と作用機序の検討	日本消化器外科学会総会77回Page P207-5	Others
43	中島 悠, 横山 幸浩, 砂川 真輝, 他	消化器外科1	後腹膜脂肪肉腫の脱分化成分同定におけるFDG-PETとMRIの有用性の比較	日本消化器外科学会総会77回Page P226-2	Others
44	横山 幸浩, 砂川 真輝, 伊神 剛, 他	消化器外科1	原発および再発後腹膜脂肪肉腫に対する積極的外科治療の成績	日本消化器外科学会総会77回Page P226-3	Others
45	砂川 真輝, 横山 幸浩, 伊神 剛, 他	消化器外科1	血管合併切除・再建を要した後腹膜悪性軟部腫瘍の手術経験	日本消化器外科学会総会77回Page P226-4	Others
46	三品 拓也 水野 隆史, 上原 圭, 他	消化器外科1	大腸癌同時性肝転移に対するBorderline resectable症例は設定可能か?切除可能分類における治療戦略と成績	日本消化器外科学会総会77回Page P226-6	Others
47	高橋 遼, 水野 隆史, 横山 幸浩, 他	消化器外科1	肝内胆管癌と診断し肝右葉切除+下大静脈合併切除再建を施行した肝類上皮肉芽腫の一例	日本消化器外科学会総会77回Page P266-1	Others
48	長谷部 圭史, 山口 淳平, 國料 俊男, 他	消化器外科1	Trefoil factor family 1(TFF1)はパレット上皮由来の食道腺癌発生を抑制する	日本消化器外科学会総会77回Page P288-6	Others
49	神野 孝徳, 上原 圭, 小倉 淳司, 他	消化器外科1	BRAF V600E変異陽性進行再発大腸癌の治療成績から考える転移巣切除の至適適応	日本消化器外科学会雑誌(0386-9768)55巻8号 Page473-482	Original Article

50	栗本 景介, 高見 秀樹, 猪川 祥邦, 他	消化器外科1	【肝胆膵】遺伝子パネル検査は肝・胆・膵癌の治療方針を変えたか? 当院の胆膵腫瘍におけるがん遺伝子パネル検査の実状と周術期におけるがん遺伝子パネル検査への期待	日本消化器外科学会総会77回Page W4-5	Others
51	川勝 章司, 水野 隆史, 渡辺 伸元, 他	消化器外科1	【胆膵周術期合併症のマネージメント】胆道再建を伴う肝切除後門脈血栓に対するマネージメント	胆と膵(0388-9408)43巻9号Page841-845	Others
52	尾上 俊介, 水野 隆史, 江畑 智希	消化器外科1	遠位胆管癌診療の現状と課題　中部胆管癌に対する肝門部胆管高位切離　より長い胆管マージンを目指して	胆道(0914-0077)36巻3号Page300	Others
53	尾上 俊介, 水野 隆史, 渡辺 伸元, 他	消化器外科1	手術手技　肝外胆管癌に対する肝門部胆管高位切除　肝切除を避けるために	手術(0037-4423)76巻11号　Page1729-1734	Others
54	川勝 章司, 水野 隆史, 渡辺 伸元, 他	消化器外科1	【胆嚢疾患診療の最前線】胆道癌診療ガイドラインからみた胆嚢癌診療	肝胆膵(0389-4991)84巻4号Page487-491	Review
55	小倉 淳司, 上原 圭, 村田 悠記, 他	消化器外科1	進行直腸がんの新しい治療戦略-術前治療と手術適応-　局所進行直腸癌に対するNACを基本とした治療戦略TripletとW&Wの安全な導入(英語)	日本癌治療学会学術集会抄録集60回Page OWS10-4	Review
56	神原 祐一, 上原 圭, 小倉 淳司, 他	消化器外科1	高齢者に対する大腸がん治療の個別化を考える　術前CRP/Alb比高値と術後内臓脂肪面積減少は高齢者大腸癌患者の予後不良因子である(英語)	日本癌治療学会学術集会抄録集60回Page OWS9-2	Review
57	横山 幸浩, 砂川 真輝, 栗本 景介, 他	消化器外科1	【術前画像の読み解きガイド-的確な術式選択と解剖把握のために】後腹膜　後腹膜腫瘍　術式選択のポイント	臨床外科(0386-9857)77巻11号Page325-329	Others
58	村田 悠記, 上原 圭, 小倉 淳司, 他	消化器外科1	骨盤外科手術に必要な外科解剖-拡大手術、他臓器合併切除を安全に行うために-　局所進行・再発直腸癌に対する腹腔鏡下骨盤内臓全摘術の安全な導入に向けた取り組み　umbilical 1stアプローチの有用性	日本内視鏡外科学会雑誌(1344-6703)27巻7号Page908	Others
59	神原 祐一, 上原 圭, 小倉 淳司, 他	消化器外科1	イマチニブ投与後に経肛門アプローチを併用して前方臓器温存し得た直腸巨大GISTの1例	日本内視鏡外科学会雑誌(1344-6703)27巻7号Page659	Others
60	上原 圭, 小倉 淳司, 村田 悠記, 他	消化器外科1	T4b大腸癌に対する腹腔鏡手術:手技の工夫と成績　cT4b大腸癌に対する腹腔鏡手術の適応と攻略法	日本内視鏡外科学会雑誌(1344-6703)27巻7号Page79	Others
61	小倉 淳司, 上原 圭, 村田 悠記, 他	消化器外科1	困難症例に対する大腸癌手術:手技の工夫と成績　他臓器浸潤結腸癌に対する腹腔鏡手術の実際と工夫	日本内視鏡外科学会雑誌(1344-6703)27巻7号Page1875	Others
62	杉田 静紀, 宮田 一志, 伊神 剛, 他	消化器外科1	若手外科医が安全にロボット支援胃切除を導入するための工夫とスキル評価システム	日本内視鏡外科学会雑誌(1344-6703)27巻7号Page1876	Others
63	伊神 剛, 上原 圭, 水野 隆史, 他	消化器外科1	胆道解剖の変異を伴う症例に対する単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術における蛍光胆道鏡の有効性と限界	日本内視鏡外科学会雑誌(1344-6703)27巻7号Page1365	Others
64	深田 浩志, 上原 圭, 小倉 淳司, 他	消化器外科1	進行再発直腸癌に対する腹腔鏡拡大手術:手技の工夫と成績　当科における局所再発直腸癌に対する腹腔鏡下拡大手術の治療成績	日本内視鏡外科学会雑誌(1344-6703)27巻7号Page933	Others
65	野中 有紀子, 上原 圭, 小倉 淳司, 他	消化器外科1	Nonoperative management後に再燃した局所進行直腸癌に対してサルベージ手術を施行した1例	日本臨床外科学会雑誌(1345-2843)83巻12号Page2147	Case Report
66	鳥居 直矢, 宮田 一志, 杉田 静紀, 他	消化器外科1	膵頭十二指腸切除既往を有する頸部食道癌の1例	日本臨床外科学会雑誌(1345-2843)83巻12号Page2143	Case Report
67	水野 隆史, 小倉 淳司, 尾上 俊介,他	消化器外科1	切除不能肺転移を有する直腸癌同時性切除可能肝転移に対する腹腔鏡下rescue liver resection	日本内視鏡外科学会雑誌(1344-6703)27巻7号Page2508	Case Report
68	尾上 俊介, 伊神 剛, 水野 隆史,他	消化器外科1	右後区域胆管枝の走行変異を伴うMirizzi症候群に対する腹腔鏡下手術　正確な解剖認識と術前準備	日本内視鏡外科学会雑誌(1344-6703)27巻7号Page1999	Case Report
69	牛田 雄太, 渡辺 伸元, 川勝 章司, 他	消化器外科1	広範囲胆管癌術後に縦隔膿瘍をきたした1例	日本臨床外科学会雑誌(1345-2843)83巻12号Page2149	Case Report
70	桑原 聖実, 砂川 真輝, 横山 幸浩, 他	消化器外科1	開胸・開腹下で切除したAYA世代下大静脈原発平滑筋肉腫の1例	日本臨床外科学会雑誌(1345-2843)83巻12号Page2149	Case Report
71	相場 利貞, 上原 圭, 小倉 淳司, 他	消化器外科1	局所進行再発直腸癌に対する骨盤内臓全摘術摘出標本の評価法	日本大腸肛門病学会雑誌(0047-1801)76巻1号Page58	Others
72	小倉 淳司, 上原 圭, 相場 利貞,他	消化器外科1	局所進行直腸癌に対する新たな予後因子の検討　術前化学療法推奨の立場から日本独自のTotal neoadjuvant therapyにむけての提言	日本大腸肛門病学会雑誌(0047-1801)76巻1号Page59	Others
73	村田 悠記, 上原 圭, 小倉 淳司,他	消化器外科1	困難な状況下でも良いストーマを造設する手技　腸管粘膜反転が困難な場合の対処法　煙突状ストーマ造設術の有用性について	日本大腸肛門病学会雑誌(0047-1801)75巻9号PageA69	Others

74	小林 龍太朗, 上原 圭, 小倉 淳司, 他	消化器外科1	当院におけるMSI-High大腸癌に対する免疫チェックポイント阻害薬の臨床経験	日本大腸肛門病学会雑誌(0047-1801)75巻9号 PageA149	Others
75	深田 浩志, 上原 圭, 小倉 淳司,他	消化器外科1	直腸癌術後異時性肝・肺転移に対して化学療法開始後1年7ヵ月でconversion切除し得た1例	日本大腸肛門病学会雑誌(0047-1801)75巻9号 PageA221	Others
76	杉田 静紀, 宮田 一志, 田中 千恵, 他	消化器外科1	進行胃癌に対しての腹腔鏡下胃切除術の注意点と短期成績	日本胃癌学会総会記事95回Page345	Others
77	小林 龍太朗, 上原 圭, 小倉 淳司, 他	消化器外科1	免疫チェックポイント阻害薬により病理学的完全奏功が得られたMSI-High大腸癌腹壁限局播種再発・小腸間膜リンパ節転移の1例	日本大腸肛門病学会雑誌(0047-1801)75巻9号 PageA149	Case Report
78	小倉 淳司, 上原 圭, 村田 悠記, 他	消化器外科1	下部進行直腸癌における術前化学療法後の側方リンパ節縮小の意義の検討	日本大腸肛門病学会雑誌(0047-1801)76巻2号 PageA184	Others
79	小倉 淳司, 上原 圭, 村田 悠記, 他	消化器外科1	直腸癌術前集学的治療の成績:Watch & Waitを含めて　局所進行直腸癌に対する術前化学療法を基本とした治療戦略Tripletレジメンの臨床経験とWatch and Wait strategyの安全な導入	日本大腸肛門病学会雑誌(0047-1801)75巻9号 PageA54	Others
80	渡辺 伸元, 水野 隆史, 山口 淳平, 他	消化器外科1	【胆管再建を見直す】胆管・空腸吻合困難症例におけるコツと落とし穴(右側肝切除)	手術(0037-4423)76巻11号　Page297-302	Others
81	川勝 章司, 水野 隆史, 山口 淳平, 他	消化器外科1	肝門部領域胆管癌術後のComprehensive Complication Indexの至適な算出期間は?	日本消化器外科学会総会55巻Suppl.2 Page241	Others
82	中島 悠, 水野 隆史, 尾上 俊介, 他	消化器外科1	医原性肝門部胆管狭窄を伴う神経内分泌腫瘍残肝再発に対し肝中央二区域・尾状葉切除+肝内胆管空腸吻合を行った1例	胆道(0914-0077)37巻1号Page108-115	Original Article
83	村田 悠記, 上原 圭, 江畑 智希	消化器外科1	骨盤高難度手術に挑む　骨盤内臓全摘術後の骨盤死腔炎の低減に向けた取り組み	日本消化器外科学会総会55巻Suppl.2 Page63	Others
84	尾上 俊介, 水野 隆史, 渡辺 伸元, 他	消化器外科1	【血管再建を伴う高難度肝胆膵外科手術】肝門部領域胆管癌に対する肝動脈合併切除再建を伴う左側肝切除	外科(0016-593X)85巻2号 Page145-154	Others
85	横山 幸浩, 江畑 智希	消化器外科1	【胆膵疾患と腸内細菌の現状と展望】胆道　茵ちん蒿湯薬理作用と腸内細菌の関係	胆と膵(0388-9408)44巻9号Page207-211	Others
86	今釜 史郎	整形外科・リウマチ科	整形外科手術　名人のknow-how　嘴状型胸髄圧迫病変に対するRASPA法(大塚変法)のknow-how(解説) X215080003<Pre 医中誌>, DOI:10.18888/se.0000002443	整形・災害外科(0387-4095)66巻2号 Page114-119(2023.02)	Review
87	町野 正明, 中島 宏彰, 今釜 史郎	整形外科・リウマチ科	卒後研修講座　慢性腰痛に関する疫学・臨床研究のエビデンス(解説)	整形外科(0030-5901)74巻1号 Page61-67(2023.01)、X113190019<Pre 医中誌>, DOI:10.15106/j_seikei74_61	Review
88	富田 浩之, 中島 宏彰, 町野 正明, 他	整形外科・リウマチ科	【腰痛と膝関節痛】腰痛の診療　変形性腰椎症と腰部脊柱管狭窄症(解説)	臨牀と研究(0021-4965)99巻12号 Page1429-1436(2022.12)	Review
89	伊藤 定之, 中島 宏彰, 町野 正明,他	整形外科・リウマチ科	【整形外科領域における人工知能の応用】深層学習を用いたMRIでの脊髄腫瘍自動位置検出システムの構築(原著論文)	臨床整形外科(0557-0433)57巻10号 Page1189-1195(2022.10)	Original Article
90	安藤 圭, 中島 宏彰, 町野 正明, 他	整形外科・リウマチ科	ダウン症小児上位頸椎病変に対する後頭頸椎、上位頸椎固定術後の画像変化　術後の成長について	Journal of Spine Research(1884-7137)13巻5号 Page763-769(2022.05)、論文種類:原著論文	Original Article
91	西田佳弘、小池宏、生田国大、他	整形外科・リウマチ科	【整形外科画像診断・評価の進歩】MRI　骨肉腫の術前化学療法評価における拡散強調画像の有用性	整形外科　73巻　6号　Page 601-604 (2022.5)	Original Article
92	西田佳弘、酒井智久、生田国大、他	整形外科・リウマチ科	薬物療法の適応と限界1・2　デスモイドに対する薬物治療	日本整形外科学会雑誌　96巻　7号　Page 488-493 (2022.7)	Original Article
93	夫馬 和也, 小谷 友美, 飯谷 友佳子, 他	産婦人科	硫酸マグネシウムの児脳保護作用についての検討	日本周産期・新生児医学会雑誌(1348-964X)57巻4号 Page845-847(2022.04)	Original Article
94	植草良輔、小林知子、横山幸浩、他	産婦人科	妊娠中に著名な増大を認め、帝王切開と同時に摘出した腎外性後腹膜血管筋脂肪腫の1例	東海産婦人科学会雑誌、2022 59:157-162	Case Report
95	木村宏之, 平野直己, 岸辰一, 岡田暁宜, 他	精神科	COVID-19パンデミックに係る国の緊急事態宣言前後におけるサイコセラピー・スーパービジョンの機会提供の変化に関する調査研究	精神分析研究. 2023 Mar;67(1):120-146.	Original Article
96	木村宏之.	精神科	リエゾン精神医学における精神分析的精神医学	精神神経学雑誌. 2023 Feb;125(2):135-144,	Review
97	佐藤曾士, 徳倉達也, 宮内倫也, 他	精神科	精神疾患・心理社会的要因が原因と考えられる非歯原性歯痛に対し漢方薬が奏功した症例	痛みと漢方. 2022 Jun;31:97-100.	Case Report

98	徳倉達也, 稲田俊也.	精神科	慢性疼痛の治療薬としての抗うつ薬	臨床精神薬理. 2022 Apr;25(5):501-506.	Review
99	徳倉達也.	精神科	双極性障害のうつ状態	現代医学. 2022 Dec;69(2):39-43.	Review
100	村瀬 千晶, 秋山 真志	皮膚科	ネザートン症候群を見極める	Derma.2022,April 320号 Page230-236	Review
101	佐伯 秀久, 秋山 真志, 安部 正敏,他	皮膚科	アトピー性皮膚炎におけるヤヌスキナーゼ(JAK)阻害内服薬の使用ガイダンス	日本皮膚科学会雑誌 2022 July 132巻8号 Page1797-1812	Original Article
102	武市 拓也	皮膚科	【好中球が関わる皮膚疾患update】膿疱性乾癬における好中球の関与update	Derma.(1343-0831)324号 Page27-31(2022.07)	Others
103	垣生 美奈子, 武藤潤, 吉川 剛典, 他	皮膚科	【手足の皮膚病】長島型掌蹠角化症とアトピー性皮膚炎の併存	皮膚病診療(0387-7531)44巻7号 Page618-621(2022.07)	Case Report
104	江畑 葵, 武市 拓也, 秋山 真志	皮膚科	【皮膚科学研究に応用できる最新テクニックとアプローチ】稀少疾患の遺伝子解析	皮膚科(2436-570X)2巻4号 Page496-503(2022.10)	Others
105	武市 拓也	皮膚科	新・皮膚科セミナリウム 自己炎症性疾患と自己炎症性角化症 自己炎症性角化症診療アップデート	日本皮膚科学会雑誌(0021-499X)132巻11号 Page2501-2505(2022.10)	Others
106	松本 香奈枝, 金子栄, 竹内 想,他	皮膚科	遺伝子解析を行ったVoerner型掌蹠角化症の親子例	西日本皮膚科(0386-9784)84巻5号 Page418-421(2022.10)	Case Report
107	井上 円, 足立 美穂, 久世 文也, 他	皮膚科	Lipoid proteinosis小児例の皮膚粘膜症状	日本小児皮膚科学会雑誌(0286-9608)41巻2号 Page141-145(2022.06)	Case Report
108	武市 拓也	皮膚科	【Geneticsとepigenetics】Paget病のgenetics	皮膚科(2436-570X)2巻6号 Page769-773(2022.12)	Others
109	松井 響子, 吉川 剛典, 武市 拓也,他	皮膚科	【角化症～角質の科学から考える～】道化師様魚鱗癬	皮膚病診療(0387-7531)45巻3号 Page254-257(2023.03)	Case Report
110	武市 拓也, 棚橋 華奈, 秋山 真志	皮膚科	老人性乾皮症の病態におけるSDR9C7の果たす役割の解明	加齢皮膚医学セミナー17巻2号 Page15-19(2022.12)	Original Article
111	池谷宗一郎、吉川剛典、阪野弘之、他	皮膚科	老年期に進行した踵部動静脈奇形の1例	臨床皮膚科. 2023 Jan;77(1):31-35	Case Report
112	飴矢美里、勢井洋史、三谷壮平、他	耳鼻咽喉科	音声合成スマートフォンアプリを用いた新しい代用音声	喉頭. 2022 34:51-57	Original Article
113	松井 宇宙輝, 古田敏章, 曾根 三千彦	耳鼻咽喉科	VZV vasculopathyによる橋梗塞が原因と考えられた核性顔面神経麻痺例	耳鼻咽喉科臨床 115巻7号 Page587-594(2022.07)	Case Report
114	長縄慎二	放射線科	私のMRI研究の35年、そして第50回日本磁気共鳴医学会大会について	Japan MRI History. 2022 Nov. https://japan-mri-history.org/%e9%95%b7%e7%b8%84%e6%85%8e%e4%ba%8c/	Review
115	長縄慎二	放射線科	第1章 画像診断機器 【基調論文】最新医療機器の現況と将来的方向性 2023年 最新医療機器の現状と展望 画像診断機器の今後の展望 世界情勢 学会等の現況含め	月間新医療データブック・シリーズ 医療機器システム白書 2023 :8-11	Review
116	竹原康雄	新規低侵襲画像診断法基盤開発研究寄附講座	特集1 MRIで“流れと病気”の関係に挑む 画像診断の新たなフロンティア:4D Flow MRI	Rad Fan 20 (10) :11. 2022/9	Review
117	小川 浩、竹原康雄、長縄慎二	放射線科/新規低侵襲画像診断法基盤開発研究寄附講座	自己免疫性膵炎の画像診断:コンピュータ断層映像と磁気共鳴画像法	Jpn. J Med Ultrasonics. 50 (1) :39-45. 2023/1	Original Article
118	兵藤良太	放射線科	門脈・肝疾患の4D Flow MRI	Rad Fan 20 (10) :39-42. 2022/9	Review
119	伊藤倫太郎	革新的生体可視化技術開発産学協同研究講座	Microsoft Lobeで始めるお手軽AI	JCRニュース (日本放射線科専門医会・医会誌) 244 :5. 2022/4	Review
120	伊藤倫太郎	革新的生体可視化技術開発産学協同研究講座	医療AIのスペシャリストにAI知識向上の一助となる情報を発信	Rad Fan 20 (7) :33-34. 2022/7	Review
121	伊藤倫太郎	革新的生体可視化技術開発産学協同研究講座	特集1 RSNA2022 REPORT 大学病院勤務医のRSNA2022 Virtual Meeting報告	Rad Fan 21(2) :12-13. 2023/2	Review

122	市村典久, 藤尾正人, 上嶋伸知, 他	歯科口腔外科	口腔領域の悪性腫瘍に対してがんゲノムプロファイリング検査をした2例	日本口腔腫瘍学会誌. 2022 Dec;34(4):167-174.	Case Report
123	度會 理佳, 菊地 良介, 後藤 香緒里, 他	検査部	ルミパルスプレスト アルドステロンの妥当性評価	医学検査(0915-8669)71巻3号 Page450-456(2022.07)	Original Article
124	金 貞姫, 菊地 良介, 鈴木 敦夫, 他	検査部	HISCL SARS-CoV-2抗原定量値に対するカットオフ値のバリデーション 当院における新型コロナウイルス抗原検査の現状と課題	医学検査(0915-8669)71巻3号 Page457-464(2022.07)	Original Article
125	鈴木 伸明, 兼松 毅, 岸本 磨由子, 他	輸血部	液凝固第IX因子濃縮製剤へのアレルギーに対する減感作療法の有効性	日本輸血細胞治療学会誌(1881-3011)68巻3号 Page422-427(2022.06)	Original Article
126	西村由介	脳神経外科	頭蓋頚椎移行部の臨床解剖と手術手技	脊髄外科 2022年 36 巻 3 号 239-247	Others
127	永島 吉孝, 西村 由介, 赤堀 翔,他	脳神経外科	脊椎脊髄疾患における3Dプリンター活用の実際と現状	脊髄外科 2022年 36 巻 3 号 296-301	Original Article
128	種井隆文	脳神経外科	脳神経外科専攻医に手術イラストを作成させる教育	脳神経外科ジャーナル. 2022 April; 31(4): 240-245.	Original Article
129	前澤聡・牧祐輝・齋藤竜太	脳神経外科	脳波とfMRIの同時計測	CLINICAL NEUROSCIENCE 40 511-513 2022.4	Original Article
130	前澤聡・石崎友崇・齋藤竜太	脳神経外科	てんかん外科の現状と展望	現代医学 69(2) 56-59 2022.12	Original Article
131	大山慎太郎	手の外科	触覚と疼痛, 意識と無意識, 知覚と認知 ―遠隔触診の実現を通して探る新たな知性	日本ロボット学会誌 2022 Oct;40(8) 685-689	Original Article
132	大山 慎太郎, 山下佳子, 小倉 環,他	手の外科	スマートホスピタル構想における汎用型多目的ロボットの活用	情報処理学会誌 2022 Apr 63(5) 1-32	Original Article
133	山下暁士, 山下佳子, 大島健太郎, 他	手の外科	医事業務をAs a Service化することで診療所の業務に変革を起こす取り組み	日本医療マネジメント学会雑誌 2022 Jul;23 237	Original Article
134	長谷川 良平, 米田英正, 岩月 克之, 他	手の外科	指文字画像を用いた標的選択課題遂行中の事象関連電位の特性 ― 脳波BMIによる定量評価手法を用いて ―	日本感性工学会論文誌 2023 22(1) 21-29	Original Article

（様式第 3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3　高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

①　倫理審査委員会の設置状況	(有)・無
②　倫理審査委員会の手順書の整備状況	(有)・無
・　手順書の主な内容 倫理審査委員会業務（利益相反マネジメント、試料等の保管、対応表の管理、有害事象、審査受託、教育等）及び　研究者の申請についての手順・方法等	
③　倫理審査委員会の開催状況	年46回

（注）　1　倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に〇印を付けること。
2　前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

①　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	(有)・無
②　利益相反の管理に関する規定の整備状況	(有)・無
・　規定の主な内容 利益相反の定義、教職員等の責務、委員会の組織等	
③　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

（注）前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

①　臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年6回
・研修の主な内容 「倫理指針改正について」、「適切な臨床研究管理の追求」、「臨床介入研究（特定臨床研究）における留意点」、「臨床観察研究の倫理審査」、「最近の臨床研究の課題について」、「フルゲノム解析研究の実施に関しての倫理的問題点について」	

（注）前年度の実績を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

各診療科に所属して、初期研修によって習得された基本的診療能力に上乗せされる、医師としての総合的診療能力の習得に加えて、当該診療科で実施されている先進的な医療に特化した研修を行うことで、医師としての広くかつ専門的経験を蓄積しながら、専門医資格の取得等を目指す後期研修を実施している。

　また、新しい専門医制度の平成30年4月開始に伴い、全19領域の基幹病院として、日本専門医機構に提出した各領域のプログラムに基づき、専門医師資格の取得を目指す後期研修を実施している。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2　研修の実績

上記研修を受けた医師数	198人

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診　療　科	役　職　等	臨床経験年数	特　記　事　項
佐藤　寿一	総合診療科	病院教授	37年	
梅垣　宏行	老年内科	教授	33年	
清井　仁	血液内科	教授	37年	
室原　豊明	循環器内科	教授	38年	
川嶋　啓揮	消化器内科	教授	28年	
石井　誠	呼吸器内科	教授	27年	
有馬　寛	糖尿病・内分泌内科	教授	35年	
丸山　彰一	腎臓内科	教授	34年	
勝野　雅央	脳神経内科	教授	28年	
江畑　智希	消化器外科一	教授	33年	
中山　吾郎	消化器外科二	准教授	30年	
坂野　比呂志	血管外科	教授	27年	
小倉　靖弘	移植外科	病院教授	32年	
増田　慎三	乳腺・内分泌外科	教授	30年	
六鹿　雅登	心臓外科	教授	27年	
芳川　豊史	呼吸器外科	教授	26年	
亀井　譲	形成外科	教授	38年	
内田　広夫	小児外科	教授	34年	
西脇　公俊	麻酔科	教授	39年	
髙橋　義行	小児科	教授	31年	
梶山　広明	産科婦人科	教授	28年	
池田　匡志	精神科	教授	24年	
今釜　史郎	整形外科	教授	26年	
西口　康二	眼科	教授	26年	
秋山　真志	皮膚科	教授	37年	
赤松　秀輔	泌尿器科	教授	22年	

曾根　三千彦	耳鼻いんこう科	教授	36年	
長縄　慎二	放射線科	教授	36年	
齋藤　竜太	脳神経外科	教授	25年	
山本　尚範	救急科	講師	15年	
西田　佳弘	リハビリテーション科	病院教授	35年	
日比　英晴	歯科口腔外科	教授	36年	
加留部　謙之輔	病理部	教授	23年	
八木　哲也	中央感染制御部	教授	35年	
小谷　友美	総合周産期母子医療センター	病院教授	27年	
安藤　雄一	化学療法部	教授	33年	
錦織　宏	卒後臨床研修・キャリア形成支援センター	教授	25年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4　医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

①　医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 【医療技術部】 1）医療技術部職員に向け研修を年2回実施。テーマは「選択理論に関して」 1)-1「若手に向けた人材育成について　～指導の仕方・指導の受け方～」 1)-2「状況に振りまわされない、ポジティブなコミュニケーション～指導の仕方・指導の受け方～」 2）医療技術部管理職向け「マネジメント研修」を実施。テーマは「リーダーシップのあるべき姿に着いて学ぶ」 【看護部】 看護部は、専門職として自律し、主体的に看護活動ができる看護師の育成を目指して、研修・教育を実施している。新人を対象とする卒後臨床研修制度は，①基礎的な看護の知識・技術・態度の習得を図る、②看護師としての実践力を身につけること，を目標としている．この制度の研修の１つにフィジカルアセスメントを中心とした Savinglifeナース育成研修がある．これは患者の変化を早急に気づき、患者の早期回復に向けた看護実践ができる看護師を育成するための研修である．看護職員全員が3年間をかけてこの研修を修了している． この他に，高度急性期病院の役割を果たすための病院研修として救命講習会があり，全職員が2年に１度一次救命講習会に参加している．また，手術室，集中治療室等，ハイリスクエリアと定めた部門の職員は，2年に１度二次救命講習会に参加している．全看護職員は，2年間をかけこの講習会に参加している．

・研修の期間・実施回数

【医療技術部】

1）-1　2022年9月14日、1)-2　2023年3月8日

2）2022年11月19日　1回

【看護部】

2022年4月～2023年3月

看護部研修： 48のプログラム、延べ受講時間8020時間（オリエンテーション時の研修含む）

病院研修：小児を含む一次救命、二次救命講習会は34回開催、延べ2010時間

・研修の参加人数

【医療技術部】

1)-1　59名　1)-2　102名

2)16名

【看護部】

看護部研修：延べ 4939人（オリエンテーション参加人数：延べ2160人含む）

病院研修：延べ 480人

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

【臨床研究セミナー】

臨床研究を担う人材の育成を目的とし，臨床研究に従事する職員（医師及び歯科医師含む），研究者，大学院生等を対象として，先端医療開発部が毎月１，２回程度開催している。

講習内容は毎回異なり，法規，知財，モニタリング等，多岐に渡るテーマでセミナーを実施している。

・研修の期間・実施回数 【臨床研究セミナー】 １セミナーにつき１時間半 令和４年度は延べ１７回開催した。（DVD上映でのセミナー４回を含む ・研修の参加人数 【臨床研究セミナー】 令和４年度は延べ３，３１６名が受講した。（DVDでの受講者４７０名を含む）
③　他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

（注）1　高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。
（注）2　「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

（様式第 5）

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1．計画　2．現状
管理責任者氏名	病院長　小寺　泰弘
管理担当者氏名	副病院長、患者安全推進部長　長尾　能雅 副病院長、電子カルテ管理室長　松下　正 病院長補佐、薬剤部長　山田　清文 総務課長　柳田　英輝 医事課長　坂元　琢磨

			保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	・疾病分類 ICD-10 ・管理形態 外来カルテ・入院カルテ 1患者1電子カルテで 中央管理（一部紙媒体にて保存） ・持ち出しに関する取扱い 診療録の持ち出しは原則禁止としている。エックス線写真の持ち出しは，名古屋大学医学部附属病院病歴等管理要項第12及び第13のとおりの取扱とする。（別添参照）
		各科診療日誌	中央管理	
		処方せん	中央管理	
		手術記録	中央管理	
		看護記録	中央管理	
		検査所見記録	中央管理	
		エックス線写真	中央管理	
		紹介状	中央管理	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	中央管理	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事労務課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	経営企画課，医事課	
		高度の医療の研修の実績	人事労務課	
		閲覧実績	総務課，医事課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課，薬剤部	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	患者安全推進部	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	患者安全推進部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	患者安全推進部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	患者安全推進部	

			保 管 場 所	管　理　方　法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	患者安全推進部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	患者安全推進部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	患者安全推進部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	患者安全推進部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	経理課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	経理課, 臨床工学技術部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	経理課, 臨床工学技術部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	経理課, 臨床工学技術部	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	患者安全推進部	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	患者安全推進部	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	患者安全推進部	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	電子カルテ管理室	
		医療安全管理部門の設置状況	患者安全推進部	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部	
		監査委員会の設置状況	総務課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	患者安全推進部	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	患者安全推進部	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者安全推進部	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	監査室	
		職員研修の実施状況	患者安全推進部	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課	
		管理者が有する権限に関する状況	総務課	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課	
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課	

（注）「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

名古屋大学医学部附属病院病歴等管理要項

（趣旨）

第１　名古屋大学医学部附属病院（以下「病院」という。）における病歴等の管理については，この要項の定めるところによる。

（目的）

第２　病歴等の管理は，医学部，大学院医学系研究科及び本院（以下「病院等」という。）における診療・教育及び研究に資することを目的とする。

（定義）

第３　この要項において病歴等とは，本院の患者に係る診療録，X 線フイルム及びそれらの付属書類（以下「診療録等」という。）をいう。

（退院時要約の作成）

第４　全診療科において医師は，全退院患者についての退院時要約を作成する。

2　前項に規定する退院時要約の作成に関し必要な事項は，名古屋大学医学部附属病院病歴等管理要項実施細則第 2 条及び第 3 条に定める。

（プライバシーの確保）

第５　病院等の職員及び診療録等の閲覧又は貸出（以下「閲覧等」という。）を希望する者は，次に掲げる事項を遵守しなければならない。

一　診療情報の秘密保護に関する事項

二　患者情報等の秘密保護に関する事項

三　複写の禁止に関する事項

四　データの保護に関する事項

五　その他診療録等の情報管理に関する事項

（診療録等の管理責任者）

第６　診療録等を適正に管理するため，診療録等管理責任者（以下「管理責任者」という。）を置き，診療担当副病院長をもって充てる。

（診療録等の管理区分）

第７　診療録等の管理は，管理責任者及び医事課が行う。

2　平成 29 年 12 月 31 日以前の電子媒体上に記録されていない，名古屋大学医学部附属病院病院情報管理システム管理運用要項施行細則（以下「施行細則」という。）第 11 条に規定する対象文書等については，電子媒体上にスキャン取込み後，原本を保管する。

3　平成 30 年 1 月 1 日以降に電子媒体上にスキャン取り込みされた施行細則第 11 条に規定される対象文書等については，電子化された情報を原本とする。

（診療録等の保存）

第８　診療録等の保存期間は，次のとおりとする。

一　外来診療録，入院診療録等　受診した診療科の最終受診日から 5 年間

二　診療録等をマイクロフイルム化及び電子化したもの　永久

2　診療録等の保管方法及び保存期間を経過した診療録の取扱いについては別に定める。

（診療録等の閲覧及び貸出）

第 9　診療録等は，原則として診療，教育・研究，公法上の規定及び医事調査等による目的以外は

閲覧等を許可しないものとする。

2　診療録等の閲覧等及び検索に係る遵守事項については，別に定める。

3　診療に必要な外来診療録，入院診療録等は各診療科の依頼に応じ，医事課が迅速に提供する。

（診療録等の閲覧等の資格）

第10　診療録等の閲覧等ができる者は，次の者とする。

一　病院等に所属し，診療に従事している医師及び歯科医師

二　診療従事者として病院長の承認を得た医師及び歯科医師

三　前各号に掲げる者のほか，病院長又は管理責任者が許可した者

（診療録等の閲覧等の申請及び許可）

第11　医事課が管理する診療録等の閲覧等を希望する者は，医事課が管理する「診療録等閲覧・貸出申込書」（以下「申込書」という。）を医事課に提出し，許可を得るものとする。

2　医事課は，前項の申込書を受理した場合は，閲覧等の資格及び利用目的を確認し，適当であると判断した場合に閲覧等を許可するものとする。

3　閲覧は医事課内で行うこととし，貸出は病院等の範囲内とする。

（X線フイルムの院外貸出）

第12　前条第3項の規定にかかわらずX線フイルムの院外貸出については，次に掲げる要件を満たす場合に許可することができるものとする。

一　都道府県及び市町村の条例等により，公費負担医療受給申請書等にX線フイルムの添付が求められている場合の患者（患者が未成年の場合の保護者を含む。）への貸出

二　労災認定等の資料としてX線フイルムの提出が求められている場合の労働基準監督署への貸出

三　診療上の必要事由による他の医療機関への貸出

2　前項第一の貸出の判断は，当該患者が受診している診療科の主治医が行うものとし，主治医が退職している場合にあっては，当該診療科長が判断する。

（診療録等の閲覧等の期間）

第13　診療録等の閲覧等の期間は14日間とする。

2　X線フイルムの院外貸出期間は，前項の規定にかかわらず原則として次のとおりとする。

一　公費負担医療受給申請及び労災に係るもの　1月以内

二　その他のもの　2週間以内

3　閲覧等の期間終了後もなお閲覧等の必要がある場合は，医事課の許可を得るものとし，継続できる閲覧等の期間は，前回の閲覧等期間満了日から14日以内とする。

4　閲覧等の期間内であっても，診療上，当該診療録等が緊急に必要となった場合は，直ちに返却するものとする。

5　医事課が管理する診療録等は，医事課内の所定の場所に返却するものとする。

（時間外及び休日等の閲覧等）

第14　土曜日，日曜日，祝祭日及び12月29日から翌年1月3日における医事課が管理する診療録等の閲覧等については，あらかじめ許可を得ているものを除き，診療上，当該患者の診療録等が緊急に必要な場合にのみ許可する。

2　前項により医事課が管理する診療録等の閲覧等を行う者は，当該診療録等の所在確認のため，申込書に必要事項を記載して所定の整理箱に投函しておくものとする。

3　前項により医事課が管理する診療録等の閲覧等を行う場合は,閲覧等を行う者が警務員室から医事課の鍵の貸出を受けて入室し，退出時は消灯，施錠等の確認を行い，貸出を受けた鍵は退出後速やかに警務員室に返却するものとする。。

（雑則）

第 15　この要項の実施に関し必要な事項は，名古屋大学医学部附属病院カルテ管理委員会の議を経て病院長が定める。

附　則

この要項は，平成 16 年 4 月 1 日から実施する。

附　則

この要項は，平成 22 年 3 月 10 日から実施する。

附　則

この要項は，平成 24 年 4 月 11 日から実施し，平成 24 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この要項は，平成 28 年 9 月 14 日から実施する。

附　則

この要項は，令和 3 年 4 月 14 日から実施し，令和 3 年 4 月 1 日から適用する。

附　則

この要項は，令和 4 年 2 月 1 日から実施し，令和 3 年 6 月 1 日から適用する。

（様式第6）

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1．計画　　2．現状
閲覧責任者氏名	総務課長　柳田 英輝
閲覧担当者氏名	総務課課長補佐　嶽盛 幸枝
閲覧の求めに応じる場所	・総務課

閲覧の手続の概要
病院の管理及び運営に関する諸記録は、公文書等の管理に関する法律の規定に基づき、保有する法人文書ファイルとして、名称、保存期間、文書管理者、保存場所、その他の事項を記載した法人文書ファイル管理簿を作成し、一般の閲覧に供するとともに、公表しています。

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延　0　件
閲覧者別	医師	延　　件
	歯科医師	延　　件
	国	延　　件
	地方公共団体	延　　件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第１条の11第１項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
・　指針の主な内容： ・患者安全管理に関する基本的な考え方 ・組織に関する基本的事項 医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針 ・事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ・医療事故等発生時の対応に関する基本方針 ・患者との間の情報の共有に関する方針 ・患者からの相談等への対応に関する基本方針	
②　医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・　設置の有無（(有)・無　） ・　開催状況：年　15回 ・　活動の主な内容： 医療事故発生の防止に努め、かつ、発生した医療事故への適切な対応及び病院全体の医療の質向上を積極的に図るため、次の事項を審議する。 ・医療事故の防止及び医療安全推進に関する事項 ・医療上の紛争処理に関する事項 ・医療の質向上に関する事項	
③　医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年10　回
・　研修の内容（すべて）： ・全職員、外注業者を対象として、「4つの安全文化～あなたの一枚のインシデントレポートが命を救う～」、「終末期患者の治療法針決定プロセスについて」、「基本確認行動」、「アドバンス・ケア・プランニング～患者の意向を尊重した医療を実践するために～」、「2022年4月以降報告されたインシデントレポートについて」等をテーマとした研修を実施した。 理解度チェックで習熟度を確認し、職員からの意見や提案は、Q&A形式で院内公開し、フィードバックしている。 ・新規・中途採用職員を対象として、採用時に患者安全ポケットガイドの内容について研修を実施。 ・TeamSTEPPS研修（導入コース）を計4回実施し、308名が受講、受講率は77%であった。 ・TeamSTEPPS研修（アドバンストコース）を計3回実施し、128名が受講、受講率は77.1%であった。 ・平成28年度からは、各種会議で患者安全推進部から周知した重要伝達事項について、各職員の理解度を確認するため、簡易なテストを実施し、解説を行っている。 ・令和4年度からは診療報酬の改訂を受け、e-learning研修で求められる「双方向のコミュニケーション」について以下の対応を実施している。 e-learning研修に「質問」の項目を追加し、寄せられた質問に対する回答を全職員が閲覧する学内サイトに公開している。	
④　医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・医療機関内における事故報告等の整備　（(有)・無　） ・その他の改善のための方策の主な内容： 各部門とのインシデント検討会にて報告事例を審議し、改善に結びつける。（51回開催）	

・重大事故に関しては外部委員主導の事故調査委員会などを開催し、そこで得られた分析結果や提言を踏まえ、再発防止に結びつける。（8回開催） ・多職種が関連した事例等については、カンファレンス形式による検討会を開催し、改善に活かしている。（1回開催） ・インシデント報告総件数（13,212件）

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の 11 第２項第１号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①　院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： ・院内感染対策に関する基本的な考え方 ・院内感染対策のための委員会と組織 ・院内感染対策のための従業者に対する研修に関する事項 ・感染症の発生状況の報告に関する基本方針 ・院内感染発生時の対応に関する基本方針 ・病院感染リスクアセスメントに基づいた感染対策の立案 ・抗菌薬適正使用の推進	
②　院内感染対策のための委員会の開催状況	年　12回
・ 活動の主な内容： 院内感染の防止に努めるとともに、発生した感染事例について適切な対応を図る。 これらの活動のため、次の事項を審議する。 ・院内感染の予防及び対策等に関する事項 ・患者の取扱に関する事項 ・医療従事者への感染予防に関する事項 ・中央感染制御部の運営に関する必要な事項 ・その他院内感染、難治感染症対策及び抗菌薬適正使用に関する事項	
③　従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年　6回
・ 研修の内容（すべて）： ・全職員、外注業者を対象として、「感染対策と抗菌薬適正使用について」をテーマとした研修を実施 ・清掃業者を対象として、「病院清掃に必要な感染対策」をテーマとした研修を実施 ・新規・中途採用職員を対象として、採用時に「針刺し・血液体液曝露」などをテーマとした研修を実施	
④　感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備　（(有)・無　） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 全病棟と外来、部門を対象に感染対策の知識、手指衛生などの感染対策の実施状況、環境整備のチェックを中心としたICTラウンドの実施 ・ MRSAなどの薬剤耐性菌等の新規検出症例数の独自介入基準を設け、基準に合致した部署に対して手指衛生観察巡回などを実施し、手指衛生や感染経路別対策感染対策の強化を図っている ・ NICUとの定期的なミーティングの実施、SICU/EMICUのミーティングへの参加 ・ 抗菌薬適正使用の推進を目的とした薬剤部とのミーティング ・ 診療科横断的な感染症症例コンサルテーションと血液培養陽性例への介入 ・ 4職種の実務的メンバーによるICTコアミーティングを週1回行い、全病院的に感染対策が漏れなく実施されるよう検討・管理している	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第２号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医薬品安全管理責任者の配置状況	(有)・無
②　従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回

・　研修の主な内容：

・医師・歯科医師・看護師・薬剤師・医療技術部職員を対象とした医薬品の安全使用に係る研修(薬剤の管理と使用：隔壁を有するダブルバッグ製剤の使用上の注意点、せん妄の予防策・リスク薬剤について)を実施した。
・医師・歯科医師・看護師・薬剤師・医療技術部職員を対象とした医薬品の安全使用に係る研修(薬剤の管理と使用：ハイアラート薬｜外観類似薬リストの改訂・保管管理上の注意点、せん妄に対する薬物療法)を実施した。
・新入職時職員を対象とした研修（入職時オリエンテーション：医薬品）を実施した。
・中途採用者を対象とした研修（入職時オリエンテーション：医薬品）を実施した。
・新任看護師を対象とした研修（薬剤管理①、薬剤管理②）を実施した。
・研修医を対象とした研修（薬剤安全プログラム・医薬品の取り扱いについて）を実施した。

③　医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

・　手順書の作成　　（(有)・無　）
・　手順書の内訳に基づく業務の主な内容：

医薬品安全管理責任者の業務に関する事項、医薬品の採用・購入に関する事項、医薬品の管理に関する事項、患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項、患者に対する与薬や服薬指導に関する事項、医薬品の安全使用に係わる情報の取り扱いに関する事項、ハイアラート薬の取り扱い、名称類似薬および外観類似薬の取り扱い、他施設との連携に関する事項、適応外の使用、禁忌等の処方に係わる確認および指導に関する事項、院内製剤の取り扱いに関する事項、外来化学療法に関わる事項、重大な有害事象の予防・対応に関する事項、医薬品関連の情報システムに関する事項、医薬品の安全使用のための業務手順書に基づく業務の遂行に関する事項

④　医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・　医薬品に係る情報の収集の整備　　（(有)・無　）
・　未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：
悪性腫瘍に対して、免疫チェックポイント阻害剤の適応が拡大し使用される症例数が増加してきている。免疫チェックポイント阻害剤による免疫関連有害事象(irAE)の中でも頻度が高いのが下痢、大腸炎で30-40%程度にみられると報告されている。Grade3の下痢、大腸炎の場合には高用量のステロイドの経静脈的投与が推奨されているが、症状の改善がみられない場合や症状改善後に再増悪した場合には、抗TNF-α抗体製剤であるインフリキシマブの追加投与を行うことがガイドライン等にも記載されている。前年度、未承認新規医薬品等評価委員会に不特定多数患者に対する適応外使用として申請され、承認された。2022年は2例に使用され、特記すべき有害事象なく、また効果が認められた。これらの実施状況については、申請科より提出された実施状況報告書により薬剤部未承認新規医薬品等管理室の薬剤師が確認し、未承認新規医薬品等評価委員と情報共有した

・　その他の改善のための方策の主な内容：
・薬剤部のペイシェントセーフティマネジャーおよび病棟担当薬剤師が、診療科（部）、病棟、中央診療施設などにおいて、医薬品安全運用協議会や患者安全推進部と連携して、各部署内における医薬品の安全管理に関する指導を行っている。
・医薬品に係わる適正使用に関する情報や副作用情報を医薬品安全運用協議会、薬事委員会、患者安全推進委員会等で報告している。
・必要に応じて薬品情報室から安全使用のための情報を文書にて各病棟、外来診療科、その他の部署に配布するとともにメールにて配信している。また、電子カルテのDI参照の薬剤部からのお知らせ画面、薬剤部ウェブサイトにも安全使用のための情報を掲載し職員への周知徹底に努めている。
・重要度の高い情報については、電子カルテトップページの院内広報：薬剤部ページにも掲載している。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第３号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
②　従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	随時
・　研修の主な内容： ・人工呼吸器・除細動器など特に安全使用に際して技術の習得が必要と考えられる機器に関して、医療機器総合管理部が年２回実施。 ・放射線部門にて直線加速器と放射線照射装置に関する年２回の定期研修を実施。 ・その他の医療機器についても各部署にて適宜勉強会を実施。 （随時実施） ・新卒者のオリエンテーションにて、医療機器の安全使用のための研修を実施。 ・研修医や看護師を対象に臨床工学技士・メーカーによる研修の実施。	
③　医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・　医療機器に係る計画の策定　（(有)・無　） ・　機器ごとの保守点検の主な内容： 医療機器の管理を医療機器管理ソフトにて行っており、購入日・使用場所・保守点検状況等の管理を行っている。 ・臨床工学技士が生命維持管理装置（人工心肺・血液浄化・不整脈・心臓カテーテル・OPE・ICU関連）の操作・保守点検・管理を行っている。 ・院内で中央管理する機器の定期点検は電気安全解析装置などのシミュレーターを用いて実施している。また交換パーツについてはメーカー講習会を受講し、供給を受けて院内で行っている。 ・ダヴィンチやX線撮影装置など保守契約を結んでいるものについては、機器の空き状況を確認し実施している。 ・手術室および臨床工学技術部に委託業者が常駐して医療機器の日常点検や不具合発生時の対応などを行う、医療機器保守管理業務契約を締結している。 ・その他医療機器についても、必要に応じ定期点検等の保守契約を結んでいる。	
④　医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医療機器に係る情報の収集の整備　（(有)・無　） ・　未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： 医療機器について、R4年度の未承認医療機器の使用申請は0件。適応外使用申請・承認についての実績は下記2件。 1. アトムピングカテーテルの適応外使用 2. 術中神経モニタリングのための適応外サイズの電極シール使用 ・　その他の改善のための方策の主な内容： PMDAやメーカー、納入業者からの報告を受理し、CEニュース（臨床工学技術部による院内広報）や医療機器総合管理部が発出するＭＤＩ（Medical Device Information）通知メール、電子カルテに掲載するなど電子媒体を利用して関連部署での情報共有を実施している。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第９条の２０の２第１項第１号から第１３号の二に掲げる事項の実施状況

①　医療安全管理責任者の配置状況	(有)・無
・責任者の資格（(医師)・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 医療安全管理責任者を配置しており、患者安全推進部長、患者安全推進委員会委員長を務め、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。	
②　専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有)（14　名）・無
③　医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品情報は、整理した上で薬事委員会月例報告として院内へ周知している。周知状況の確認は、各診療科の薬事委員が周知完了報告を薬剤部薬品情報室に提出することにより行っている。また、各診療科の周知状況は薬事委員会にて報告している ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 （未承認薬） 未承認薬は未承認新規医薬品等評価委員会へ申請し承認を得た上で使用されている。副作用報告や個別の経過報告を行っている。 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門については、「名古屋大学医学部附属病院未承認新規医薬品取扱要項」および「名古屋大学医学部附属病院未承認新規医薬品等評価委員会に関する要項」を制定した。 （適応外） 適応外使用については、未承認新規医薬品等評価委員会で承認した適応外使用医薬品を「適応外投与（承認）一覧」として薬剤部内に通知し薬剤師全員で情報を共有している。薬剤師は処方監査時に適応外使用を把握した場合は、患者への説明及びカルテへの記載が必要であること、未承認新規医薬品等評価委員会への申請が必要であることを医師に指導して記録を残している。 （禁忌） 禁忌処方をチェックするシステムは電子カルテ上にあり、医師が処方確定時にアラートが表示される。また、薬剤部で印字された処方せんの下部にもアラートが印字される。薬剤師は処方監査時にこのアラート情報を確認し、個別に医師へ連絡し、当該医師の対応方針を確認した後に記録を残している。 ・担当者の指名の有無（(有)・無）	

・担当者の所属・職種： （所属：薬剤部　，職種 薬剤師　　）　（所属：　　，職種　　） （所属：　　，職種　　）　（所属：　　，職種　　） （所属：　　，職種　　）　（所属：　　，職種　　） （所属：　　，職種　　）　（所属：　　，職種　　）	
④　医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有)・無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無　（(有)・無　）	
・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：目的、方針、適応範囲、定義、役割と責任、遵守と監視、手順、説明と同意の種類、説明と同意の確認のプロセス、説明・同意書の文書様式、説明及び同意に関し問題が起こった場合、等	

⑤　診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有)・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 「診療録等内部監査要項」に基づいてカルテ記載の確認し、その結果を毎月病院機能改善本部会議で報告をしている。 該当診療科のカルテ管理委員へフィードバックし各診療科で対策し診療情報の精度向上に努めている。	
⑥　医療安全管理部門の設置状況	(有)・無
・所属職員：専従（11）名、専任（　）名、兼任（6）名 うち医師：専従（4）名、専任（　）名、兼任（4）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（　）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（4）名、専任（　）名、兼任（　）名 （注）報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： ・　全部門からのインシデント・アクシデント情報の集積と分析 ・　院内の伝達会議、安全研修、学生教育等による周知、啓発 ・　重大アクシデントに対し，病院全体で対応できる治療連携体制の起動 ・　医療事故に対する第三者を主体とする事例検証（医療事故調査） ・　適切なインフォームド・コンセント体制の整備 ※　平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※　医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。	

⑦　高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況
・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（19 件）、及び許可件数（18　件） ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（　有・無　） ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（　有・無　） ・活動の主な内容： ・　申請内容を確認するとともに、委員会に対し提供の適否等について意見を求める。 ・　部門の長は、委員会の意見を踏まえ提供の適否等について決定し診療科長へ通知。 ・　部門の長は、適正な手続きに基づいて提供されたかについて、定期的、又は患者が死亡した場合には、手術記録、診療録等の記載内容を確認。 ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（　有・無　） ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（　有・無　）

⑧　未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況
・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（　0 件）、及び許可件数（　0 件） ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無　） ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無　） ・活動の主な内容： (医薬品の場合) 　診療科の申請医師は申請書類を薬剤部未承認新規医薬品等管理室に提出する。未承認新規医薬品等管理室の薬剤師は申請書類(申請書、説明同意文書、確認表)と引用文献等の内容を確認し、疑義等について申請者に回答の依頼をする。その後、未承認新規医薬品等評価委員会にて評価委員が申請内容を審査する。事前に評価委員から指摘事項等を挙げ、その内容を申請医師に連絡する。申請医師は書類の修正等委員会前にできるだけ対応し、未承認新規医薬品等評価委員会で申請内容の説明、指摘事項等の回答等をする。 　申請が適当と判断され、患者に使用された後、申請医師は定期的に経過報告書を提出する。 未承認新規医薬品等管理室の薬剤師は、同意の取得、副作用がモニタリングされているか等遵守状況ついて確認を行う。

（医療機器の場合）

令和４年度は未承認新規医薬品等を用いた医療の新たな申請は発生しなかったが、過去に承認し、継続的に使用している未承認新規医療機器について、使用状況、不具合事例がなかったかを医療機器選定委員会において確認し、使用継続について審議した。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 （ 有・無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 321 件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 184 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

発生状況の確認及び審議

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（ 有（病院名：山口大学医学部附属病院 ）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ 有（病院名：弘前大学医学部附属病院）・無）

・技術的助言の実施状況

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和４年度は Web 会議ツールを用いた訪問調査となった。山口大学医学部附属病院への立入り調査では「インシデントやアクシデントの報告等の状況」「医薬品安全管理責任者の業務等」「高難度新規医療技術を用いた医療の提供の適否等を決定する部門の運用状況」について下記の３点を助言した。

・インシデント報告総数および医師・看護師以外の職種からの報告の増加を図ること

・重大な副作用を生じた薬剤を患者に再投与しない仕組みに対応するシステムを検討すること

・高難度新規医療技術に該当する技術の定義と各診療科への周知、啓発を行うこと

弘前大学医学部附属病院からの立入り調査では「インシデントやアクシデントの報告等の状況」「高難度新規医療技術を用いた医療の提供の適否等を決定する部門の運用状況」の項目について、下記の３点の指摘があった。

・現場での注意喚起、教育が全体に及ばないという課題に対する改善策を今後も継続して検討する

・一般診療化した技術やカテーテル治療等について、全例報告を終了する際の基準を検討する

・評価委員会の構成に医師以外の他職種を含めることを検討する

⑪　当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況
・体制の確保状況 地域連携・患者相談センター：相談窓口にて一次対応を行なっている。 安全管理に関連する事案については、患者安全推進部と連携しながら適切に応じる体制を整えている。 各種相談については、担当者が対応。 地域連携・患者相談センター：相談員　４名、ＭＳＷ　１１名、看護師　１０名

⑫　職員研修の実施状況
・研修の実施状況 医師：各診療科に所属して、初期研修によって習得された基本的診療能力に上乗せされる、医師としての総合的診療能力の習得に加えて、当該診療科で実施されている先進的な医療に特化した研修を行うことで、医師としての広くかつ専門的経験を蓄積しながら、専門医資格の取得等を目指す後期研修を実施している。 　また、新しい専門医制度の平成 30 年 4 月開始に伴い、全 19 領域の基幹病院として、日本専門医機構に提出した各領域のプログラムに基づき、専門医師資格の取得を目指す後期研修を実施している。 看護師：専門職として自律し、主体的に看護活動ができる看護師の育成を目指して、研修・教育を実施している。新人を対象とする卒後臨床研修制度は、①基礎的な看護の知識・技術・態度の習得を図る、②看護師としての実践力を身につけること、を目標としている。この制度の研修の１つにフィジカルアセスメントを中心とした Savinglife ナース育成研修がある。これは患者の変化を早急に気づき、患者の早期回復に向けた看護実践ができる看護師を育成するための研修である。看護職員全員が 3 年間をかけてこの研修を修了している。この他に、高度急性期病院の役割を果たすための病院研修として救命講習会があり、全職員が 2 年に１度一次救命講習会に参加している。また、手術室、集中治療室等、ハイリスクエリアと定めた部門の職員は、2 年に１度二次救命講習会に参加している。全看護職員は、2 年間をかけこの講習会に参加している。 ・全職員、外注業者を対象として、「4 つの安全文化～あなたの一枚のインシデントレポートが命を救う～」、「終末期患者の治療法針決定プロセスについて」、「基本確認行動」、「アドバンス・ケア・プランニング～患者の意向を尊重した医療を実践するために～」、「2022 年 4 月以降報告されたインシデントレポートについて」等をテーマとした研修を実施。

理解度チェックで習熟度を確認し、職員からの意見や提案は、Q&A 形式で院内公開し、フィードバックしている。

・新規・中途採用職員を対象として、採用時に患者安全ポケットガイドの内容について研修を実施。

・TeamSTEPPS 研修（導入コース）を計 4 回実施し、308 名が受講した。

・TeamSTEPPS 研修（アドバンストコース）を計 3 回実施し、128 名が受講した。

・平成 28 年度からは、各種会議で患者安全推進部から周知した重要伝達事項について、各職員の理解度を確認するため、簡易なテストを実施し、解説を行っている。

・令和 4 年度からは診療報酬の改訂を受け、e-learning 研修で求められる「双方向のコミュニケーション」について以下の対応を実施している。

e-learning 研修に「質問」の項目を追加し、寄せられた質問に対する回答を全職員が閲覧する学内サイトに公開している。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2022 年度特定機能病院管理者研修」を受講した。

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

2022 年 3 月に JCI による評価を受審し、認証を受けた。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

病院ホームページの学内専用サイトに掲載する等して、構成員向けに周知している。

・評価を踏まえ講じた措置

部分的達成とされた 21 項目について、関係部署が対策を検討し、毎月の関係会議にて対応状況を報告することで、病院全体としてのモニタリングを実施している。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第７条の２の２第１項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

・ 基準の主な内容

１．人格が高潔で，学識が優れ，医学部附属病院内外の信頼を得ることができる者であること。

２．医学部附属病院等における学生への教育，学術研究及び社会貢献に関して，調和のとれた運営を行うことができる者であること。

３．医学部附属病院の運営にあたり，構成員の意見に耳を傾けつつ，迅速な意思決定を行う強い指導力を発揮することができる者であること。

４．診療，臨床教育，臨床研究など大学病院特有のミッションに精通し，医療機関の管理者としてリスク対応を含めた高いマネジメント能力を持ち，多職種からなる構成員に対して，優れたリーダーシップを発揮できる者であること。

５．医療安全管理業務の経験並びに医療安全を第一に考える姿勢及び指導力を備え，医療安全確保のために必要な資質・能力を有する者であること。

６．医学部附属病院の安定的財政基盤の確立と効率的な組織編成を実現できる総合的運営能力を有する者であること。

７．国際的な視野を持って医学部附属病院の運営を行うことができる者であること。

８．医学部附属病院の現状を正確に分析するとともに，中長期的な目標に向かって将来ビジョンを具体的かつ明確に示し，全学及び医学部附属病院の課題について，総長と連携して取り組むことができる者であること。

・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ）

・ 公表の方法

ホームページにて公表

規則第７条の３第１項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・(無)

・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（　有・無　）
・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（　有・無　）
・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（　有・無　）
・ 公表の方法
ホームページにて公表

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 （〇を付す）	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第９条の２３第１項及び第２項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無

・合議体の主要な審議内容
病院の経営, 管理及び人事に関する企画, 立案及び方針を決定する。

・審議の概要の従業者への周知状況
病院部長会において各診療科長に報告するとともに, 病院連絡会において各医局長に決定事項を周知している。

・合議体に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）
・公表の方法

・外部有識者からの意見聴取の有無（　有・無　）

合議体の委員名簿

氏名	委員長（〇を付す）	職種	役職
小寺　泰弘	○	医師	病院長
西脇　公俊		医師	副病院長
曾根　三千彦		医師	副病院長
丸山　彰一		医師	副病院長
長尾　能雅		医師	副病院長
松下　正		医師	副病院長
藤井　晃子		看護師	副病院長
藤江　進		事務	副病院長
山田　清文		薬剤師	病院長補佐
阿部　真治		診療放射線技師	病院長補佐

規則第１５条の４第１項第１号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

・　管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）
・　公表の方法
名古屋大学ホームページに掲載

・　規程の主な内容

病院長の権限に関する内容は下記のとおり

・病院長は，病院の管理，運営をつかさどり，所属職員を統督する。
・病院長は，病院で行われる診療について，その実施状況の報告を求め，又は自ら調査し，必要に応じて是正又は停止を命ずることができる
・部長，科長，センター長，部門長等（以下「部長等」という。）の任命は，病院長が行う。
・病院長は，部長等が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは，これを免ずることができる。

一　勤務実績がよくない場合
二　心身の故障のため職務の遂行に支障があり，又はこれに堪えない場合
三　その他必要な適性を欠く場合

・部長等は，別に定める手続きを経ることなく，その意に反して免ぜられることはない。
・病院長は，第4項の規定により部長等を免じたときは，その理由を明らかにしなければならない。

・　管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

副病院長は，病院長から指示された具体的な事項を担当し，及び病院長が海外渡航等で不在の場合は，あらかじめ病院長が指名した副病院長が，病院長の職務を代行する。
副病院長は，病院長の職務を円滑に遂行させるため，病院の管理・運営等に関する企画・立案にかかわるとともに，広報の職務又は病院の教育・研究・診療にかかわる職務を分担する。
病院長補佐は，病院全体の立場に立ち，病院の管理・運営等に関し提案された企画立案等を検討し，病院長に提言する。

・　病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2021年度特定機能病院管理者研修」を受講。

・　管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）
・　公表の方法

規則第１５条の４第１項第２号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有・無

・監査委員会の開催状況：年　2　回

・活動の主な内容：

以下に掲げる事項を監査する。

・医療安全管理に係る体制

・医療安全管理責任者，医薬品安全管理責任者，医療機器安全管理責任者等の業務の状況

・患者安全推進部の業務の状況

・患者安全推進委員会の業務の状況

・その他医療安全管理に関して必要な事項

・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）

・委員名簿の公表の有無（有・無）

・委員の選定理由の公表の有無（有・無）

・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無）

・公表の方法：

名古屋大学医学部附属病院ホームページにおいて公開

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
柵木　充明	愛知県医師会	○	愛知県医師会長を務めており，医療安全に精通しているため。	有・無	1
三島　信彦	AOI 名古屋病院		AOI 名古屋病院病院長を務めており，医療安全に精通しているため。	有・無	1
長谷川　ふき子	成田・長谷川法律相談所		医療安全管理を得意とする弁護士であり，法律に関する高い識見を有しているため。	有・無	1
芦田　豊	全国健康保険協会愛知支部		全国健康保険協会愛知支部長を務めており，医療を受ける者とし	有・無	2

			て，医療に係る高い見識を有しているため。		
中東 正文	名古屋大学		総長が指名する理事・副総長	有・無	3
				有・無	

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第１５条の４第１項第３号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

名古屋大学監査室において,病院も含めた全学の業務方法書、規程、内規等の整備状況及び実施状況、年度計画に基づく組織及び制度全般の運営状況、人事管理状況などについて監査を行っている。

また,「東海国立大学機構における内部統制システムの整備及び運用に関する規程」を整備し,病院も含めた全学の業務状況を確認するため,内部統制委員会を年一回開催することとしている。

・ 専門部署の設置の有無（ 有・無 ）

・ 内部規程の整備の有無（ 有・無 ）

・ 内部規程の公表の有無（ 有・無 ）

・ 公表の方法

名古屋大学ホームページに掲載

規則第１５条の４第１項第３号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 東海国立大学機構役員会をもって充てることとし、病院の経営に関する事項については病院長、又は副病院長が出席し審議を行うこととしている。 ・ 会議体の実施状況（　年26回　） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（　有・無　）（　年　回　） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（　有・無　） ・ 公表の方法 名古屋大学ホームページで公表
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：
会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 （○を付す）	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

（注）　会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第１５条の４第１項第４号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有 ・ 無 ） ・通報件数（年０件） ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有 ・ 無 ） ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有 ・ 無 ） ・周知の方法 名古屋大学ホームページに掲載するとともに、職員に配付している「医療安全ポケットガイド」においても掲載し、案内している。

（様式第 7）

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1　果たしている役割に関する情報発信

①　　果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無

・情報発信の方法、内容等の概要

１．　附属病院における臨床研究成果を①名古屋教育記者会会員１５社へFax、記者会見を通じてプレスリリースを行い、②医学系研究科ホームページに研究トピックスとして掲載し、広く学外・院外に向けて情報発信している。
また、臨床研究成果以外の病院の取り組みについても、医学部附属病院ホームページに名大病院の活動として掲載し、広く学外・院外に向けて情報発信している。

２．診療内容・医療サービスや診療実績等の医療情報について、附属病院ホームページにおいて公開している。

３．患者や地域向けに広報誌を作成し、広く頒布している。また、一般市民を対象とした公開講座を毎年度開催し、地域市民に向けた教育・啓発活動にも取り組んでいる。

2　複数の診療科が連携して対応に当たる体制

①　複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無

・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要

ア．補助人工心臓を用いた重症心不全治療…心臓移植治療、心臓外科、循環器内科、ICU、麻酔科、精神科の診療科の他に、看護師、　臨床工学技士、理学療法士（心臓リハビリ）、臨床心理士、栄養管理部、薬剤部が合同して患者管理を行っています。植込型補助人工心臓治療は心臓移植適応患者を対象とするため、多職種カンファレンスで適応を審査し、補助人工心臓移植から在宅管理、将来的な心臓移植までのシームレスな重症心不全治療を多職種で行っています。

イ．肝臓移植はチーム医療で行っている。（図１）

ウ．肉腫患者に対するサルコーマボード：整形外科、化学療法部、放射線科、緩和ケア科、外科、泌尿器科などが参加して、肉腫患者に対する診療方針に関する検討会を月1回開催している。

エ．骨転移患者に対する骨転移ボード：整形外科、リハビリテーション科、化学療法部、放射線治療科、緩和ケア科、外科、泌尿器科、乳腺外科、呼吸器内科、などが参加して、骨転移患者に対する診療方針に関する検討会を月1回開催している．

オ．大動脈疾患における人工血管治療とステント治療の同時ハイブリッド手術…心臓外科と血管外科が合同して手術を行っている。

カ．閉塞性動脈硬化症、血管炎、バージャー病による四肢虚血に対する血管新生療法…循環器内科と血管外科が合同で適応検討、諸検査、治療を行っている。
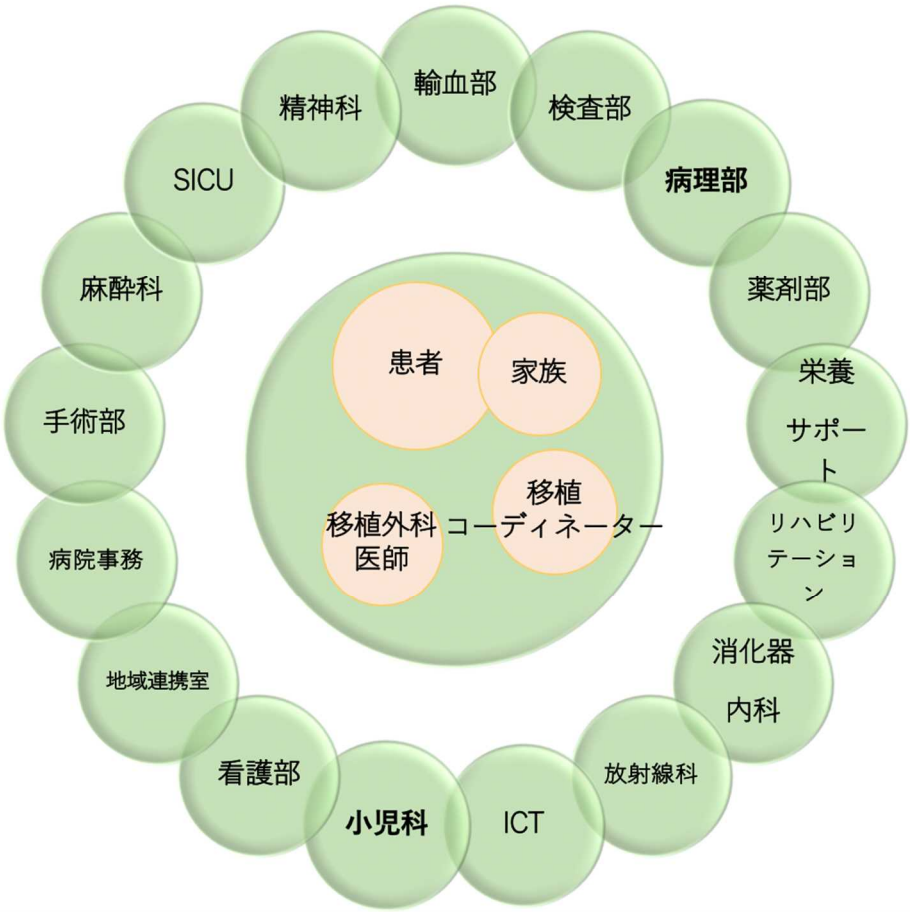
図 1．肝移植とチーム医療